

The cover features a light beige background with a green vine pattern. The word "Spring" is written in a large, dark blue, cursive font. Below it, "No. 1" is written in a smaller, dark blue, cursive font. At the bottom, the text "大阪府立大手前高校自治会" is printed in a dark green, sans-serif font. A small red flower is visible at the top center.

# Spring

No. 1

大阪府立大手前高校自治会

目次

卷頭言

クラブ活動へのすすめ……………2

学校長 佐藤一男

新入生諸君に……………4

(生活指導) 福田信治

(自治会顧問) 宮崎重利

(文芸部顧問) 福島有光

座談会

高校生活と

クラブ・自治会活動……………6

クラブ紹介

B.S.S部	12	社会科学研究部	23	ラグビー部	31	卓球部	39
映画研究部	14	新開部	24	陸上競技部	31	硬式テニス部	40
弁論部	15	理化研究部	25	登山部	32	水泳部	42
音楽部	16	文芸部	26	硬式野球部	33	軟式テニス部	42
美術部	17	書道部	28	柔道部	34	女子バレーボール部	43
地歴部	18	放送部	28	男子バスケット部	35	男子ソフト部	44
演劇部	20	図書部	29	男子バレーボール部	36	ダンス部	45
写真部	21	軽音楽同好会	30	軟式野球部	37	女子バスケット部	45
生物部	22			サッカー部	38	女子ソフト部	46

クラブ関係資料 ..... 49

自治会とはこんなもの ..... 52

先生の高校生活——懐しい昔の思い出 ..... 57

朝田嘉蔵 ..... 57

石山直一 ..... 60



斑鳩の里 (大和古寺見学記) ..... 62

発表 新しい意味の弁論 ..... 70

弁論部 杉本与里子 ..... 70

地歴部 亨野文子 ..... 62

クラブ研究発表

斑鳩の里 (大和古寺見学記) .....	地歴部 寺野文子	62
新しい意味の弁論 .....	弁論部 杉本与里子	70
小説『男の話』 .....	文芸部 杉岡正敏	66
ブリジストン美術館展を見て .....	美術部 中井 晨	73
ゑの中に含まれる不純物の研究 .....		9
英語 劇 [A Cried Red Oriel] .....		1

一般投稿

読後感想

フランソワーズ・サガン 作

「悲しみよこんにちは」..... 一年 杉本与里子 75

堀辰雄 作

「風立ちぬ」..... 二年 早川洋治 77

随筆

散歩 池と春夏秋冬..... 一年 Y・S 生 78

創立20年の輝く伝統と実績を誇る

学校  
法人

# 日本予備校

完璧の教授陣 合格率最高

◎ 入学期 四月十日

編成

◎ 総合受験科

居間部

文理科別  
两科合併組 (八時半～三時半)  
学力別

◎ 高校二、三年在學生講座

二、三年各組共

(毎日午後四時半～六時)

日、土専攻科

(土) 午後一時～五時  
(日) 午前十時～五時

講師 京阪神一流大学教授 責任指導

每週一回 英数実力テスト

毎月一回 公開模擬試験

特典 国・私鉄学割  
寮設備 (男女別) 完備  
交通至便 市電「上六」交叉点北一丁東入る

大阪市天王寺区上本町5丁目4

TEL (05) 8851~2

祝 御入学・御進学

制服の御用命は

大手前高校御指定の

ノムラへ

大阪市北区大工町2-1

TEL (35) 3450

近代人のメガネ

コンタクト・レンズ

~~~~~  
説明書進呈  
~~~~~

大阪コンタクト・レンズ研究所

市電谷六電停北の辻東へ直ぐ TEL (94) 2765・2166

おゝ雲雀

高野辰之

おゝ雲雀

高くまた軽く

何をか歌う

天の恵

地の栄

それを称えて歌い

そをことほぎ歌う

恵称え

栄寿きて歌う。



# クラブ活動へのすすめ

学校長 佐藤一男

青年時代には人間は肉体の上でも精神の上でも盛んに発育して行きます。子供の幼稚な身体が年毎に、月毎に生長して、やがて成人のたくましい体格にと成熟して行きます。体格が発達すると同時に、内臓諸機関や神経も一人前の成人として十分に発育を遂げます。精神も、亦肉体の生育につれて急速に生長し、子供時代の無自覚な状態から自主独立の人格として行動するに十分な自我の自覚にまで到達します。青年時代は人間の一生のうちで嬰兒期と共に変化の最も大きい、生育の一番盛んな時期であると云われています。こうした発育の激しい時期に人がどんな生活をするかということは、その人の一生に大きな影響を与えます。人間の一生の生活の基盤である肉体も精神も、その基礎は青年期の発育によつて出来まますので、青年期の暮し振り、生活の内容はわれわれの一生にとつて極めて重要なものと云わなければなりません。

ある人が肩の骨を折つて、片腕を首に吊つていました。それが二カ月ばかり続きました。こんど折れた骨がなおつて吊つていた腕を放しました。ところが腕が動きませんでした。肩はなおりましたが、腕を吊つたまま長い間動かさないうちのために、腕の関節が動かなくなつていました。その人は長いことかゝつて、かたまつた関節を少しずつ少しずつほぐして行かねばなりませんでした。

この例でよくわかるように、人間の肉体でも、精神でも、使うことによつて発育し、使わないで放つて置けば次第に退化して行きます。発育の盛んであるべき青年期に円満な生育を遂げるためには、われわれは身体や心の各部を十分に使わなければなりません。練習とか鍛錬とかは心身の発育を計るために心身を計画的に使うことを云うのでしよう。高等学校の正規の教科は青年期にあるみなさんの心身の円満な生長を促すために編成されたものでありますので、



定められた学科の学習に十分な努力を払うことがみなさんの生長の為に必要なことは勿論であります。然し乍ら、正規の教科を十分に学習しさえすれば十分であるかといいますがとそれだけでは不十分なであります。定められている学科は、謂わば与えられたものであり、課されたものであります、総ての学科の学習がいつでも常に面白く楽しいとは限りません。楽しいかどうかは別問題として学ばねばならないので学ぶのだといったような性質のものであります。

こうした教科の学習の外に、あることが自分は好きであり、面白そうだからそれをやつて見るといったような体験も欠くことはできません。みなさんの生活はただ努力だけで塗りつぶされたものであつてはなりません、自分の好むことに自主的に打ち込んで行く楽しさで豊かにされなければならぬと思います。しかも学習は自分だけで学ぶ孤独な傾向が強いのですが、自分の好きなこと、楽しいことをやつて行くには必ず同好の友があつてクラブを組織して共同でやつて行くことになり、孤立的ではなく志を同じくする人々との自主的な共同生活であります、こうした

た生活の体験は青年の円満な生長の為に欠くことができなものである、又その生活を豊かなるおいあるものにする為にならなければならない要素であります。小学校から大学を経て世に出た多くの人々の経験では一生の友が出来るのは高校時代であり、高校のクラブ活動のうちに眞の友を得たということです。人生の最高の宝物ともいふべき友情はクラブ活動の共同生活のうちに生れて来るでありましょう。

クラブ活動をやつていたら正課の学習がおろそかになりはしないか。勿論そういう場合もあります、然し必ずそうなるに決つていないものには絶対ありません。

それどころか、高校で眞に立派な成績をあげた人は大抵の場合クラブ活動や自治会活動に熱心な人でありました。要は学習とクラブ活動に費すべき時間を予め計畫し、その計畫に従つて二つのものを適度に調和させ、時間の浪費を避けて一日の生活の能率を最高にして行くよう工夫すべきであります。

私はみなさんがそうした生活設計をし、それを日々実践して行く実力を持つていられることを信じます。

# 高校生活とクラブ

## 特集

ゆゆゆゆ

ゆゆゆゆ

新入生諸君、御入学お目出とう。  
わき出る喜びと共に新しい高校生活  
を色々想像し、希望に胸ふくら  
ませておられるでしょう。

そして、どうして楽しい有意義な  
高校生活を送ろうかと考えておら  
れる事と思います。

その為には高校生活の内容を熟知  
する事が大切です、色々な問題  
点をつかむ事が必要です。そこで  
その一端であるクラブ活動につい  
てここに「高校生活とクラブ」を  
特集しました。先生の意見、座談  
会、そして個々のクラブ紹介から  
なるこの特集が、少しでもクラブ  
の正しい認識を持つ事のたすけと  
なれば幸いです。

尚、クラブ紹介は各クラブで活動  
している本人に書いてもらったた  
め若干宣伝要素もふくんでいるか  
もしれません。

## 新入生諸君に希望する

生活指導部 稲田信治

高等学校では中学校の時よりも、高度な内容を持ち、ま  
た分化されたクラブ活動が、一層自主的な運営のもとに行  
われていますが、これらのクラブ活動への参加に当つて次  
のような事項を希望したいと思います。

1. 健康に対する考慮。特に運動クラブへの参加に当つては健康診断は是非受けて下さい。自分の体力について合理的な認識を持ち、クラブ活動の為に病気になるということのないように注意しなければなりません。
  2. 個性への適応。各自の個性に合ったクラブを選び、その一層の伸張をはかることが望ましいことです。
  3. 必要性への配慮。自己の将来の必要性をよく考えて選択することも大切でしょう。
  4. 活動の能率化。限られた時間内に最大限の活動を行い、その能率化をはかることはクラブ活動に限らず、我々の近代生活にとつて欠くことのできない生活態度と云えます。このようにしてこそ、多忙な学習生活との両立も可能となるのではないのでしょうか。
- どうか、以上のような点をよく考え、上級生諸君、担任の先生、クラブ顧問の先生方とも十分相談し、クラブ活動への参加によつて、一層充実した高等学校生活をおくるように希望したいと思います。

## 自治会顧問 宮崎 重利

自治活動、クラブ活動が、高校生活にとつて欠く事の出来ない有義な存在であることは今更論するまでもありません。しかしながら新入生諸君は自分の置かれている現状も、正しく認識する必要があります。現状とは激しい大学入試の競争率、就職難等を背景として、生徒の本分である正規の学業に精励する事でありませう。学業を犠牲にしての自治会活動、クラブ活動は健全とは認められません。ここに於て両者の両立は存在し得るや否やの疑問を抱く人も少なくないでしょう。種々の見解があると思われませんが、私は勿論限度はありますが、必ず両立するものと信じております。しかしながら両立させるためには次の様な条件が必要ではないでしょうか。

1. 自治会活動、クラブ活動の必要性、意義を十二分に認識した上でそれに参加するという強い積極的な意志と意欲であります。目前の困難、悪条件に屈する事なく、一歩でも二歩でも近づかんとする勇氣です。

2. 合理的な活動をする事です。延々と時間のみ長びく無計画な活動は止めましょう。例え、時間は短くとも活動に全て情熱をそそぎ合理的な計画により、勝れた成果を期すべきです。

以上御参考迄に申し述べましたが、要は一人でも多く参加され、有義な高校生活、生命の完全燃焼を期待致します。

## 文芸部顧問 福島 有光

私が顧問教官を委嘱されている文芸部について特に感じていることは、クラブ活動全般について云えることであるが、個人と全体との関係である。文学の創作は、強烈な個性を必要とする。個々の人間の絶対者に対する飽くなき問いかけが、よき文学の根底に必ず何等かの形で存在するのである。その際、その創造の場に、他人の介在は無意味である。そういう性格を持つ文芸活動が、クラブという集団として行動するのはどういふことか。

個々の孤独な魂に団結を要求することはどういふことなのであるか。団結が個性を圧殺するとすれば、クラブ活動に弊害ありといわねばならぬ。

これは文芸部美術部等に端的に現われてはいるが、すべてのクラブ活動について考えられねばならない。

全体が個人を生かし、個人が全体を生かすような有機的相互関係が要求されるのであつて、困難であるが絶対に無視出来ぬ問題である。

鋭い思索を切望して止まない。

# 高校生生活と

## クラブ、自治会活動

——先輩に聞く——



山口 高弘 (二年 弁論部 自治会) 吉田 篤彦 (二年 自治会)

中村 作二郎 (二年 排球部) 横田 捷宏 (二年 BSS 自治会)

山脇 貞司 (二年 自治会) 戸田 幹雄 (二年 地歴部 自治会)

杉本 与里子 (二年 弁論部 BSS) 清水 美那子 (二年 BSS 音楽)

**編集部** 新入生の諸君はすでに小中学校において自治会あるいはクラブ活動をしてこられ、それらがどのようなものであるかは一応おわかりと思いますが、高校、それも名門大

手前のそれらについてはまだ何もご存知ないことでしよう。今日お集りいただきました皆さんは、現在もそうですが、それぞれの分野において立派に活躍してこられました。ただ、それだけに高校生活と自治会やクラブの問題についていろいろと真剣に考えておられる

ことと思えます。そこで今日は、新入生諸君に自治会・クラブの活動を紹介する意味で、その御体験を通じて感じられたこと、あるいは、こういう問題をこういうふうに解決出来ないかというような御意見をお話して頂きたいと思います。

山口君には司会を兼ねてお願いします。

どんな動機からクラブ活動

や自治会活動を始めたか。

山口 今日のお話の中心はやはり自治会・クラブ活動ですが、それと同時に現在の学校生活についてどんな点をどういうふうに育ててゆくか、あるいは、どのように改善してゆかかについても併せてうかがいたいと思えます。順序として先ず自治会・クラブ活動の問題から入って行きましょう。

まず、入部の動機、あるいは、自治会役員になられた動機についてお話をうかがいましょう。

手前のそれらについてはまだ何もご

いていろいろと真剣に考えておられる

うかがいましょう。

中村 私は、文化系のクラブの人には失礼ですけども元来性に合いませんので、クラブに入るなら運動系だと思つて入つたわけです。それに先輩から勧誘されたせいもありますが。

山口 ずい分乱暴な入り方ですねそれは一般的ではないでしょうね

中村 他の人がどうして入つたのか知りませんが、僕のはあまりお勧めできるようなものでないことは確かです。

横田 僕は中学時代から英語が特に好きだったので、高校に入つたらどんなことがあつてもB・S・Sに入ろうと心に決めていたんです。運動系にも入りたかつたんですが、まあ一学期の間は……と思つているうちにB・S・Sが抜けられなくなつて、ついに現在に至るまでB・S・Sで通してきました。結局好きでやつてるわけです。

戸田 僕は現在地歴部に入つてい

るんですが、僕は中学時代から社会学方面が非常に好きだつたし、クラブ紹介の時の地歴部が大変ユーモラスに思えたので入つたわけです。

山口 一つのクラブをやり通す人はやはり好きでやつておられますね

中村 さつき「乱暴」つて云われましてけれど（笑声）又僕も一応認めますが、やはりバレーは中学時代から好きで、クラブにも入つていたんです。

清水 私はね、中学校の時は英語はきらいだつたのですが、ある人のすゝめで仕方なくB・S・Sに入つたのです。私は私なりに頑張つていますとだんだん英語が好きになつてきてB・S・Sにも愛着を感じるようになったんです。

又、二学期になると音楽の趣味がないのが非常にさびしくなつてきたので、音楽部にも入りました。

山口 では清水さんはクラブに心のよりどころを求めようと思つたので、山脇君は始めはB・S・S

Bに入つておられて現在はやめておられますが、その動機をちよつと……。

山脇 自分は英語はきらいではなかつたので、英会話が自由にできれば楽しいだろうと思つて入つたんですが、私はもともと性質が内攻的なので気はずかしくてクラブが気づまりになつてきたのです。クラブは楽しむためにあるものだと思いますので、楽しくなくなつたからあつさりやめたわけです。

山口 吉田君は自治会の役員を一年間やつてこられましたか、始めはどういう気持でなられたんですか。

吉田 一年間の生活で大手前の空気もわかつてくると、やつぱり大手前にも改善すべきものがあると感じていたんですが、一つやつてやろうというような意気をもつているものがないように見えましたので、大手前の緑の下の力持ちになるつもりでやつたのです。

どんな収獲があつたか

山口 今まで、それぞれの活動に入

られた動機をお伺いしたのですが、次に自治会やクラブ活動で得られたもの、ためになったこととか、悩まれたことなどお話ししていただきたいんですが。

僕の場合を云わせていただきますと、受験一本の高校生活にうるおいを与えることができたということです。それに、多くの人に接したことは非常に勉強になりました。

戸田 楽しかったことといえば、文化祭の時などにみんなで絵を書いたり模型を作ったりして大いに動きまわったことですね。その間に、先生や先輩からいろいろなことを自然と教えられておりました。

又、日本資料集などをクラブで作成して、それを全校生徒に使っていたことは縁の下の方持ちにも努力の報いはうれしいものでまったく感激しました。

中村 僕がバレー部に入ってからもう丸二年になりますが、勉強にな

ったことといえば、中学時代に欠けていたチーム・ワークの尊さというものを体得したことでですね。人間が社会生活を営む以上、これは普遍的なものだと思います。

僕はずつとこの部の部長をしているんですが、部長をしていて学んだことは、人間というものはわがままなものだということですね。

特に大手前生はそうです。事をやろうとすればまず自己を抑制してかからねばならない。相手をも自分をも傷つけることなく共に愉快にやってみよう。そういうことによつてその人の人格は向上してゆくのだと思います。

山口 一クラブ員として……。

清水 私は他人との交際は望んでいなかったのですが、クラブに入つていろいろの人に接してみると本当に楽しくなりました。

「朱に交われれば赤くなる」といいますが、大手前にはこの「朱」にあたる人がいないから安心してやってみよう。

又、その接する人の生活態度とか、その他の長所も分つて、自分もそれに知らぬ間に感化されていることもありました。

吉田 役員をやっていると、事務的なことの処理が巧みになるのは事実ですが、それよりもつと大切な、何故ならば民主的な社会生活を営むのに必須のものですから、批判精神というのが養われると思います。

それから必然的に社会に対する認識も深められます。具体的にいいますと、新聞一つ見てもその中に機械的に列された事柄が生けるものとして私達の目に映つてくるでしようし、あらゆる事象の陰にひそむ人間の努力に敬意を払うようになるでしよう。

横田 僕はね、始めは女の人の前に立つだけでもはずかしくてね、用件だけをぼそぼそと云うだけでしたけれど、一学期、二学期とたつにつれ、何でもなくなつてきました。こういうところから男女の相互の理解というものも生

れてくるのではないですか。

山口 自治会やクラブの活動をしている、今お話されたような利点があるのはたしかだと思えますが、ところで、こうした活動をしていない人はどうでしょうか。

横田 勿論、教室においてでも、男女間の相互の理解がなされないとはいえませんが、又なされるべきなんです。やはり大部分の人は不自然な態度をとっていると思えます。

#### 学習と両立するか

山口 自治会やクラブ活動を通してためになつたことはいろいろとお聞きしましたが、どういふ点で悩んでいるかということもあればお話願いたいと思います。(沈黙)

御意見ないようですね。では、こちらから問題を提出して恐縮なんです。自治会・クラブ活動と学習が両立しないということを訴える者が

いますので、この点に関して……

山脇 僕がクラブをやめたのは、さつきも云つたように勉強と両立しないからというのではないのです。

やめてから一層両立するという感を深くしました。又、現在自治会の役員をしています。又、両立しないということ決してないと思えます。

横田 自治会やクラブ活動を一生懸命やつている者はそれだけ学習もできると思ふんです(笑声)——なんとなれば、それはそのまま彼にあてはまるから)中途半端にやつてうろろしている人は、勉強が心配になつて、両立せえへんのとちがうかなと思案しているうちにどちらもできなくなつてしまふんですね。

一生懸命やつている人は、勉強も一生懸命やつていますね。

自治会やクラブ活動を熱心にやるという事は、根気もあり意志が強いからできるのであつて、そういう人は勉強も必らずできます。

杉本 ある程度どちらも考え合せて計画をうまくやれば両立できると思えます。五時前までクラブ活動をして帰ると十分時間があります。だから両立できると思えます。

横田 両立しないという人は勉強のやり方がへたくそだと思えます。(笑声)  
山口 横田君は勉強ができませんので……。(笑声)

中村 僕も両立するということには賛成します。ただし運動系は文化系とちがつて肉体的に疲れるので、文化系のように簡単にはいきませんよ。(笑声) しかし意志と体力さえあれば十分やれます。結局どちらにしても意志の強い人の勝だということになります。

#### 新入生に一言

山口 もうすでににはつきりしてきたと思えますが、最後に、クラブに入つたりする際の心構えとか、現在学校生活において感じていられることを、ま

とめてお願いします。

中村 始め入部する人は非常に多いんですが一カ月や二カ月でござつと減つてしまふんですね。

二年たつた今ではいつたい何人の人が本当にクラブ活動をやつているかといえばちよつと疑問ですね。

みんななぜクラブに入るのかということをはつきり考えないで入る人が多いからではないんですか。

ふらつと入部して何かおもしろいことがあるだろうかか女の子と遊べるかもしれないからという考えの者が多いように思います。そういう者が入れば当人もおもしろくないし、又クラブの正常な進歩はないと思うんですね。いいかげんな気持であれば始めからクラブとは縁をきつておいた方がいいのではないのですか。

吉田 確かに、自分にとつてプラスになるものをそこに求めるという積極的態度は大切だと思います。

山口 名簿部員ということばがあ

りますが、名簿に名前があるだけで少しも活動しないというのは困りものですね。

戸田 彼等は自分の都合のよい時だけ出てきて少しも部費を払わない(笑声)

杉本 一番自分の興味の持てるころへ入ることです。しかしその場合、いうまでもなく、必らずやるというフアイトが必要です。

横田 まず入る前によくその対象を研究することですね。みんなが入るからといってあわてないでもよい。しかし今度の一年生はこの点全く幸福だよ。自治会発行の案内書ができるんだからな。

山脇 一年の一学期から二学期へ入るころに何かしらクラブがやめたくなるものですよ。しかし、そこを越してしまえばクラブ或いは自治会というものが本当に自分の身についてきます。

吉田 ええ、僕もその経験があります。理研部に入っていたのですが、二

学期になると学習とクラブ活動が両立しないように思えてきたのです。

今から思うと決してそうではなくてやはりやり方がまずかつたのですね。

山口 そうした気になるといふのは学校にも責任があるのではないですか。

戸田 ええ、受験一本の教育方針ですね。

清水 クラブ・自治会は決してそうしたもののからの逃避ではありません。それ自体立派に成り立つてゆくものなのです。

山脇 現在の学校の状態が決して正常なものでないことはたしかです。又矛盾だらけです。現代の学生は無気力だといわれますが、少くとも私達はそうでありたくありません。矛盾につき当ればよくそれを考えのりこえてゆきたいものですね。

山口 いろいろと有意義なお話を伺つてきましたが高校生活においてはとにかくフアイトを持ち積極的にやつて行くということが大切なわけですね。



山口 名簿部員ということばがある。す。理研部に入つていたのですが、二 吉田 ええ、僕もその経験がありま にかくフアイトを持ち、積極的にやつて 行くということが大切なわけですね。

編集部 長い間どうもありがとうございます。

新入生諸君は大いに参考にしていた

だけると思います。



### 取扱品御案内

#### 本校指定 体育用

男子 体操帽子、トレーニングシャツ  
トレーニング長パンツ及び短パ  
ンツ

女子 トレーニングパンツ、上衣  
キューロツト

校章入りノート及び参考書各種、運動靴  
並に女子用パレーシユーズ、下駄箱用文  
字合せ錠、校章入り皮鞆、其他必要文具  
品

当給品部は3月21日より30日迄毎日  
午後1時迄開けておりますから新学期用  
品は是非此の間に御買上げ下さい。

校内給品部

### 豆 知 識

運動不足がちな大手前生にとつて、昼食時、放課後は貴重な時間である。  
昼と放課後二十五分間は運動クラブに入っていない生徒が運動場を使用でき体育具を  
借用できる。テニス・サッカー・バレー・バスケット・バトミントン等の用具を体育研  
究室で借出してもらるのである。その時用具をもちだせば生徒手帳をおいておくの  
がきまりである。尚、昼の時間男子はバトミントン用具を女子の為に使わぬ習慣、  
大手前男子のエチケットがある。

# クラブ紹介

## 文化系の部

高校時代は人生において最も若々しく、楽しい時期である。人の思想及び人格の根本はすべてこの時代につくられる。そしてクラブ活動がその中で大きな役割を果たしているのは事実である。ここでは本校の全クラブの大体を概略的に紹介しようと思う、幾分か宣伝的要素も混つてはいるが、諸君が自分の入るべきクラブを選ばれるに際して良き資料となるだろう。

### E. S. S.

E. S. S.、この三つの字が、急に君達の眼に止る様になり、何かしら好奇心を持たれた事だろうが、一体どういう意味なのか御存知だろうか。

English Speaking Society (英語をしゃべる会)が本当の名前です。君達はこれまで三年間英語を学んでき、又これから少くとも

もう三年間英語を学ばれるわけで、君達の英語力は今君達が想像もつかない程の進歩をとげるに違いない。私は今英語力という言葉を使つたが、残念ながらこれに限定を与えなければならぬ。即ち、それはある程度かたよつたものであるということである。ここで、語学学習の要素を考えてみると、「話すこと(聞くことも含む)」「読むこと」

「書くこと」の三つがあげられる。しかし、現在我々が受けている英語教育には最も基本的な、そして最も重要な「話すこと」が殆んど行われていないのである。外人に恵ま

れていないせいでもあるが、英語の先生が授業中に英語をしゃべらないというようなコツケイな現象のためでもある。しかしながら我々にしても六年間、いや大学の四年を加えて十年以上も英語を勉強していながら、日常の会話すらできないとなると、アワレなことになりかねない。いやこれ以上になさけないことはない。

私達のE. S. S.がこの英語教育の欠陥を補い、英語学習の促進をはかるものであるといつても過言ではないと思う。今更話すことの重要性について説く必要もないと思うが、ひとつ映画の中の英語について考えてみよう。君達の中にも洋画(特に米英画)の好きな人が多いと思うが、あの日本独特の字幕に頼らずに見ることのできる人はおそれないだろう。ところがあの字幕にあらわれているものをシナリオ等でしらべてみると、確かなところ実際話されている英語の殆位しかないのである。その上、書かれた会話

語すこと」が死んど行われていないのである。外人に恵ま

をよむのと、実際に話しているのを聞くのとでは、そこに  
非常な理解の程度の相違があるのは君達もおわかりになる  
だろう。

次に我々の眼を世界における日本の位置というものに向  
けてみよう。この小さな島国では、どうしても自国だけで  
は存続することができない。広く海外諸国に頼らねばなら  
ない。この島国の運命を担っている我々青年層にとつて今  
や殆んど世界語となつてゐる英語を自由に駆使すべく努力  
することは当然の事であらう。BOOK READER ではなく  
本当に生きた英語を楽しみながら学ぶ、これが E・S・S  
のモットーである。

君達の中にも外国へ留学したいと思つてゐる人は多いと  
思うが、私達 E・S・S 部員もどうせ英会話をやるのなら  
一度はアメリカへでも留学しなければとほりきつてゐる。  
E・S・S 史の先端で活躍され、現在本校で英語を教えて  
おられる小泉先生は、本校が男女共学になつた最初の卒業  
生で、大学卒業後はミシガン大学で二年間勉強してこられ  
ました。海外留学の道はたくさんあるだろうが、私達の間  
で最もよく知られてゐるのは、A・F・S (American  
Field Service) の留学制度です。A・F・S は第二次大戦  
中戦場で負傷者の救助に活躍したアメリカの団体ですが、  
戦後は目下その団体の資金で、毎年世界各国の高校生を招  
き、各国間の親善と理解を深め、世界平和の実現をめざし

いる英語の地位しかないのである。その上、書かれた会話

て活躍してゐる。君達の四年先輩の布さんは、この留学試  
験にパスし、在学中一年間アメリカで勉強してこられた。  
むこうでは、中流家庭の家族の一員として生活し、アメリ  
カの高校生活を楽しみ、一方では日本紹介の為に努める。  
ではここで E・S・S の活動について述べてみよう。

1. 練習会 (火) Mr. Shepherd による発音指導及び会話  
練習。

(木) Free Conversation 即ちたとえ片言でも英語で  
雑談や討論をし、歌なども加えて楽しくする。

(土) ティブルレコードを使つて主に Reading を練習する。  
自分の声を吹き込んで皆で批評するのも楽しい。

2. 外人招待 あらゆる方面から外人を探し出し、E・S・S  
に招待してお茶とお菓子で歓談する。最近では二月に、  
世界中を EMORY UNIVERSITY 中のドイツ大学生を招待して  
部員外の人も一緒にスライドを見ながら楽しんだ。

3. 文化祭 (毎年英語劇をやつてゐる)

4. クラブ研究発表会 昨年は自作自演の英語劇を一年生  
を中心にしてやつた (研究篇を参照)

5. 校内英語弁論大会 各クラスより一人ずつ出してもらい  
本校の英語の先生全員が審査にあたる。

6. 交歓会 北野、住吉、旭等の E・S・S と英会話を通  
じて交歓する

7. クリスマス・パーティー 英日語のチャンポンで。

8. ハイキング 部員の結合を目的に、自然に入りこむ

9. ハンティング こういつても猟に行くのではない。個人的にだが、お向いの大阪城公園を、外人を求めて歩き回ることです。最初は話しかけるのに大分勇気がいるが、慣れば何でもなくなる。部員の中にはこの道のベテランもいるから秘術を伝授してもらおうといだらう。

以上で活動の概略を示したが、ここに我々が当然すべきことであつていまだ完全に出来ないことが一つある。それは部室内では英語でしゃべるといふことである。緊張している間はうまくいくのだが、話はずんでいるといつの間にか日本語になつてしまふ。しかしそれでもいいと思つてゐる。

最後に入部を希望される方に一言。毎年好奇心にかられて多くの新入部員が出来るのだが、あまり長続きしないようだ。我々は数よりも本当に英語が好きな少数の人をまつている。入部して努力すれば、英語の実力も大いにつくが、ただ英語の点数を上げる為に入らうなどと思つている人に対しては入部を勧めかねる。英語を楽しみ、もつともつと英語を好きになりたいと思つている人には、他のどのクラブよりも素晴らしいクラブであると確信する。

尚、入部希望者は、なるべく早く、三階の南側、音楽室奥の部室長屋のB・B・B部室まで申し込みに来て下さい。

## 映画研究部

三階被服二番教室の一きわ目を引くあてやかな映画ポスター。吾々が大手前映画研究部、通称「エイケン」部はここを根城に大手前千二百生徒の知性と教養の向上を願ひ日々活躍している。週一回の定例批評会に於ける優秀映画選出、演技、監督、音楽、カメラ、美術、又原作、シナリオ等に対する種々の発言は、部員の観賞力のバロメーターとなり、その進歩を示している。月一回の映画音楽のレコードコンサート（

一般歡迎の場合もある）、不定期ではあるが試写会への参加、撮影所見学等の特典にもかかわらず、現在三年生十名、二年生三名と部員不足を印している所以は、あくまで学校全体を主体として娯楽面に欠ける事であらうと思われが、それ故に「学生としてやりがいのあるクラブ活動である」と云える。又一部では、この点を改善する動きも見られ親しめるクラブとして鳴らす日も間近い事と思われる。

多年部員一同の念願として来た8ミリシネを中心とした映画製作も、新入部員の加入と共に、実現せんものと思ふ欲をもやし、近頃の部員の活動には全く目を見張るものがある。

又「日本映画のあり方」等と云う漸新的な課題を設けてその活動範囲をより拡大し、部員の情操をより高める計画も立てられており、今や新入部員を迎える順備万全、映画

も立てられており、今や新入部員を迎える順備万全、映画

は云うまでもなく、映画音楽、カメラ、演技等に興味のある人、あるいは文学的な感覚に富む人、もしくは、そのいづれにもあてはまらなくても「ちよつと、面白そうなクラブだな」と思われた人は一度部室へ来て下さい  
吾々の大手前の誇る「エイケン」部への諸君の御加入を部員一同、感謝をもつて迎える次第である。

## 弁論部

ご入学おめでと。

君達は今この大手前高校に入学して、どんな事をやろうと思つていますか。一生懸命に勉強しようと思つているでしょうか。勉強？勿論結構です。でも勉強と同じくらいに大切なことがあるのを知っていますか。それはクラブ活動です。ところでそのクラブ活動に弁論部へ入ろうと思つている人はおそらく少ないでしょう。それは何故か。まず君達が弁論というものは大きな声の持主、心臓の強い人でなければできないものだと思つてゐるからです。昔は登壇するや否や演壇を「ドン」とたたき「諸君！我々は……」等と大声をはり上げたものでした。しかしそれでは長い時間の弁論が出来ないので、この頃では静かな弁論がさげられるようになりまし。文明の発達がマイクの使用を可能にしたのも原因の一つです。

心臓が初めから強い人はいないでしょう。

私達は経験と練習によつて人の前

で自分の思つてゐる事

が即座に云える様になるのです。

君達の中

には「雄弁は銀、沈黙は金。」と

いう言葉があるではないかと言つて

しよう。勿論

いらないベ

チャクチ

君達が立派な演説を聞いて私もあんなにしゃべれたらなあと思つた事があるでしょう。人に尋ねられてどぎまぎしてゐる時に、うまく話せる人を思

つたことがあるでしょう。

# 古本全般売買 天牛本店

大阪市南区道頓堀中座前  
電 (75) 2758 番

私達も入学した時はそうでした。しかし今では全校生徒の目の前で弁論をやることも出来ますし、演壇に立つてもあまりドキドキしなくなり大へん喜んでいきます。

弁論部の活動は一週一度月曜日だけです。私達は自由に討論します。皆んなで題を出しあつて即席弁論をやりまゝ（即席弁論とは原稿を用意しておかないで、出された題について自由に弁論するものです）本を読みます。五月や十一月には弁論大会に参加します。招待状は約三十通程来ます。が、部員が七人ではとても全部は参加できません。他校では女子部員も多数おり、女生徒で入賞する者もおります。昨年私達が持つて帰つた優賞カップは君達の手で返還してもらわねばなりません。返すからにはとり返して来てほしいものです。

弁論大会に参加し、他校の生徒と知り合いになるのも楽しい事で弁論部でなければ出来ない事です。大会の後で行われる批評会は、食事をしながら自分の批評をしてもらつたり、色々な練習方法を紹介してくれるので大へん役に立ちます。

私達は弁論することが一番将来のために大切なことだと思つて弁論部に入りました。そして入つてよかつたと思つています。新しい弁論、静かな弁論、声は小さくとも聴衆の心を引きつける弁論、人の前で何でも話せる話術の研究のために、君達も私達の仲間に入りませんか。私達は君達

に知つてゐる限りの事を教えましょう。

一番大切なことは「弁論はむづかしいものではない」という事です。

多数の参加を期待します。

## 音楽部

音楽部とは何か、もう一歩進めて何をするところか。皆さんはどう考えられますか。唯単に合唱練習をして、何か対外的なもの（例えばコンクール）があれば出場し、その結果いかんにより一喜一憂するのが音楽部の本来の目的の様だと思つてゐるのではないでしょうか。もしそ

うだつたら、もう一度クラブというものを考え直して下さい。クラブ本来の目的は横と縦のつながり、即ち学年の間に起りがちな偏見を取り除き、男女の間にあるへだたりを柔化する事です。又その他、教養を高め……云々とあります。又大手前学生独特の目的には時間中数学、英語でしぼられて、その精力回復、ウツブン晴らしをする所でもあるといえましょう。そして、その目的に最もぬきん出たクラブの一つが音楽部であると、自信を持ちます。何故なら合唱する事により、自然の内に心のヘーモニーが得られ、故に全く自然に前の様な目的がかなえられるわけです。然し現実面も勿論大切です。即ち音楽部であれば出場し

のために、君達も私達の仲間に入りませんか。私達は君達

然し現実面も勿論大切です。即ち音楽部であれば出場し

て立派な成績をおさめることです。現在、本クラブは「毎日コンクール」と「大阪府高校連合音楽会」に参加し、「毎日コンクール」では一度近畿で第二位に入った事もあります。そして一昨年、昨年と続けて入選して、増々充実したクラブに仕上げんとしております。そして今年は大坂放送に私達音楽部の声を電波にのせるまでに至りました。その他、旭高校、清水谷高校、本校の三校による「三校三会」を開く予定もしております。皆さん、一度オペラをしてみたいと思いませんか。若しやろうと自信のある方はどうぞ入部して下さい。きつと皆さんの力で立派なものができるでしょう。

現在、部員数は約四十人。部長、コンダクター、副部長、会計の四役員が部員の皆さんの協力でクラブを運営し、顧問には下村先生がおられます。

下村先生は、現在の東京芸術大学を出られています。そして芸術家にあらがちな、気難しいところがなく、全くきさくない先生です。若し皆さんが何か悩みをもつたなら、先生のところへ持つて行つてごらん下さい。きつと良い決論、もしくは良い方法を見つけて下さるでしょう。

現在、音楽部は、月旺と水旺の放課後と、火旺と木旺の昼食時に練習して

います。

大手前高等学校に於ける皆さんの高校生活を、より思い出深いもの、より有意義なものにする為、皆さんの為に大手前高等学校音楽部の門は皆さんの前に開かれています。どうぞ、音楽に自信のある方、好きな方は、お入り下さい。下村先生以下部員一同、貴君と貴女を待っています。

## 美術部

古代ギリシヤの美と愛の女神ミロのビーナスの像を御存じでしょう。調和と均斉のとれた人間の理想の姿を表わした像です。古代ギリシヤの人々の美に対するひたむきな憧れをひめたあの像です。私達がこれを静かな気持で仰ぎ見るとき、何千年も昔の人々の力と夢が私達の心に波打つてくるのはなぜでしょうか。いつの世の人も、美しいものに憧れる心を持つているからです。私達の黒ダイヤのような二つの瞳は、ひたすら美を求めているではありませんか。この気持があるからこそ人は又、それ故に美しいのです。自由な美しい夢の世界に生きる心は人生のオアシスです。

絵画ほど私達の心を自由に表現出来るものはありません。真白なキャンパスに向かつて、私達の心を表現する為は何があるでしょうか。まず線があります。太い線、細い線、



強い線、きれる様な弱い線……、まがりくねりながら、真直ぐにあるいけとぎれとぎれに……どの線もみな私達の生命の跡です。そして、美しい色——燃える様な赤、青、やさしいピンク、淡い黄色、涼しい水色——、細かいタツチ、あるいは荒々しいタツチで、好きな色をとつて塗ればいいのです。見たまま感じたままに描けばいいのです。何の規則も束縛もありません。何と絵を描く事は楽しい事ではありませんか。何と自由な楽しい世界ではありませんか。

美術部員という皆さんどう感じられますか？セザンヌやゴッホを指す若い画家の卵の様に感じられますか。それは間違いです。美術部に入る事は画家になるためではありません。あくまで高校のクラブ活動です。美術部員はともユーモラスな人ばかりです。窓が藪で被われた、夏涼しく、冬暖かい美術室で、みなこのびのび心を広げています。冬ストーブをかこんで、芸術論の火花を散らして談笑するのも美術部ならではの楽しさです。顧問の浜口先生は画家としても權威ある方で、とても深みのある、誠実で思いやりのある先生です。お年を召されていますが、なかなかセンスは新しく、洪さと気品を備えておられます。

美しい心や夢を表現する楽しさを味わい、入試入試の灰色の青春などという、いやなベールを脱ぎ捨てて、明るい美しい瞳を育てることが出来ます。近代人としてのセンス

を身につけることも大切ですが。どんなに生まれつき美しい乙女でも、ハンサムな青年でも、近代センスのない人は、空っぽで深みのない人です。

美術が趣味だけでなく実生活に与える影響は、近年ますます重視されてきました。建築、装飾、広告、物のデザイン…… 私たちの日常生活を見渡して見ても、何一つ美術に無関係なものはありません。美術は生活を豊かにします。美術は画家だけのものではない時代が来ているのです。

美術的なセンスを身につける事は一般社会人の常識である時代なのです。二つの目を持つている限り造形のもつ美しさやセンスを感じとりたいものです。大手前高校美術部はモダンボーイズエンドガールズを育て上げるクラブのナンバーワンです。どうぞ新入生の皆さん、美しさを求めたい方、楽しい高校生活を送りたい方は、ほんとに気軽に気持ちで美術部に入部して下さい。私達上級生は手をひろげて待つています。

## 地歴部

一年生の皆さん御入学おめでとうございます。当クラブは正式には「地理歴史研究部」といっていますが、主に歴史をやっています。歴史といつても美術史が主のようです。美術史といつても鑑賞が多いようです。二カ月に一度ぐらいに





に掲示板を設置し、主に各地民話の紹介をはじめました。十二月には石生に行き高瀬寺などをみました。めでたく年が明けまして二月には斑鳩へ行き法隆寺、中宮寺などを見学しました。三月には土器の発掘をしました。なお地歴部は本部を社会科研究室（三階中央）においています。みんなおもしろい人ばかり（先生もおもしろい）ですから気軽においで下さい。



## 演劇部

このクラブは、総勢二十人強の小世帯である。実生活の連絡が太くないからなのか、新劇そのものの一般性に乏しいためなのか、新劇愛好者の一員として淋しい気持がする。

だが、このクラブは、人数の少なさを始めとするいろいろな不利をもともしていない。このクラブには一人として専門家は無い。ただ何となく劇が好きだという者のあつまりである。およそ二枚目なんてものはおらず、二枚目半ぐらいから、分類すれば十枚目位まで種々雑多の同居である。それでも皆が開放的で明るく、親しく、思やりのある雰囲気は何処にでも誇れると自負している。このクラブの者は全て仲の良い同胞なのである。

総合芸術たる演劇には、一致団結、チームワークというのが大変大切だ。いや、それは演劇部だけではない。何処のクラブも、又何をするにしても一番大事なことのひとつである。その点においては、今の演劇部は、素晴らしいクラブと云えるであろう。

発表機会は年三四、なるほど演劇部はそれに追われている観を呈している。でもそれでもいいじゃないか。私はそう思っている。学校演劇はプロの演劇とは違う。だから発表会の時、完全なる演技を要求されるわけでもない。発表会の前毎にない中から脚本を捜し、皆の手で刷りあげて、放課後残つて頑張つて稽古する。その発表会まで……皆を追われながら、追つてくるものの中から何かを学びとる。ガリバンの一刷り毎に、稽古の一日毎に、皆知らず知らず大きくなつていつている。学生の純粹、そしてういいういしいフアイトのうゑに出来たものは、たとえ拙なくとも人の心をうつ。自分達は、今まで苦勞してきたものが瞬間瞬間に去つてゆくのをあつけなく思う。しかし、又自分達の創造への喜々たる感慨をも味わう。そして皆は、結果における感慨から走馬燈の様に経過である稽古のことを思い出す。一つの創造までもつてくるには、精神的にも、肉体的にも相当疲勞する。演出家と演技者との出場人物へのイメージの食違ひ、必要なものがないなどいろいろな困難、そして団体活動のむづかしさなどあらゆる試練を経る。

それらの試練はお互いを知るのに役立つ。しかして皆は理解し合い、励まし合い、クラブ精神を身につけ、より良いクラブ形成をめざしているのである。そして我が演劇部では、もう己にそれが成就しているのである。私達に与えられたことは、今の勢囲気を維持していくということである。皆が一人一人の心に規律を持って、お互いに信じあつて  
いる今の状態を……。

新たななる希みと、今までは少し異つた段階への一足に胸をふくらませていゝでゐる皆さんに、私達は経験から学生生活に於ける（高校を卒業して就職なさる方には最後の）クラブ活動というものの素晴らしさ、又その有意義なる事を語る事ができます。精神生活の上にも多大の影響を与えるこのクラブというもの、慎重に選択すべきだと思ひます。なるほど自分の好きなことをやつていれば楽しい。そういうのはつきりした方向を持つておられる方は、躊躇なくそのクラブにとびつかれることでしょう。だが一体自分はどうなクラブに入つたらよいか迷つておられる方、そういう方は、演劇部に入ろうと思つておられる方と共に、我々が誇りとする演劇部に入つて下さい。入つたからといつて劇に出なければならぬ、ということはないのです。入つてこの部の空気を吸つて少しなりとも満ち足りた心地のせぬものはない、一同皆そう思つております。

なお観劇の好きな方のために、観劇券の割引もやつてお

ります。会員制になつておりますが、その時一回だけでも御覧になりたい時は、こちらで都合をつけますので、ぜひ御利用下さい。入会の方法、その他詳細は黒板に掲示しますから見て下さい。

## 写真部

我が校の写真部は現在三十名（女子十名）の部員と顧問教官に物理を担当しておられる清水先生を有しております。また物理研究室と化学研究室との間に暗室を設け主にここで活動しておりますが、活動内容は次のとおりです。

一、校内に於ける活動

α、暗室を使用してのフィルムの現像から印刷紙の焼付けまでの技術習得。特に未経験の者は先輩が部会等に於て技術指導を行い、誰もが活動できる様にしております。

β、作品展 写真部では文化祭とは別に作品展を年に2〜3回開き、自分の作品への自信を高め、かつ他人の作品を觀賞して美術的教養を養う。

γ、部会 週に一回（水曜日）行う。

二、校外に於ける活動

撮影会を学期に一回行い、撮影技術を練磨し、又部内の親睦をはかる事を主とする。

## 生物部

以上のようなものが主なものですが、やはり写真部に於て中心になるのは暗室です。この暗室設備は不十分ですが、初歩の方々にとつては十分です。又近々新しい引伸機を購入して活動範囲を広くする計画です。この写真部へ入部希望の方は物理研究室の清水先生迄申し出て下さい。

又この部に入っていると次の利点があります。その一つに街のD P 屋へ焼付けをたのみますと費用がかさんでしましますが、部員にとつてはD P 屋へたのみ費用の殆ど、しかも自分の思う通りにでき、陰画から陽画への変化が楽しめます。また一つには、自然に近代的な紳士淑女のセンスがそなわつて来ます。それにもましてありがたい事は、自分の顔の修正がきく事です。自分の顔の修正のきくありがたみは部員でないと味えません。諸君の恋人を絶世の美人（または美男子）にするのも諸君の意のままです。すこしくだけすぎましたが、以上の事を賢明な諸君の頭におし込んで写真部へどうぞ入部して下さい。

生物部は昭和二十七年のクラブ発足以来七年にわたる伝統を誇っており、五十八名の先輩と現在十六名の部員を有している。元来「生物」というものは高校で初めて習うので、当然深い知識はなく活動範囲には制限を受けるようにな

る。このために活動を専門的な範囲に及ぼし、立派な成果を期待するのは無理であると思われる。又発足以来生物部では「知識の向上と楽しみ」をモットーとし、クラブ活動を楽しもうとする熱意——この分野への好奇心が部員たる第一の資格として要求されてきたのです。この様な見地から色々な事に手を出して失敗しながらもそれを楽しんでいのが現状です。

活動の場、即ち部室は二階中央生物室の一部に位置し、室内は明るく、考えてみればなかなか趣あるところでは、東側の窓からの大阪城の展望は申し分なく、個人ロッカアの数は二十八で何でも(?)入れておけるだけの余裕はあります。又、勉強に最適と評判の部室は勉強に雑談によく、はては睡眠にもよいという誠に重宝な場所としても自慢できるものです。その上一学年単位の部員数が七、八人なので、お互いの親しさはもとより家庭的な雰囲気の中に不規則ながらも水、土曜日に好きなだけ活動出来る点に又他のクラブと違つた良さがあります。しかしながら適当な（値段と内容が）参考書が殆んどないのが悩みの種で、そのため人間の円熟味に達した松下先生の話を聞いたり、やむを得ない時はやたらに顕微鏡をのぞいて過すことも少なくはないが、結構楽しいのは下手の横好きがなせる所以かも知れない。そして特に今年には昆虫、植物にこだわらずに、化石採集や生態写真等に力を注いで自然博物館に指導をうける方

知識はなく活動範囲には制限を受けるようにな

集や生態写真等に力を注いで自然博物館に指導をうける方

針であり、幾分整ってきた器具や薬品を有効に用いる実験を考えている。これまで生物部の特色を一通りのべてきました。美点の多いのは伝統の關係上専攻として認めて頂くことにして、同好の諸君が多数入部されることを心から願う次第です。最後に最近の活動内容の主なものの項目だけをあげておきます。

一、昆虫、植物、化石採集

一、解剖

一、顕微鏡写真、生態写真

一、プレパレートの製作と顕微鏡観察

一、細菌培養

一、機関紙の発行

一、昆虫、魚類等の飼育と観察

一、鳩、小鳥の飼育

一、施設見学

## 社 研 部

K 中学から本校へ見事現役でパスし、社研部即ち社会科学研究部へ入学したT君の活動状況を書いて、クラブ紹介にかえさせていた。以下にいと存じます。

「大手前に入部して今日で三日目になる。四時限が終った。行儀よく手を洗って弁当をボソボ

ソ食っている。クラスの連中はいたつておとなしい。一言もしやべらずに弁当を食っている。食い終つたあとでも、勉強している。だれも騒いだり、胴馬をやつたりしない。パンカラな中学で育つたオレは面白くないから教室から逃げだした。部室へ行こう。長屋の奥の社研部室は環境が良くない。第一日が当らない。向いは音楽部室だ。ピアノの音や、テノール、バス等が始終鳴っている。しかし窓ガラスが二箇所破れているのは気に入った。

ロッカーから「中央公論」を取り出した。部費はまだ払っていないが、籍を置いた以上当然読む権利はある。「西遊記」を読み出した。オックスと肩をたたかれた。僕の先輩で部長のN氏だった。雑談が始まった。この人は時事問題に詳しいので、今日の「朝日」の社説について説明してもらつた。松川事件について質問した時、広津和朗著「松川事件」を貸してくれた。ベルが鳴つたので教室へ行こうとしたら、会計のK女史に部費五十円を請求された。五十円とはチト高い、と云つたら、予算が少いし、今月は本を少々買いたいし、来週に新人歓迎をするからだ、と答弁してから放課後討論会をするといつていた。

僕が社研部に入部したのに大した理由はない。N氏に、「君は東に筋のおつた事を云うし、よく本を読んでいる立派な考えをもっている」とおだてられて、つられて入部した迄のことだ。五十円の部費で、新聞雑誌がふんだんに

読める。話し相手に不自由していた僕には、持つてこいだ。

そうじをすましてから、部屋に行つた。十四人のメンバーを収容しきれないので、十八番教室ですることになった。議題は天皇制についてだつた。まず二年生のY君が口を切つた。「そもそも天皇というものは、我が日本民族の伝統であつて、たまたま太平洋戦争の時は、それが軍閥に利用されたまでの事で、日本が民主主義になつた現在、その心配はなくなつたから、残しておくべきだ」ただちにN氏が反論した。「天皇は、もとをたどれば大和地方の一豪族であつて、現在の天皇はその子孫といわれているだけで、それが明治、大正時代に非科学的に神話化された。従つて民族的意義は何もない」論争は漫初から面白くなつた。賛否両論がいろいろの方面にわたつて展開されたが、僕は、今まで天皇制について考えたことがなかつたので、黙つて聞いていたが、皇太子妃の事に話が移つた時「もし皇太子が美空ひばりにプロポーズしていたら、どうなつていただろう」と新たな問題を提議してやつた。結論は、たまたま美智子さんがブルジョア家の娘だつたからよかつたので、美空ひばりならおそろくダメだつたらう。ジャーナリズムが騒いだほど民主化されてはいないという事になつた。

四時半になつたので、討論は終つた。結論は、天皇制は廃止すべきだということに落着いたが、まだ多くの問題を残している。今日の討論は大いに参考になつた。今晚、プロ

の中でもう一度ゆっくり考えてみよう。明後日の清水谷との交換討論会でも同じ問題を取り上げることになつた。

今月の機関紙について少々とりきめがあつてから、今日の活動は終つた。五時七分前だつた。」

社研部はかくあるべきで、以上の手記の実現に努力する。

## 新聞部

誰に「バカと煙は……」というのがある。これを基とすると新聞部は、さしずめバカばかりということになる。こんなことを云うには、バカという語の定義からして行かねばならないが、たしかに新聞部には笑わせることの上手な人が多い。軽い皮肉や冗談をとばす。これは新聞部というクラブが持つ独特の、ユーモアに溢れた雰囲気がある。然に部員をそうさせるのかもしれない。

生徒諸君の中には、年がら年中記事ばかり書いて、一ぱしの文士のような顔をしているのが新聞部員だと思つている人がいるようだが、決してそんなものではない。むしろその正反対だと云いたい。皆スポーツを好み、芸術を愛するような人ばかりである。人間的にみても巾の広い心の豊かな人が多く、社会性にも富んでいる人が殆んどです。これはとりも直さず、新聞部での活動が人間の成長を促進するからです。新聞部に入つてみれば一層よくわかると思いますが、新聞の記事をかくには、社会性と教養と大度が大

している。今日の討論は大いに参考になった。今晚、フロ

ますが、新聞の記事をかくには、社会性と教養と大度が大

切です。社会性や教養が欠けると、かうそでも書かない限りニツチもサツチも行きません。つまり記事に自分の想像が入りますからミスが多くなります。大度、つまり心の広さが欠けると、ひねくれた、記事として不適当な文章しか書けません。諸君もかつて一度位は聞いたことがあるでしょう。「文章を書かせてみると、その人の心がすぐわかる」ということを。

逆説的な云い方をしますが、前述のことから我々は新聞部での活動を通して、社会性と教養と人間性を養なおうとするのです。端的に云えば、理想の新聞を作ろうと努力することによつて、人間的成長を狙い、社会性を増そうとするのです。固いことを云いましたが、だからと云つて新聞部に入るのを敬遠してはいけません。新聞の求めているのは、完成した人間ではないのです。未完成の人間なのです。云いかえれば、自分を成長させ、高校生活を樂しみたいなら誰でもよいのです。筆が立つ、立たない、社会性が有る無いなどという問題はならないのです。いや筆が立たなければ立たないだけ、又社会性がなければないだけに新聞部のようなクラブに入つて活動する意義があるので。榮ある大手前の新一年生諸君、自己を成長させたいなら新聞部に來たまえ。

さて、ここでは現在或いは将来新聞部に入ろうと思つていらつしやる人々のために、極く簡単に新聞部の活動状況

活動内容について触れておきましょう。中学校の国語の教科書に新聞のつくり方は、再三載つておりましたから、大事前に來るような諸君には説明する必要がないでしょう。部室は四階。元は屋上への出入口になつていたところ。二つある内、運動場に面した、見晴しのよい方が新聞部室です。発行回数は年八回。三月に二回くらい割合です。

新聞は過去八十五回も発行した伝統あるもので、内容も、三十二年に朝日賞大阪府下高校新聞コンテスト第三位、三十三年近畿六府県高校新聞コンテスト第四位（大阪府下第三位）に入賞するなど着実な成果をあげており、今年も多数の新一年生を迎え入賞を目指して行くつもりです。このような内容が充実し、且つ伝統あるクラブに入る権利を諸君は有しているのです。何をためらうことがあるるか、一年生よ、新聞部に來たまえ。

## 理 研 部

人類は、自分の手で創り上げた星を数え上げるといふ、いわゆる宇宙時代に歩を踏み入れました。しかし、この輝かしい新時代に於いて、この目覚ましい科学技術の進歩を省る時、その陰に、私達は改めて小さな、全く基礎的な既に過去のものとなりつつあるような数知れぬ研究と努力の果積を意識せずにはおられません。

もし、あなたが理化は面白いと考えておられるなら、あなたの入るべきクラブは理研部です。あるいはあなたは理化の面白さを御存じないかも知れません。もしそうならばあなたの入るべきクラブはやはり理研部ということになります。何故なら、あなたは入部することによつて科学の本当の面白さを十分に味わうことを覚えるからです。

さて、私はあなたが入るべきクラブをお教えしましたが、私は理研部の何たるかを御紹介しなければなりません。正式には「理化研究部」と呼び、部員は四十名を教え、内十三名の三年生は、今年度卒業しました。顧問をして下さるのは、化学と物理を担当しておられる中塚先生です。部内は、更に次の五班に分れて活動し、しかも各自は週一回の部会及び研究発表会、又天体観測や機関紙「フエニツクス」に依つて緊密に結びついています。

物理班(ジルコン・ランプを使用してその光学実験や、霧箱の製作と広い分野を研究している)

化学班(今年もカップを！と毎日のように書籍を調べては実験する花形班たる員録十分)

天文班(二年連続の火星観測、日月食、黒点観測と地道な研究に精出している)

電波班(テレビを製作したことのあるこの班は、ステレオの研究と新しさにも敏感)

気象班(天気図を調べたり、毎日毎日文字通り気長にデー

ターを集めていきます)

私はあなたにお知らせしなければならぬことを思い出しました。理研部は、昨年の府・市教育委員会と統亮新聞社主催の第二回学生科学展において「中中の不純物の研究」というテーマと取り組んだ研究が最優秀教育委員会賞を獲得し、記念すべき豪華なカップを授与されました。(内容については他ページ参照)私達は今年は二つのカップを目指して「純水のPHの研究」「 $Al_2O_3$ の研究」という二つのテーマを追つて化学班の活躍が期待されています。天体観測の日にはナポレオンIが復活(?)し、十二月二十五日のニュートン祭には先賢との交歓が行われます。愉快で明るい寮囲気は、又理研部の一面の特徴です。最後に有名なフアラデーの言葉を引用して筆をおきます。

自然界に疑問を投げかけることのできる人は、極めて簡単な機械で、その解答を得ることを知っている。この能力のない人は、恐らく多くの機械を手にしても良い結果は得られまい。

— マイケル・ファラデー —

## 文芸部

よく他の人達に「文芸部だったら、文が上手で、詩が出来るという風な文学少年や少女の集まりなのですか？」と質問されますし、専断そう思っている人がかなりおられる事と思いますが、必ずしもそうではありません。文芸部には



三年の中でも詩や文章を作らない人が大勢います。

けれども彼等はれつきとした文芸部員です。要するに、詩や小説を書く人ばかりの為のクラブではないのです。高校生活の中ですこしでも自分自身をみつめ、自分自身を成長させ、すこやかな明るい知性に満ちた人間になる為に文学を通してお互いに学ぼうというクラブなのです。そんな事を云えば理屈っぽく聞えますが、学年をぬきにしてあなたかい心のふれあいを目的とするクラブなのです。数学や英語で疲れた頭をいやすために、こんな暖かいクラブに入つて週に一度活動するのも悪くはないと心から申し上げます。別に週に一度活動をしたために成績が下るようなことは絶対ありませんし、その上運動クラブにも二つかけもちで入ることも出来ます。文芸部員の半数以上はそうです。

\*活動時間・曜日 部会により毎年四月に決める事になっていますが、今までは週に一回、水曜日となつています。放課後約一時間です。

#### \*活動内容

一、読書会(皆で書名を決めて、その本について感想を気軽に述べて話し合う会。これに参加していると、学校での読書感想文が、苦勞しないで書ける様になります。

二、創作会(日頃感じたことを原稿用紙に卒直にぶつけて、互に発表して意見を交換する会。創作に興味のあるかたはぜひ一度。

三、作家研究会(ある作家についてそれぞれ調べてきてまとめて文化等で発表します。

四、桐文(これは文芸部が年に二回発行する文芸雑誌の事です。先生方をお願いした作品や論文、部員の作品、

そして広く校内から募集した作品を発表する雑誌です。五、ポエム(文芸部員や校内の人の詩を発表するもので、年に三四発行します。これは「桐文」とちがつて印刷屋に出さずに自分達で印刷も製本もします。

\*運営方針 すべて勉強を第一に考えて、無理のない様に活動し、できるだけすべての人が納得のいく様にして、全員が協力してクラブを運営して行きます。

大体以上の様なものですが、春夏秋冬に一度ずつ郊外の空気をクラブ顧問の先生と共に部員一同が味わいに行つて、より一層部員同志を親しくします。もつとくわしくお知りになりたい方は、どうぞ三階被服二番教室に昼休みか放課後おいで下さい。

「読書が好きだ」

「詩が好きだ」

「創作が好きだ」

「話が好きだ」

そんな方は、是非文芸部にどうぞ。部員一同心から歓迎しております。

## 書道部

皆さん高校生活に一日も早く順応したい、いろいろ知りたいとお思いでしょう。そういう皆さんのために、私たち大手前高校書道部は、貴方の趣味をより高く発展させつつ、且つ満足のおくようにして呉れます。

文字の内面にかすかに漂う書者の心を知り、また自から自己を写し出す、……私たち高校生としての生活感情なり思想なりが一個の自己を形成しつつ表現を求め、その表現の場として文字を書く方法を取る。これで書道本来の意は満足されるものではないかしら。だけど書道部は部員との楽しい語らいもあり、家庭的な雰囲気があります。部員一同お待ちしております。

目 標 一、北野高校との交換競争書(六月)

一、本校文化祭(十月)

内 容 一、蘭 亭 叙 一、七草つづり

一、戸外見学 一、その他

活動日及時間 毎週木曜日 放課後一時間半

毎週木曜日には部員一同五番教室に集まり練習しております。楷書から始め行書、草書へと進み、ペン習字も同時に習っています。練習日には一枚以上の清書をし、先生に訂正していただきます。枚数がつる毎に目に見えて上達致します。北野高校との交換会には二校の書風が比較され新たな興味がわいて来ます。夏休み、又冬休みには一層力

を入れて練習し、先生、先輩に来ていただいて指導していただいております。クラブに關してもつと詳しく知りたい方は五番教室へおこし下さい。

## 放送部

文明国家においてマスコミ、特にラジオの重要性は云うまでもない事であり、本校本に於ける放送部の活躍はそれと同程度の重要性を有しております。特に、自治会活動や他のクラブ活動を円滑に行う為の伝達放送は無くしてはならないものであります。又美しい音楽は勉学に疲れた私達を心から慰めてくれます。

現在放送部は、月曜日から金曜日まで毎日昼食時放送活動を行なっています。プログラムはレコード音楽、短篇小説や詩の朗読、自治会及びクラブ便り、時には他のクラブの特別出演などで、テープレコーダーをフルに活用して有意義な活動を行なっています。放送時間は十二時三十分から一時十分まで四十分で、担当は当番制で、全員が交替します。勿論全員がすべての番組に協力し、お互いに意見を述べ、励まし合います。部内は非常にまとまり、家庭的雰囲気、部室はいつも笑いで満ちています。諸君の中には放送部というと、専門的な難かしいものだと考えている人もおられるでしょうが、決してそんなものではなく、どんな

新たな興味がおいて来ます。夏休み、又冬休みには一層力

人でも入部したその日から、皆と同じく充分活動できます。機械も、少しもむつかしくなく、今までの様なものに縁のなかつた人もすぐにいじる事ができます。勿論新入部者には先輩達が懇切丁寧に指導いたします。

さて、放送部の利点を述べてみますと、まず時間の問題があります。クラブ活動がいかに重要であるとはいえ、学生の本分に多大の影響を与えるような活動は余り感心いたしません。その点放送部は、時間的に何のさし障りもありません。つまり他のクラブが主として放課後活動するのに対して、放送部は昼食時であるということです。放課後放送したつて、誰も聞いてくれないのですから。又放送部の活動は非常に範囲が広いので、自分の好きな事ができます。新しい分野を自ら開拓していくよろこびを味わう事ができます。自分の趣味を充分生かす事ができます。又マイク・ロフオンの前で自由に話すことのできる度胸を養い、音に關して鋭敏になり、技術方面では、簡単な機械の修理や製作の技術を身につける事ができます。いずれも将来大いに役立つことと思えます。

以上放送部について簡単に紹介しましたが、私達は諸君が一人でも多く放送部に入部されて大いに活躍される事を心から望んでおります。入部された方は、一カ月程度養成期間として、先輩の助手を努めていただいて、その後にはアナウンサーでも技術者でも自分の希望通り行なつていただき

おられるでしょうが、決してそんなものではなく、どんな

ます。入部資格は、大手前生であればよろしい。そして諸君はすべてその資格をもつておられます。勿論のこと男女を問いません。放送部に入部希望の方は、いつでも結構ですから放送室の戸にひつかかつているポストに、クラスと氏名を明記した紙片を投函して下さい。放送室は、本館から別館への渡り廊下の本館側にあります。

では、一人でも多くの人が入部されることを……。

## 図書部

図書館というのは、どこの学校にもあるものである。と云うより、なくてはならないものでもあります。と云うのは、本を読むことは教養を高めるための一つの重要な手段だからであります。だから大手前図書館のように、大部分の図書が閉架式である図書館では、貸出係は非常に大きな役割をなしており、その貸出の役をするのが図書部員の主な仕事であります。又三カ月に一回ぐらい館報を発行するぐらいで、あまり仕事がないので他のクラブに入っている人でも十分立派に仕事をつとめていますし、放課後書庫で勉強もできるので大手前生の悩みの種である「勉強とクラブの両立」も解決できます。そして、春と秋の行楽シーズンには、先輩後輩入りまじつてハイキングや飯盒炊爨に出かけるといつたデラックスクラブであります。しかし、クラブ

成果がおもてにはつきりあらわれなせいか、男生徒より女生徒の方がはるかに多く、おしとやかな上品なクラブであります。「成績優秀、性質明朗にして、接待上手なる者を図書部員とするなり」というような規則はどこにもありませんから、誰でも全生徒のためにと思うものは進んで入部されることを希望する。

## 軽音楽同好会

今、本校で一番新しく、若さに満ちた集まりそれは軽音楽同好会の管弦楽団である。そしてここにその軽音楽同好会を皆さんに紹介することが出来ることは大きな喜びでございます。

さて軽音楽と一口に云つてもピンからキリまである。上はシュトラウスやその他有名な作曲家の作品でポピュラーなものなど、下はそこらではやつているヒットメロディー等がそれである。我々の同好会は品のある軽音楽を演奏し、

かつ楽しむ会なのである。この会が発足したのは昨年のもので、数人の同好者をもつて結成されたのであるが、だんだん人数もふえ、内容も充実したものとなつて来た。そして秋の職員会議に於て通過し、正式に軽音楽同好会という名で認められることとなつた。昨年のクラブ研究発表会に於ける初演奏はいたつて好評で、本校の生徒の皆さん

にも軽音楽というものを再認識してもらうことが出来た。又、顧問には黒田先生という非常に熱心な先生をお招きすることが出来た。

(注)同好会とクラブとは本質的に異なり、自治会に属せず自治会予算ももらえず、ただ好きな者のあつまりとして学校から認められたものである。

そこで我々同好会員は、この楽団をクラブ制として認めてもらい、はては本格的な管弦楽団にのびたいと大いに発奮している。楽器(特に弦楽器)の数をもちと増やして定時演奏会の様なものを持つことも計画している。

さて、新一年生の皆さん!皆さんの中には弦楽器、管楽器を持つておられる人が多いと思いますが、ぜひ我々の同好会に入会されて楽団演奏を楽しんで下さい。会員一同は皆さんが一人でも多く来て下さるのを首を長くして待つています。皆さんも同好会内のなごやかな空気にはすぐになじんでいただけると思います。

以下軽音楽同好会の細目をあげます。

部員数 十五名余(現在)

活動日 毎週木曜日(合同練習)

活動場所 本校音楽教室

現在の楽器数

トランペット	……一本
クラリネット	……一本
サクソフォーン	……一本
ヴァイオリン	……三本

## 運動系の部

### ラグビー部

目出たく合格した一年生、及び新二年生の諸君達！時に上を向いて見たまえ、大空高く蹴り上げられた楕円球の群、皆の胸が躍る放課後の運動場である。円陣を作り体操が始まり、次々と走力、耐久力、自信を作る合理的な時間配合の練習が続けられる。さて我がラグビー部は、現在三年が十二人、二年が三人で三年生は受験の為幾人が抜けざるを得ない。それで大いに一・二年の入部を期待している。顧問の先生方は高原、中塚、辰己の三先生でクラブ活動としては最も数の多いクラブの一つで、ラグビー部から、優秀大学へ多く送つたのを自慢にしておられる。先生、先輩、現役の間は親密で夏の合宿では和気あいあいと全く愉快な日々となる。又不思議なことに試合となると決まつたように、姿を見せていなくつた先輩諸兄が集まつて応援に加わるのである。どうして試合のあることを知つたのか分らない。その様にも他のクラブに見あたらない師弟愛ともいえる先輩、後輩の思いやりが流れている。春、夏と基礎的な練習が行われ、二学期が始まる頃からシーズンでぼちぼち練習試合等がしばしば行われる。が目標はあくまで定期戦で、夕陽丘高と長年対戦して来ている。

その成績は、こちらが勝つてゐることが優勝カップに刻まれているが、残念ながら、昨年は借敗をきつして、今年度の部員の活躍を促している訳である。その他公式戦で、全国大会予戦、新人戦がある。フットボールは男性のゲームである。ラグビー程ボールをあつかつて自由な活動の出来るスポーツはないだろう。粗野で乱暴にならない限り相手を押し、突き飛ばして走ることが出来る、持つても蹴つてもよい、そうして如何に相手を抜くことが出来るか、このことに全能力、全体力、全技術を結集して他を忘れる、この様に打ち込んでゲームの虫になる、何事にも没頭する気力が養われる。何をやつても面白くなかつたという者、ラグビー部に入ろう。全部員三〇人を目指している。誇りを持つて、大手前ラグビークラブへ。対称はやはり男性であるが、女性も結構、マスコットのには使命少なからずというところ。練習は一週間に三回が普通、試合前には自主的に皆毎日出て来るし申込みは練習している者なら誰でも申込みめる。高原、中塚、辰己先生の元へ申込みもよし。

### 陸上部

大阪城の堀辺に桜花鞠の春。皆さんが見事難関を突破され、大望を胸に秘めて、迷門我が大手前高校の門をくぐられました事を、心よりお喜び申しあげます。小人よ云う勿れ「府庁の便所」と。ここには永き伝統と昔も今も有用

の人材をはぐくみてやまない、清楚にして広大な桐花の校風があるのです。皆さんのこれからの三年間は、色々の事を見聞し、体験し、心身を練磨して人生の基礎を作るべき時です。『テインエイジャーの心身の練磨は一生役立つ』と、スポーツに若き血をもやした人達が異口同音に云います。三年間の学問の上の苦闘は是非必要です。しかしその苦闘を悠々乗り越え、ゴールインするには、スポーツで鍛えられた心身の支えがこれまた是非とも必要です。我が陸上クラブこそは、皆様に比の大きな贈物を、卒業の時の記念として差上げることができるのです。勉学に疲れてグラウンドに飛び出し、新鮮な大気を一杯に吸い、予備運動をし、先輩の教えに従い自己の技を磨きつつ、一汗かいた後の爽快さは記することが出来ません。我がクラブ個人プレーが主体ですので、他のクラブに比し手軽にできますし、走・投・跳種々の種目があり、自分に適した運動ができるという利点があります。自己の愛する体をみつめ、いたわりつつ鍛練を続けて成長を喜び、且たゆまぬ努力に技を磨く。そこに木当の自分を見出す大きな喜びがあるのです。瞬間に決する競技に於ては、精神統一無我の境、全力を傾倒して走破する時は、そこに何か人生を感得することができます。スタートラインについた出発前の一瞬間、砲丸を手から離す寸前のあの快いまでの緊張感に陸上ならではのものでしょう。個人プレーとはいうものの、夕焼空に茜さ

す校庭に起る、ユニフォームに軽く疲れた体を包んだクラブ員の談笑からしても、決して他のクラブに劣らぬチームワークがとれているのです。校庭に結ばれた清く美しい友情があるのです。

我が陸上クラブでは、当市でもその道の権威者八倉先生を顧問にいたゞき、部員二十余名、和気あいあいと、走・投・跳と夫々恵まれた環境の下で技を練り、心身の鍛練にいそしんでおります。親愛なる新入学諸弟妹の皆さんが入部されますことを私達一同双手を上げて歓迎致します。

## 登山部

山は根気強い勤勉さと、沈着さと、頑張り  
の学校だ。—— ジャン・フランジュ ——

登山とは山へ登る事である。こんな事はごく当り前の事であると思う人が多いであろう、だが登山が自らスポーツであると主張する以上何かスポーツ的な所を持つていなくてはならず、それはフェア・ブレイである。登山は競争するのでもなければ、記録を作るための物でもない。フェア・ブレイの実践である。フェア・ブレイが保たれる以上スポーツはいつまでも栄えるが、それが失われると同時に墮落、滅亡するものである。山を歩いた後に山々を見ると目だつて景色が美しく感じられるこの場合も、ただ単に山を歩いて休んだ時に見たのもやは

ものでしょう。個人プレーとはいうものの、夕焼空に茜さ

り美しいであろうけれども、少しでも苦勞をして歩いて休んだ時のうれしさ、四方を見渡した時の景色の美しさがひとときわ心をとらえるにちがいない。歩く時に苦勞し疲勞すればするほど休みが有難く感じられ、回りの景色も美しく感じられる。この様な感じは実際に暑い太陽の下を汗をかきかき歩いた経験のある人でなくては理解できないだろう。又自分の目的の所へ予定の時間に行く事ができた時の征服感、これらのものに登山者は心を引かれているのだろう。

山へ行つた経験のある人が登山をやめられないのはこれ等のせいかもしれない。近年登山熱が上つて若い人は何かと山へ行く機会が多くなつた。しかしまだ世間には登山なんでものは危険なものだと思ひこんでおられる方が少なからずおられるであろう。山へ登る事は立派なスポーツであつて何も危険なものではありません。ある人が「登山なんでもんは原始共産社会へのあこがれや」といつたのをおぼえている。そうであると云えばそうであるかもしれませんが、誰もこの様な事を考えながら登山を行つてゐる人はないであらう。登山をするようになつた動機なんてものは人に話してみると云われた所でとても話せるものではない。ただ自然美を見んがために行つてゐるようなものである。

本校の登山部はぞくに世間でいわれるようなものでなく、登山、キャンブ、ハイキングなどごく一般的なものである。年間行事は休暇中に行われる夏山プランと冬山スキー合宿

歩いた後に山々を見ると目だつて景色が美しく感じられるこの場合も、ただ単に山を歩いて休んだ時に見たのもやは

訓練とが主だつた所である、後は、日曜、祭日に時々大阪周辺へ出かける程度のものである。現在登山部には四つのテントとある程度の装備があります。必しもこれだけでは満足ではありませんが、一応高校の登山部としての活動ができるだけの装備は整つています。又山へ行く時には二人の顧問のどちらかがいつしよにこられます。登山は自然を見る最も良い機会を与えてくれるだろう。

### 硬式野球部

春の足音と共に大手前高校硬式野球部のノックや掛け声がグラウンドいっぱい飛びまわつていきます。新しく入学された諸君「おめでとう」と部員一同お祝い致します。さて、いい気にならないで、ちよつと校庭をごらん下さい。大手前の優秀な選手がノックにランニングにバッチイングに右往、左往しております。若き青春の血がたぎりませんか？このわずかな一刻をムダにするなんて……窓から飛び出してもよるしい。そしてすぐに練習に参加して野球を楽しんで下さい。野球をする事——練習する事——がどんなに諸君を感激させるかがすぐおわかりになると思います。それではグラウンドに来て下さる方にこの硬式野球部の紹介を致しましょう。現在、部員は十三人の小人数のクラブで三年生が三名、二年生が十名です。そして、そのう

ち中学時代に野球をやつていた経験者はわずか二・三人……しかし、今では立派な技術を身につけて、チームワークのとれた見事な試合を行つています。試合は春、夏、秋に公式戦があります。春の大会は大阪の大会であつて全国大会の予選ではありませんが、この春で勝つという事は夏の大会に対してよいものさしになるのです。夏の大会は——これは一年間の最大の試合となり、本校からも応援団約一〇〇〇名も参加して日生や藤井寺球場などで華かに開催されます。まさに夏の祭典であります。——この試合に勝つと我々高校野球児の最大の目標である「甲子園出場」となるのです。そして甲子園で勝てば、全国一となるのです。次に秋の大会は、俗に新人大会といわれ、三年生なきあと一、二年生の者が参加するのです。この大会は夏の大会に次いで重要な試合で、二校だけが近畿大会へ出場出来るのです。又選抜大会の重要参考資料となるのでこの大会で勝つことは事実上甲子園春の大会出場が可能になるのです。その他公式戦の間々には他校とのオープン戦を一年間に十数回行います。このような試合において種々の好成绩を残してきました。中では一昨年の秋の大会には、府下ベスト・エイトに入り、もう一步で甲子園というような輝かしい戦績を残しております。現在もこの甲子園を目ざして日々練習をつんでがんばつて居るのです。そこで現在十三人という少人数なので、新入生の諸君に頼る所大いに大

のであります、良き、優秀な先生を顧問にして、良き先生の指導あり、首脳陣にも事かきません、このような良き場所、環境で我々は身心共に練磨されるのです。硬式野球部はこのように人間を完成する最も良い立派なクラブの機能を備えております。まじめで、おとなしくて、スマートさを感じさせる所が又硬式野球部の一つの特色なのです。しかし、いざ練習、試合となつた時のそのフアイト、このすばらしさは比類なきものがあります。そのフアイトによつて短時間で能率の良い練習をしています。これが大手前高校硬式野球部のチームカラーであり、個人そのものでもあるのです。素適です。文句なしです。これが硬式野球部としてのいつわりのない気持なのです。

新入生の諸君よ！新しく高校に入つて有意義な高校生活を送らねばなりません。そのためには立派なクラブ——硬式野球部——へ入つて活動しなくてはなりません。高校生活を有意義に過せるクラブは何と云つても硬式野球部です。新入生の諸君よ！いつしよに甲子園へ行こうではありませんか。

## 柔道部

苦節七年！どこかで聞いた様な文句だが正に地味ではあるが絶えず前進を続けて来た吾が大手前柔道部を如実に表現している。乃ち七年前大臺丹羽先鋒以下有志数名の努力の陰に目出たく誕生、ある時は出場選手の不足で棄権、あ



るいは、わずか一人の自傷の爲にもたらまら不戦敗、その上、一回戦敗退確実という汚名のもとに二年経過、ようやく部員も比較的充実、有段者も年と共に増加、スケールはそう大きくはないが、試合に際して沈着、冷静にして鋭どい、独特の気風を完成、三十二年二月の新人大会には、近畿第三位の栄冠を獲得、ついにその存在を大にし、以後常にダークホースとしてマアクされ、好成績を挙げして今日に到つてゐる。これはあらゆるスポーツ、特に柔道に於ては極めて重要な「ひたむきな努力」の成果であると云えよう。これは人間完成の一つの大きな課程であるとも云える。ちなみに月、火、木、土、いずれの日でも良い、一度道場をのぞいて見ると良い。健康、明朗なフンイキの中にも、常に「技」に對する科学的、且つ探求的な態度がうかがわれる。大手前運動系クラブのホープ柔道部では現在、二段初段の黒帯組をはじめ将来有望な白帯組が目下活躍中である。「大手前の柔道部は上品すぎてフアイトが足りない」と云う講師の加藤五段の指摘されたこの最終課題に對して一層の努力を続ける大手前柔道部にフアイトあふれる諸君の御参加を一同大いに期待する所である。

部員は現在二年生三年生共に八人ずついる。皆そろつて学業は中堅クラスであるから「スポーツと学業は両立する」ということは、ことバ

## 男子 バスケツトボール部

スケツトボール部に關する限り正しいといつてもよからう。その上半の人はラグビー、サッカー、バレーボール等の校内大会では花形プレイヤーである。練習日は週に四日、即ち月火木土で土曜日は主に對外試合でゲームに馴れゲームのカンを養うことにしている。練習時間は三時半から五時過ぎ位まで、完備した体育館はないが皆張り切つてゐるから能率は上る。しかし体育館も近日に建築の予定と聞くから將來のみとおしは明かぬ。

次に戦力戦績についていうと、現在の二年生は一年大会の中央地区予選（一年生大会は府下を四区に分け各地区ごとにより選を行いベスト8で本大会を行う）で追手門学院に25-24で無念の涙をのんだが、追手門学院は中央地区で優勝しているから中央地区ではトップクラスである。しかし当地区は府下でもレベルが低いので府下ではベスト8位くらいだろうか。又、三年は府下では文句なくトップクラス昨年的一年生大会では中央地区優勝。本大会では準優勝であつた。その時の決勝戦では和泉高校と試合を行い、サイドクォーターまではリードしていたが、センターがフアイルで退場、その上レギュラーの三人までがフアイルで思ひ切つて出来ず惜敗した。それ故府下でベストは間違いないと自認している。その他昨年の八月の国体予選では三年生チームに混つて活躍——大阪府優勝

近畿ベスト4の住吉商業校に50-49と肉迫したが惜敗した。目下の目標は5月の府民大会優勝、6月の全国大会予選に優勝し全国大会に初の出場を成しとげることであります。その他オープン戦では二年の時から数多く(その中には三年生チームが多くあつた)行つたにもかかわらず清水谷校に一敗したのみ、まとはあたるどころ総てを打破つてゐる。又昨年の八月には四條濠校とのオープンマッチで101-51と大手前バスケットボール史上初の百点突破の偉業を成しとげた。このように大手前の低いレベルの運動クラブにあつてバスケットボール部は優勝をねらえるクラブとして一歩抜きんでている。又、大手前バスケットボールクラブには妙なジンクスがある。それは一年おきにはなほだしくはないが戦力が上下することである。昨年はベスト8一昨年は府下三位、その前の年はベスト8と、又その前の年にはその年にあつた西日本大会に出場してゐる。そのジンクス通り今年の一年生の皆さんは大いに期待されてゐるわけである。「ザモア・ザベター」皆さん方の一人でも多く入部され身体精神の発達を成しとげられることを望むしだいであります。バスケットボール部に入つて特典といへば誦弊があるが、良いことの一つに夏休み合宿に地方へ出かけることである。一昨年には天の橋立、昨年は高野山に行つた。今年は石川県山中中学に予定されてゐる。景色の良い所で空気が良い所でバスケットボールに助けむ

爽快さは本当にやつた人でないといけません。

最後に年々強くなつてきた大手前籠球部を一段と強くバスケットボールといへば大手前と世の人に云われるように皆さんに期待をかけていることを申し上げ終りしたいと思います。

## 男子 バレー部

諸君、大手前でクラブ活動を志す人はバレー部に入る事をおすすめします。バレー部は創立後十余年一二〇人余りの同窓会々員をもち、内外共にその健突さを知られてゐます。現在バレー部の実力は府下五指の中の一つ、今年の春の部別大会に於ては一部優勝をねらう列強の中に数えられてゐます。ここでバレー部の練習を紹介しましょう。原則として一般の週には毎週三日、公式戦の一週間或は十日前日より毎日練習を行います。又夏にはやはり一週間一十日の合宿練習を行つてゐます。他のクラブに比して幾分日数は多いかも知れません。しかし毎日毎日の練習はそれほどつらいものではありません。むしろ、皆さんが入部されたら、練習日には必ず欠さず出席する事が苦しい事だと思ひます。バレー部の活動と云うものは、それほどはなやかなものではありません。クラブ活動によつて目立つ存在にありたいと思つて入部する事は禁物です。

毎年新入生諸君は、大量に入部し、そして一・二カ月の間には又大量に落伍してゆきます。しかしバレー部に於てはそれは見られません。四月に入部した者は三年卒業までバレー部員なのです。バレー部の活動はあくまで、チームプレーを本体としたものであり、リクレーション的なものではなくありません。団結を要求され、一人だけサボルことはゆるされません。どこのクラブへでもリクレーションのつもりで入部を志す人はむしろ、一人で遊ぶことをおすすめます。クラブはあくまでクラブであり、遊び場ではありません。入部する人は、まずこの決心を必要とします。この決心をした人は最後まで続く人です。

バレー部はこう云う人物を期待しています。諸君はクラブ活動をすべきです。クラブ活動を除いた高校生活などはおよそ味気ないものだと思います。皆さんは、勉強にしばらくばらけて青白い顔の高校生になりたいと思うでしょうか。勉強が教養を豊かにする為であると思えば、クラブ活動は、体と人間性を養うものであると思います。そしてこの目的にマッチしたクラブと云えば、恐らくバレー部が最適だろうと思います。バレー部は一つの小社会です。バレーは団結の運動なのです。この様に書けば恐らく皆さんはむづかしいクラブだと思ひになるでしょう。しかしその心配はありません。一度入部してみれば皆嫌はバレー部の家庭的雰囲気は満足されるでしょうし、夏の合宿、一月の新年

つて目立つ存在にありたいと思つて入部する事は禁物です。

会等それぞれ愉快なものです。バレー部の先輩は、いわゆる先輩として、尊敬に値する人々であることも保証されています。部員の結合では当校一、二をあらそつています。

ともかく、大手前で青白い高校生活を送りたいくない人は運動系クラブに、その中でも本場のクラブ活動を楽しみ、本当に運動をしたいと思ふ心ある諸君はこぞつてバレー部に入部し給え、何んでも席が売り切れる様な事はありませぬ。来たれ!! バレー部に、有志の徒よ!!

## 軟式野球部

スポーツの中で最もポピュラーなものは野球です。その軟式野球部の紹介をします。

まず最初に私が二年間にわたつて体験してきましたこのクラブの歩みをお話します。

私が一年生の時にこのクラブに入った時は三年生が五人、二年生が十人、一年生が一人でした。最初の試合は都島工と対戦。続いて二試合練習試合。

春の大会は五月上旬藤井寺球場で生野高校と対戦7-0で敗北。それから三年生が去り、部員が少なくなつて以後、試合不可能かと思われましたが、すぐ二年生が五人程入部してきました。ここにこのクラブの特色の一つがあります。秋は練習試合を数回行いました。対戦高校は清水谷、大阪、都島工、四条畷等で対戦成績は勝率、四割でした。それか

ら秋の大会があり本校は今宮高校と対戦、1-0で惜敗、  
年が明けて春の大会の前に数回練習試合を行う。春の大会  
の前に数回練習試合を行う。春の大会は西高校と対戦。7  
-0で完敗。その後現在の三年生が去り、新しく二年生が  
十人程入部、そして現在に至っています。

それでは軟式野球部の性格を述べます。

(1) 誰でも入部することが出来、そして十分にクラブ活動  
を楽しむことが出来ます。現在のクラブ員はみんな中学  
時代野球部に属していなかつた人です。これからわかる  
ようにこのクラブで活動するためには経験はなくても全  
然かまいません。

(2) 練習は決して勉強の妨げになる程きつくありません。  
勉強との両立を第一の目標にしています。具体的に云い  
ますと大体隔日に三時半から五時まで練習を行っていま  
すですからこのクラブに入るためには普通の体力があれば  
充分です。

(3) 軟式野球部のチーム力は大阪府下の水準から見ても下  
位です。しかし軟式野球は硬式野球程各高校間の実力  
差がありません。

(4) 現在のクラブ員はみんな二年生ばかりで一年生は一人  
もおりません。これがため私たちは一年生の加入を心か  
ら願っています。最後に本年度の計画を述べます。

1. 春、秋の大会に参加

2. 練習試合を出来るだけ多くやること。本校のグラウンド  
が思うように使用出来ないので練習を合理的に短時間に  
行い、あとは練習試合でもって実戦力をつける。相手高  
校は現在では都島工、清水谷、大阪等を予定しています。

## サッカー部

動くのがおつくりになる真冬、大手前の広い  
グラウンドで力一ぱいあげられているのがこのサッ  
カー部です。ここ二、三年隆盛のきざしが見え  
て部員も三年三名、二年十四名とふえ、戦績に  
もめざましいものがあります。練習は放課後一  
時間半、部員全部が兄弟というモットーで楽し  
くやっております。大手前のクラブの中で最もよく先鋒と  
うちとけているのもこのサッカー部でしょう。サッカーと  
いうのは野球の様に一般性はありませんが、やっている者  
にとつてはこの上ないおもしろさがあるものです。それが  
証拠にイギリス、南米などでは国技としてサッカーを扱い、  
スペインでは闘牛をもしのぐ人気があります。だから勉学  
に忙しい本校の生徒の中で勉強以外に本当の楽しみをもつ  
ているのもサッカー部員でしょう。広いグラウンドを我物顔  
におもいきりボールをけつている姿は他の生徒にとつては  
うらやましいかぎりだともいます。夏休みには合宿があ  
つて五日間、先生、先輩、同僚と寝食を共にするという楽

しみは一生の思い出になります。これはクラブ員のみが知る快感です。それではサッカー部の一年間をのべてみましょう、四月に新部員が入ってきますと、総会というのが開かれます。これは先登との顔合せです。それ以後しばらくは多数の先輩と共に練習に励み五月、六月とつづくリーグ戦にそなえます。毎年リーグ戦はブロック二位になつております。同じブロックに「明星高」という全日本のAクラスがおりますので優勝は出来なかつたのです。しかしこれからは新しい部員の方に期待をして「明星高」を一度破るつもりです。八月には恒例の合宿を行い、チームワークも固まり技術も高まつた頃に団体予選があります。大阪府下六十有数校の中でダークホースと目されているのが我が大手前高校で、毎年惜しいところで団体出場を逃してしまいます、それが終りますと十一月に全国大会予選があり、これも団体予選と同じ様な経過になつておりますので今年こそは新入部員の皆さんと共に団体、全国大会出場をめざしておる次第です。次に十二月二十五日伝統の「夕陽丘高校」との定期戦があります、これは高等学校としては珍らしいもので他校の羨望の的ですが。これはサッカー部とラグビー部が夕陽丘高のサッカー部とラグビー部と、阿校生徒が結成する応援団の前で、野球でいえば早慶戦の様な雰囲気の中で試合をやるのです。これは十年余りもの長い伝統を持ち、毎年バスを五六台くり出してのげげしい応援があります。

つて五日間、先生、先輩、同僚と寝食を共にするという楽しみがきりだとおもいます。夏休みには合宿があつたので他のクラブでは、これまた味わう事の出来ない快感が味わえるわけです。この対戦成績は今のところ全く互角です。これがすむと三年生を送る会を行つて新年をむかえ、二月には新入大会に出場します。この大会は一、二年で行うので各校のレベルは平均しています、だから我が大手前も去年は府下第三位とはなばなしい活躍をしております。これで一年は終了します。この他練習試合もやります。このように大手前校サッカー部は他のクラブに見られない楽しさが数々あり、クラブ活動を真に楽しんでる人々の集まりといえます。一度サッカー部の楽しい練習風景をみにきて下さい。

## 卓球部

優劣男女を問わず、誰にでも親しめるスポーツ、それが卓球である。特に、日本人に最適なスポーツであることは、日本が生んだ世界的名選手、萩村や田中の例をみても容易にわかるであらう。天下の大手前生は立派な日本人である。不振の我校運動部に於てわが卓球部は毎年多数の部員をようして来た。まさに大手前生に最適なスポーツなのである。わが卓球部の最大の目的は、勉強勉強に追いまわされ、運動不足で元気がない大手前生をして、適度な運動によつて、心に慰みを与え、疲れた身体をいやし、その人間的成長を増進することにある。運動部は、暇いばかりが能ではない。練習を熱しんでやることによつて、必

然的に技術も身につけ、強くなるものである。それ故、わが卓球部は、伝統的にあまり強くない。昨年度の対外試合成績は、五勝五敗であつた。諸大会に出場しても、大手前生独特の謙讓の美徳を充分發揮して、常に四回戦以上は進まないことにしている。又、わが部は、部員が多いにもかかわらず、卓球台の数が少ない。もとは、五台使えたのであるが、昨年中に、二台壞れてしまい、今では三台しか使えない。その上その中の一台はすでに寿命が尽きて、ガタガタであり、他の一台は、脚がしつかりせず少し強く台にぶつかると、ボタンとばかりに倒れてしまう。残りの一台が一番いいのだが、これは学校側から借りているという状態にあり、卓球部のものではない。これらの悪条件の爲、先にあげた偉大なる目的を、充分果すことは、困難である。しかし、われら卓球部員は、毎日楽しく練習しており、將來、最も發展の可能性あるクラブだと自負している。

練習日は週に三日、雨天体操場で行つており、ここはバスケツト部と同居である。部費は月五拾円。各クラブ中で最も安い部類に入る。道具はラケット一本でいい。これは四百円も出せばいいのが買えるが、全くの初心者が入部してからヴェテラン部員によく聞いた上で買った方が無難である。

だからだと色んなことをならべたが、以上がわが大手前卓球部の内容である。

新入生の諸君、腕に覚えのある御仁はもちろんのこと、まだやつたことのない諸君も、気軽に入部されたい。(但し、わが部としては一カ月部員は、あまりありがたくない)希望者は練習中の部員に、申し出ていただければ結構である。

## 硬式テニス部

新入生諸君御入学御目出度う。

諸君は今、天下の名門大手前高校に入学されて、一つの大きな悩み、迷いを抱いておられる事だらう(勿論、我々諸君よりも、先に本校に来た者も諸君等と同じく悩み迷つた)即ち、果してこの受験の爲の学校「大手前」に於て学習とクラブ活動は両立するか? 又クラブに入るとすればどのクラブがよいであろうか? という様な事に關して、悩み迷つておられることと思う。そこで我々は昨年度より二年越して、諸先生、諸先輩或いは御父兄の、或いは他校(北野、清水谷、住吉、天王寺)の生徒の御意見、そして我々の体験に依り、ここに諸君の悩みを解決する爲に研究し、調査した資料に基いて、以下拙文ではあるが、諸君が悩みを一日も早くなくされる様願つて書いてみた。

一、クラブと学習は両立するか?

本年度は勿論、ここ数年来、東大、京大等へはクラブに入つていた人の方が遙かに多く合格している。特に我が

硬庭部は過去に東大京大へ現役からパスした人々を持つ。

本年度も京大、阪大、慶大等を本年度卒業生は受けた。

以上はまだまだ例挙できるが紙面の都合上これ位にする。

結論は、賢明な諸君には今更云う必要はないだろう。明らかに両立する。

二、どのクラブが最もよいか？

解答を先に云うと硬式庭球部である。以上具体的事実を述べながらこれを証明しよう。

A 我が硬庭部は、本校クラブ中その対外成績の優秀さは他のクラブ遙かにしのいでいる。例えば府下大会に於て優勝経験者：四名ベスト16以上経験者：十名（以上いづれも昨年のみ）というテニスでは学習と同様に府下に於て屈指の学校である。

B 今や日本はテニスの時代である。皇太子殿下と正田美智子さんのラブロマンスは硬式テニスの取り持つ縁である事は諸君も御存知であろう。又日本スキー第一人者猪谷千春選手も硬式テニスに依り、先頃皇太子殿下と同じテニスクラブのお嬢さんと婚約された事も有名。目を外国に向けると、テニスが三度の食事より好きだという。美人女優ジーナ・ロブリッジやハリウッド一のミニージャカル女優ミッチー・ゲナーナの顔が思い浮ぶ。この様にテニスなしでは夜が明けぬという世界の状態である。そればかりではない。諸君が將

本年度は勿論、ここ数年來、東大、京大等へはクラブに入つていた人の方が遙かに多く合格している。特に我が

來 來就職されて最初に見るのは、社員の日休みに乘しく

やつているテニスの光景である。大会社にテニスコーストは必ず有る現在、高校一二年でやつておかなければ会社で仲間はずれになる事うけあいだ。

C 我がテニス部は一部のクラブに見られる様な部員の間の勢力争いとかいう様な所は絶対になく、よく統一されており、皆友好的であり、学年、技術の巧拙等に依る差別待遇は絶対にない。先生間でも評判のよい理想的なクラブである。

D 我がクラブは他のクラブの如く、中学校時代の経験は絶対に問題にしないし、又以前テニスをやつた者必ずしも未経験者より上手になるといふ事はない。例えばAに述べた様な優秀選手は驚くなかれ、中学校時代に軟庭をやつた者が二人いるだけであつて他の者は全然テニスを知らずにテニス部に入つたのである。技術の進歩は中学校時代のテニスの経験や素質には比例しない。必ず練習量に比例するものである。

E テニスをやると腕力、脚力ののびる事は勿論、肉体的にも精神的にも必ず耐久力、ねばりが必ず身につく。これが受験に役立つ事は万人の認める所である。

諸君！まだ悩んでる人々よ！もう悩む必要はない。クラブと学習は必ず両立する、そして諸君に最適のクラブは、唯一つ、硬式テニス部以外にはない。

## 水泳部

新入生の皆様御入学御目出とうございます。高校に入れば何かスポーツをと張り切つておられる方も多いかと思ひます。健康と忍耐力は生涯を通じて物事を為す所の最も根本的なものといえましよう。その健康と忍耐力を増しそめて醍醐味を味わえる最適のスポーツと云えば先ず第一にあげられるのが水泳でしょう。真夏のカンカン照る太陽の下で思うままに水の感触を楽しむほど素的なものはないといつても過言ではないでしょう。我が水泳部では近畿大会、国体予選などにそなえ、五月上旬には陸上トレーニング（冬期練習）を打ち切り水泳練習を行います。又七月には楽しい高校生活の思い出となる合宿練習を行います。この間に於ける各員の向上はめざましくこのスポーツが記録としてはつきりと出るだけに個人個人大きな楽しみとなります。合宿練習はもちろん平素も多くの良き先輩が指導に當つて上達を促してくれます。クラブの雰囲気の良い点では自負出来るほど和やかです。二・三年台わせて二十名の部員はみんな朗らかでゆかいなクラブという定評のあるようにとても楽しい気持ちで練習出来ます。一年生の皆さん！高校生活の一端をクラブで有効に生かそうと思ふならば是非水泳部へお入り下さい。泳げないから水泳部へ入れないという考えはすてて水泳部へ入つて泳げるようになるうと思つて入つて下さい。水泳で得た忍耐力は皆さんの高い理想

にも泳ぎつく大きな支持力となるでしょう。

## 軟式テニス部

本校に入學された優秀な諸君は中学校時代に引続き一層なごやかな、固く上下（先輩→後輩）左右（男子→女子・教師→生徒）前後（？）に結びついたより有意義なクラブ活動を楽しまれることを心からおすすめます。一体クラブは文化系と運動系に分かれますがいろいろにしても余暇の活動としてのクラブ活動の必要なことから考へて又健康的精神、身体の向上を考へ合わせて運動系クラブに入られるようおすすめるわけです。

かくじわじわと申します私の腹の中はあからさまに申しますと「軟式テニス部に入れ」ということなのです。昔からよく云いますように書けば長いことながら入れればいつべんに納得するという訳です。我が軟庭クラブの利点と申しますと余り多くて何からあげようかと迷うのですが、まあ強いて小さな二・三点をあげてみますと、

一、運動量が適度（正にクラブ活動のための運動と云つても過言ではなからう）それ故に本校生の最大問題である「勉強・運動の両立」も保証できるといふわけです。

二、クラブ内は始終家庭的雰囲気包まれ「穩健」一語に尽きるというなごやかさです。

三、入部にさしあたつての用具の費用が殆んど皆無（ラケ



つて入つて下さい。水泳で得た忍耐力は皆さんの高い理想

三、入部にさしあたつての用具の費用が殆んど皆無(ラケ

ット等は後に揃えれば充分)でラケット無しでテニスに  
秀でようというぐらゐの意気込みさえあればよろしい。

四、練習以外にハイキング・予餞会又練習も含まれますが夏  
季合宿等を定期行事とし部員間の親睦をより深くする。

この他にもつと大きな利点がたくさんあるのですが、それ  
らは実際活動を通じて皆さん自ら味わつてもらうことにし  
て、未だ入部を迷つてゐる方の為、もう少し詳しく申して  
みますと軟式庭球は硬式庭球と根本から異なつています。

それぞれ特徴があるわけですが軟式では経費の少なくてす  
み、運動そのものが理智的で且デリケートなテクニク(へ  
技術)が楽しさを一層増します。テクニクと申しますと  
初心者も努力次第で上達が保証され、又経験者は「経験十  
努力」が一層長足の進歩をもたらすこともうなずけるでし  
よう。又女子の方に一言申しあげますが専門医家が軟式庭

球について次の様に云つています……「呼吸を深くし、全  
身筋肉を平等に使用してこれを強くするスポーツであつて、  
これに伴う危険がないから女子にとつては甚だ有利で且つ  
害の少ない運動である」この言葉から軟庭は女子体育とし  
ても最適のものであることが伺えます。(勿論男子にとつ  
ても同様である事は特筆するまでもありません)いい忘れ  
ましたがクラブ活動は決して娯楽ではないのです。あくま  
で誠実と努力を要するのです。いい加減な態度は何事にお  
いても特にクラブ活動などの団体においては通用しないこ

とです。では入部を希望される方の為にわが部の最近の練  
習内容・活動状況をお知らせします。

「練習」一、練習日は硬庭と一日交代故一週間に三回。  
なお日曜日には希望者で行う

二、春、秋のシーズン、夏季合宿を中心に行い、冬  
季シーズン・オフにはランニング、綱飛び等で  
身体を鍛える

三、日々の練習は男女二十余名の二年現部員を中心  
に諸先輩の親切、丁寧な御指導を仰ぐ。

「活動状況」

- 大手前4 | 1 関西大倉
- 大手前3 | 2 旭高校
- 大手前4 | 1 清水谷
- 大手前0 | 5 淀川工業
- 大手前7 | 0 高津高

(以上が主なものである、諸君の入部と御縁闘をお待ちし  
ています)

心より御入学お祝い申し上げます。

さて、女子バレー部の紹介を致します。

さつくばらんに云いますと、とにかく弱いチー  
ムです。技術もなければ馬力もなし、気力もあ  
るようでないようで……。あるのは天声位のもの  
の。これは少し謙遜が過ぎますが……。実際は、

女子バレー部

ささやかな技術も気力も、持ち合わせているのです。今のところ、実力が出ないだけ……と云つたら今度は負け惜しみに聞えますか？ 冗談はこの位にして、いい冗談ではありません。こんな中に、バレー部の中に良さがあるのだと思つていきます。青空の下、真白いボールに飛びつく、数人の中から湧く笑声、これ以外に何が必要でしょう。試験の事も、嫌な先生の顔も、絶対に入る事の出来ない尊い世界です。

Aさんは、バツクトスをしたつもりはないのに、ボールは後へ……。Bさんはきついボールをレシーヴしたと思つたら、足でした。Cさんが力いっばいすごいキルをしたはずのボールはゆるやかな放物線を描いてコート外へ……。ボールはなかなか云う事を聞きません。それでも、皆このまろい小悪魔に魅せられて、コートに出てきます。さあ皆さんいっしょにこの小悪魔を追いませんか？ 嘗ては、二部に位した時代もあつたそうですが、残念ながら現在は五部で遠慮しています。こんな遠慮は禁物なのですが。

来シーズンには、四部に上る予定？です。実際、試合に負けてばかりいるのは辛い事です、でもこの辛さをチームで味わい、乗り越えて、そして、次の試合こそ！とチームの意気が上る時、その時こそ日頃のねばり強さが発揮される時です。又同時に団体競技や社会が要求する「協力」が生れてきます。現在練習日は、月木土の放課後。試合は春

秋の部別大会や国体予選など他の色々。それに多数の良質な先輩が組織する「大手前クラブ」という、他のクラブにない先輩と後輩を結ぶものがあつて、春秋二回総会が楽しく遊べます。上手な人は勿論、ボールに触れた事のない人でも大歓迎！（AさんBさんCさんも、やつぱり段々上手になつていのですから）気軽に飛ぶ込んで下さい。

## 男子 ソフトボール部

クラブに入るかぎり、我々は有意義な生活をおくれることを目的としなければなりません。クラブはあくまで勉強と両立すべきです。その点に於て当クラブは最適でしょう、元来ソフトは正確にボールをつかみ、早く正確に投げるといふ、いわば走る、うける、なげる、うつ等の基本的なことを行う運動です。ですから誰にでもでき、リクレーションとしても普及しています。過度な運動というよりは、気分を一新し、充実させる一種の刺激剤といつても差つかえありません。対戦成績は芳しくありませんが、円満明朗なクラブですから、是非入部下さい。練習は大体一週二〜三日位ですか、雨天の時ですし、練習時間内容は汗を流し快い疲労を感じる程度です。試合は年間二、三回練習試合も適当にやつていきます。楽しい高校生活を過そうと思われの方は是非！

## 女子バスケット部

あふれるフアイトとスピード感に富んだスポーツ、これこそ我々若人にとつて最も魅力あるものの一つではないでしょうか。この機能性を十分に備えたもの、それがバスケットボールなのです。さて、近代的スポーツの華々しい存在であるバスケットボールのクラブとはどういう風になつているのでしょいか。

まずその歴史を振り返つてみましょう。我が大手前女子バスケット部は、本校がまだ「梅田女学校」と称していた大正十三年に発足、翌十四、十五年には府下で優勝、その後も常に上位を占めてきました。昭和十八年には顧問の綿谷先生がふ任してこられ、ますますクラブ活動も活発となり、二十二年には西日本大会出場、続く二十四、五年は大阪府ジュニア大会に優勝、そして二十六、九九年にかけて、その全盛ともいべき黄金時代をむかえたのです。二十六年には鳥取に於る西日本大会で決勝戦にて春日丘に惜敗し、二十九年には男女共大阪府第一位、福岡での西日本大会出場というめざましい成績でした。こういつた輝かしい伝統をバックボーンに私達は少しでもそれに近づこうと努力しております。現在の部員数は、三年生六名、二年生五名で、毎週、火木土の三日間を練習日とし「短かい時間で、最も効界のある練習」を一つの目標に全員ががんばつています。大体月に一度の割合で練習試合をし、コートの舞台上、

ほとんど他校へ行く事を余儀なくされますが、反面色々の学校の様子を知る事のできるのも一つの特典といえます。私達の待望久しき体育館も近き将来実現のはこびとなる予定で、前途明かぬものがあります。

バスケットボールは運動量が激しいので勉強にさしつかえると敬遠され勝ちですが決してそのような事はありませぬ。勉強との両立は可能であると断言できます。現に先輩の方達が立派にそれを証明されているのですから。心に悩む事があつたり、気のむしやくしやした時、試験のわるかつた時等はバスケットボールをすることによつてなぐさめられ、はげまされるのです。家庭的な暖い雰囲気、ユーモラスで健康的な笑い、それがバスケットボールを通じて人格と教養を高めていく一つの段階を作つていられるのです。

これだけの説明では入つて間もない一年生の皆様には十分理解していただけないと思いますが、お互いに協力し、はげまし合い、この三年間の高校生活を大いに楽しんで生きがいのある青春を過ごそうではありませんか。女子バスケット部員一同、新一年生に大いに期待しております。

## ダンス部

新入生の皆様、御入学おめでとうございます。入学しますと、誰でも一度はクラブのことを考えると思いますが、ここに、最も優雅な運動系クラブダンス部を御紹介します。

ダンス部は昭和二十年頃、体操部という名で発足しました。当時は西宮のリズム体操に出場したりしておりましたが、対外試合というものは全然ありません。その点がクラブとしてさびしいといえぬかとも知れませんが、然し反面、試合と云う目前のものにとらわれて練習するのではなく、「体を思いのままに動かす喜び」「削り出す喜び」を得る為を目立ちませんがたゆまない練習をしています。

練習は週に三回行っていますが練習の前半は、体を動かすやすくする「基本」をします。これは今の部員全部で、レコードを演奏しそれに合わせて作つたものです。後半は創作を主におき、レコードをかけて、それに合わせてめいめいが好きなように動くことになっています。又練習の最後には皆でポーズの組立てをやります。フォークダンスは今まであまりやりませんが、この頃は活動の一部としてとり入れております。活動場所は、柔道部の活動のない日だけ道場を使い、その他は、教室や中庭や講堂など転々として使っております。不便なのはそればかりでなく、音楽設備も、クラブとしては備えておりません。しかし皆機が二年生になる頃には、予算の積立で新しいプレイヤーが買えることになっております。ダンス部の功績は？といわれると大変困るときがあります。形に表われたものといえ、文化祭、予餞会に出場することくらいで、事実それがダンス部のすべてだと思つている人も多いからです。しかしわ

れわれは、薩の存在として何らわの点に於て、本校の情緒的方面や創作的方面に役立つと思つております。いつも小人数でありながら、二十年に近い歴史をもつていふことがそのことを物語つていふと思つております。また先日行つたフォークダンスを更に拡大すると、もつと直接的に生徒間の親睦をはかることができるようになると思ひます。部員は学年に五人が最高で、毎年ほとんど三人が普通です。そのために文化祭では、やりたいこともできなくて困るときがあります。しかしそのおかげで、クラブ員間の親密感が大変増していると思ひます。この頃では部員揃つてバレエの鑑賞に行つたりすることも多くなりましたし、部会も食堂で行う様な楽しいものです。

ダンス部の目的は動きの創作を楽しむことにあります。従つてわれわれの求める部員は「ジョウズナ」部員ではなく「ダンスのスキナ」部員であります。踊りたい方、動きたい方は、どなたでもお気軽に一度入つてみて下さい。

雄々しき女子の皆さん！

## ソフト部

女子

御入学おめでとうございます。けわしい道を踏みしめ狭き門より入つて来られて、今はうれしさでさぞ小さな胸がいつばいなんでしょう。

分ります、わかります、そのお気持は。私達女子ソフトボールクラブの面々もその気持を味わ

ス部のすべてだと思つてゐる人も多いからです。しかしわ

女子

子ソフトボールクラブの面々もその気持を味わ

つたのですから。でも苦しかった戦いのためにぐんにやり  
としていらつしやる方はありませんか？ もしいらつしや  
つたらそれはちよつと困りますね。悪魔というものは、ほ  
つとしていたり、なまけてゐる者の所へ好んでやつて来  
ては妙ないたづらをするものなのです。皆さんはそんな悪  
魔など平気ですね。力を尽して狭き門より入つていらつし  
やつた方ばかりですもの。さあ、これからはうんと勉強  
してやろうと決心した人はもつて欲を出さない。そう、  
運動も思いつきりしようと。皆さんは小石を持てば投げ  
たくなりますね。何か棒切れがあつたら振りまわしてみた  
くなるでしょう。もうそれでソフトボールになつてゐるの  
です。誰だつて出来ることです。実に簡単じやありません  
か。大手前高校の上にも青い青い空があります。その空  
に、真白のボールをぐーんと投げる時、数字も、a b o :  
x y z も、恨めしき先生の顔も試験も、すべて不愉快なも  
のは地球の外に飛んでいつてしまひます。そうそうあの白  
いボールだけは、またすぐ地上へ戻つて来ますから御心配  
なく。ピッチャーの投げたボールを「ハッッ」とばかりに  
打てば、くるおしき悩みもボールと共に飛んで行きます。  
本当に気持がいいですよ。皆さんは「美人」になりたいと  
思つていらつしやるでしょう。現代では健康美こそ美人の  
第一要素なのです。わがクラブはその目的にたやすく達す  
る事の出来る一つの手段だと思ひます「本当かしら？」と

疑われる方は部員をご覧なさい。皆それぞれ自信のある方  
ばかりです。さて練習は一週間交替で月、水、金曜と火、  
木、土曜に行つてゐます。年間のプランは、春に国民体育  
大会の手漉、近畿高校女子ソフトボール大会の手漉、夏は  
ブロック試合（本校は西ブロック）秋は北野交歓試合、そ  
の他随時に練習試合を行つてゐます。我が先輩に非常に強  
かつたので、私達は「歴史はくり返される」という事を固  
く信じて敗れても敗れても盛（？）練習に励んでゐます。  
とにかく笑いの絶えない明かるいクラブです。さあ、思  
う存分あはれて下さい。わが女子ソフトボール部で。

## ワンダーホーゲル同好会

大手前名物として本同好会があげられよう。別名サイク  
リングとして一時は流行の先端に立つた事もあるのですが、  
フラ・フープのごとく世の無常に帰すところとなつた。

大手前ワンダーホーゲルは昨年九月結成されたもので内  
容は次の通り。

一、自転車を使つて史蹟を尋ねるサイクリングと徒歩旅行  
（約二十km）とに分かれてゐる。

二、サイクリングは二、三週間に一度日曜日に六〇kmぐら  
いの距離で、史蹟を尋ねるクラブ・ランと春休みや夏休  
みを利用して宿泊（一、二泊）で旅行するツアーとがあ

る。写生をしながら、写真を取りながら、又集印をしながら（集印は近畿サイクリング連盟が各名所や史蹟に記念品を置いているが、それを集めるのである）ゆつくり野道を進んだり又ドライブウエイや自転車で登山するのは格別の味がある。

三、徒歩流行は長い距離を走破するもので京大などでは盛ん。大手前ワンダーホーゲル徒歩旅行は、ハイキングと登山の中間のもので、体を鍛えるのに適している。

四、特徴は手軽に楽しめ、経費がやすく、体の鍛練になり、又自然に親しみ、地図の見方はやく理解できること。

五、現在は同好会という形を取っていますが、近いうちにクラブになりたいと思います（註参照）

六、縦の関係すなわち普通上級生と交わりにくいのですが、本同好会では全然その様な事は見られません。

皆「明るく楽しく」です。

新しい希望に満ちた諸君よ、高校生活を有意義にすごそうと思うなら、ワンダーホーゲル同好会に入りたまえ。他のクラブに入つても我が同好会は可能也。なげなら「日曜虫」だから、顧問の先生も三人おられ、どの先生も大変熱心也。重ねて申す「自転車のある人よ!! 大手前ワンダーホーゲルは待つている。」

(註)

………  
クラブは、クラブ連絡会、代表会議に認められてはじめて成立する。

文豪モーパッサン完璧の作  
総天然色 女の一生  
マリアンエル 主演  
総天然色 ビスタビジョン 月夜の出来事  
ソファアローレン  
ケーリグランド 主演  
以上26日迄  
27日から  
悪党カナム  
ビクター・マア主演  
鉄条網  
ルートロイベリック 主演

オリオン座

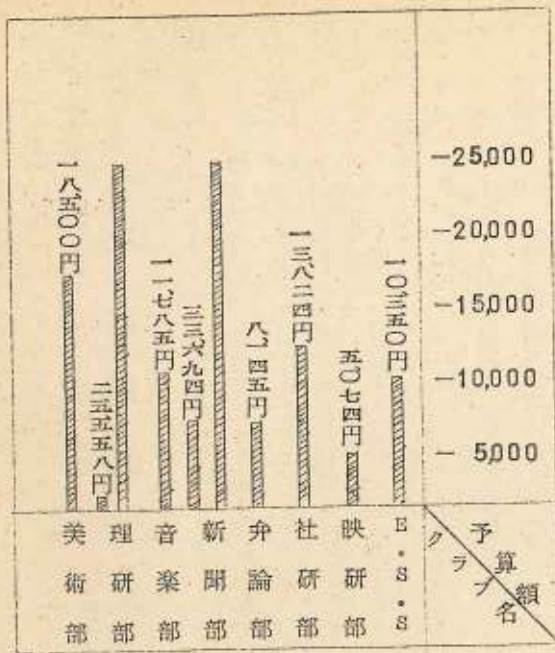
かわいい悪魔  
ブリジッド・バルド  
ジャン・ギヤン  
ベルリン国際批評家賞受賞  
恐怖の砂  
以上月末まで

新オリオン座

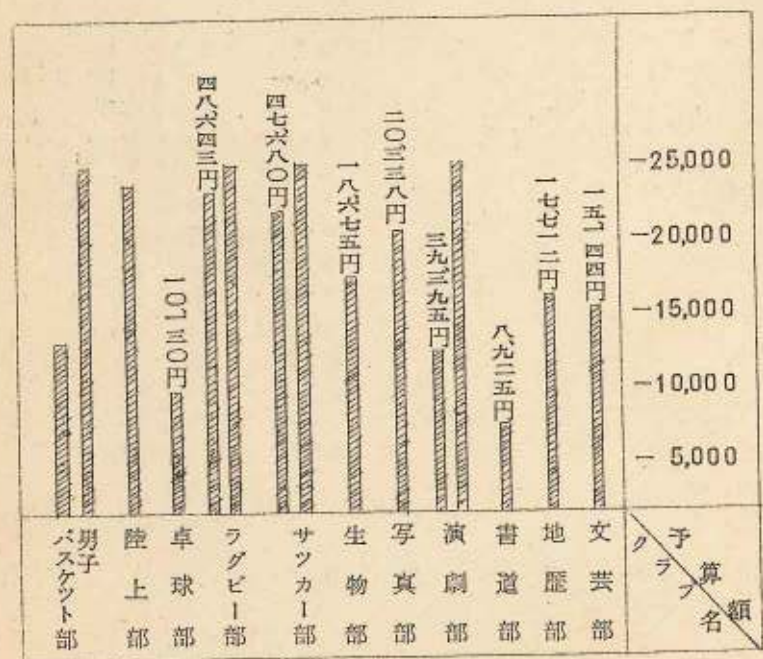
# クラブ関係資料

## 資料 I

ここでは、各クラブが昨年自治会より割当られた(といつても予算会議で審議した上でだが)予算額を棒グラフにあらわした。各クラブにはそれぞれの特徴があり、予算額が必ずしもそのグラフの活動状態を示さないことに注意しよう。



(ここであげる資料はすべて昨年度のもです)







資料 III

軽音楽	園芸	図書	放送	書道	文芸	理研	新聞	社研	生物	写真	演劇	地歴	美術	音楽	弁論	映研	B.S.S	クラブ名
一五人	七人	一七人	七人		一〇人	三〇人	二〇人	七人	一六人	三〇人	二〇人	三〇人	二〇人	四〇人	七人	一三人	二五人	部員数
ナシ	ナシ	ナシ	三〇円		五〇円	三〇円	五〇円	五〇円	五〇円	三〇円	五〇円	五〇円	五〇円	三〇円	ナシ		四〇円	部費(月)
木	時	月	月	木	水	火	時	時	時	水	時	水	主	月	月	随	火・木・土	活動日
黒田先生	松下先生	永石山先生	永田先生	源元先生	福島先生	中塚先生	小松先生	石山先生	松下先生	清水先生	若野先生	岸田先生	浜口先生	下村先生	小林先生	三木先生	城野先生	顧問教官

ワンダー・ホーゲル	女子バレー	男子バレー	女子バスケット	男子バスケット	卓球	サッカー	柔道	女子ソフト	男子ソフト	ダンス	軟式野球	硬式野球	軟式テニス	硬式テニス	陸上	ラグビー	水泳	登山	クラブ名							
一二人	一五人	一六人	一一人	一六人	二五人	一七人	二〇人	一三人	一〇人	八人	二二人	二三人	三五人	三五人	二五人	一七人	二〇人	一八人	部員数							
ナシ	五〇円	五〇円	五〇円	五〇円	五〇円	ナシ	五〇円	五〇円	ナシ	ナシ		一〇〇円	五〇円	一〇〇円	五〇円	ナシ	五〇円	一〇〇円	部費(月)							
適当日	月・木・土	月・木・土	火・木・土	月・火・木・土	月・水・土	毎	月・水・木・土	隔	隔	週三回	隔	隔	隔	隔	火・木・土	毎	時	土	活動日							
福島先生	清水先生	菊池先生	朝田先生	菊池先生	綿谷先生	中村先生	永田先生	八倉先生	南村先生	山本先生	福島先生	松本先生	山本先生	福川先生	西岡先生	平田先生	黒田先生	工藤先生	藤谷先生	八倉先生	中塚先生	辰巳先生	木須先生	清水先生	片山先生	顧問教官

- (注意) 1. 図書・放送部は学校のクラブであつて自治会には属さない。(即ち予算は学校から出る)  
 2. 軽音楽とワンダー・ホーゲルは同好会であり、クラブとは本質的に異なる。  
 3. 上の表から準クラブとして茶華・手芸部がある。  
 4. 部員数は実部員数であり、名簿部員を加えると更にふえる。

一九六〇円  
柔道部

A

クラ

J D  
O

食堂

## 自治会とはこんなもの

諸君はすべて、四月一日付で大手前高等学校自治会会員になられるわけで、当然自治会活動に関心を持つ義務、参加される権利を持たれるわけです。生徒手帳をみますと、「本自治会は、学校当局並びに P・T・A と協力して、大手前高等学校の福祉を増進することを目的とし……。」といろいろ詳しく書いてありますが、ちよつと解りにくいと思いますのでまず組織について少し書いてみます。

役員の任期は、前期五月と九月、後期十月と三月（但し自治会四役及び学年代表は四月迄）で、四月中は臨時役員が活動します。自治会役員はほとんどは二年生で、毎年後期には一年生も出ます。

## 生徒総会

生徒総会は会期中二回以上、即ち最少限その会期中における自治会活動の予定の発表と報告の二回は行わねばならない。ここでは代表会議での決定事項を最終的に承認した

り又、否決したりする所で、全生徒があつまり、勤評問題から校内食堂の問題にいたるまで役員との質疑応答や意見発表など最も華々しく行われる。一年生諸君も一年生だからという事を気にせず、自治会で分らないことがあつたら大いにここで尋ねてもらえばよい。

## 代表会議

これは全生徒を代表する代行決議機関で、常任委員、学級代表で構成し学級や常任委員会より出されたあらゆる問題を討議する。議長は、総会と同じく自治会副会長で、週一回例会が開かれる。ここで決つた事や討論されたことは、すべて学級代表がクラスに帰つて報告する義務があるが、あまり実行されていないようだ。どんなことがあつたかを諸君から聞くぐらいになつてほしいものだ。又、自分の身のまわりで気のついたことは、どしどし学級代表を通じて発表してほしい。

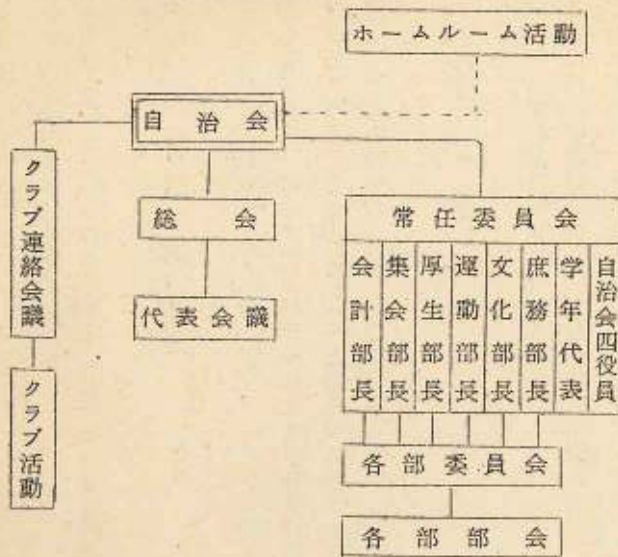
ける自治会活動の予定の発表と報告の二回は行われねばならない。ここでは代表会議での決定事項を最終的に承認した

の身のまわりで気のついたことは、どしどし学級代表を通じて発表してほしい。

## 常任委員会

これは常任委員、即ち自治会四役、学年毎に選挙された学年代表、代表会議において学級代表の互選により選ばれた各部部长（但し会計部長は自治会会計がなる）で構成し

自治会組織図



自治会の全活動に対する企画、及び代表会議の決議によるすべての業務の執行機関である。中心になるのはもちろん四役で、ほとんどすべてを四役でひたつていく傾向がある。常任委員中各部部长は常任委員としてより自分の部を運営する仕事の方が主である。しかしこの仕事の多くは四役の何人が手伝う。従つて四役の比重は特に大きくなり、それだけに辛いがやりがいがある。

学年代表は一般生徒の意見も吸収しやすいので、四役の行きすぎをおさえるのに都合がよい。また学年代表は日常同じ学年のものと接し、また投書などを取り扱ふところから各部部长の専門的意見より一般生徒の意見を代表しやすい。ところがあまり仕事が無然としているのでなかなかむづかしく、二年程前までは総会がある毎に存続すべきかそれとも廃止すべきか討議の的になつたものである。

各部長、各部の仕事は簡単にいうと

庶務は落し物の管理と校内風紀

文化は文化祭の運営、校外文化事業への協力、自治会便りの発行など。

運動は各種の校内大会の主催が主であるが、一年約十回の校内大会をスムーズにやるのは自治会の中でも大きい仕事の一つである。その他校との全校的体育交流を取り扱っている。

厚生は校内の美化と保健衛生、毎週各クラスに配られる

美しい花は厚生部の手による。

集会は朝礼その他あらゆる集会の指揮

会計は自治会のあらゆる財政に関する会務をうけもつ。

## クラブ連絡会議

これは常任委員と各クラブ代表者が集り、各クラブ間の意見を聞く会である。新クラブの誕生や準クラブ格下げ問題なども討議される。昨年度は映画・文芸部室に怪火が出、文化系クラブ連は部室存続のため大いに活躍した。

## 会計監査

今まで述べてきた常任委員の他に役員として会計監査二名がある。この仕事は特別会計即ち各クラブに関する会計に於る帳簿の監査と、一般会計である本部予算の収入、支出のお目付け役である。我々の出している自治会費が無駄に使われていないかどうかを終始監督してくれ、帳簿を見て印鑑を押すという地味な役だが重要ではある。

## 知識豆

食堂に入るとまず男子なら帽子、女子なら定期入れなどをおき席の所有権を宣言すること。

夢が本当に!!

誉ある大手前高校へ入学され  
全くお目出度う。

過ぎた努力はキツト楽しい思出でしょう。  
これからもしつかり御勉強下さい。

大手前高校のおなじみの店

## 学運堂書店

東区京橋二丁目五ノ二

私の店は大手前高校の皆さんのおなじみ店  
天満橋京阪電車の降東口前

電話は (94) 一五四 (いちごよう)

近い所は配達もします。

よい発行所の参考書を集めています。

学校のかえりはお立寄り下さい。

## 自治会活動メモ

### 文化祭

昨年の文化祭は運動会の一週間後の十二月十二日(日)に行われた。これは文化系クラブにとつては最大の発表機会であり、大変大がかりなもので準備も相当かかる。会場は演技の部は講堂、展示の部は本館の二階全部を使用した。自治会役員は、二、三日前述に教室を各クラブに配分し、プログラムを作成して印刷屋にまわすと、前期文化部長の設計による祝文化祭の歓迎アーチを作りにかかった。大きなベニヤ板を三、四枚買い、骨組みになる太い木は倉庫からさがし出してきた。十一日午後六時になった。アーチはもうほとんど組立ても終り、あとはもう色をぬるだけになったので、まず腹ごしらえに食堂にとんでいった。七時に仕事を再開、会長は自転車に乗って塗料店に行つた。御苦労にも彼は、アーチ完成まで五回もそこへ通はなければならなかつた。色は真赤にすることにした。給品部のおじさんにも手伝ってもらつて十時頃完了、組み立ててみるとなかなかいける。早速皆でかついで玄関に出した。月の光の中に赤黒くどつしりと立つ努力の結晶、みな思わず

拍手、当夜学校にとまる会長、副会長、文化部長を雜して皆は帰つていった。

朝が来た。保健室で安らかに夢を見ていた三人と宮崎先生は六時にとびおきた。まずラジオ体操、食堂で朝食を食べて講堂を整理していると、プログラムが到着したので、早速それを五十枚づつに分ける。もう生徒もちらほらやつてきていた。

九時に雨天体操場を生徒全員集合、開幕となつた。役員は前日決めておいたとおりに自分に割り当てられた仕事にとりかかつた。しかし仕事といつてもあまりいそがしくなく、劇を見たり展示を見に回つたりするひまをみてはやつた。展示の部では地歴はあい変らず奇抜なものをやつていた。肝心の外交史の方は参考書からひきぬいてきたようなものばかりだつたが、人形倒しと輪投げは人気を集めていた。又、杜研部は中国展をやつており、写真部そののけに多くの写真がはつてあつた。演技の部では、新開部の狂言「きようげん」が大いにうけていたようだ。

四時半に終つた。あとにはものすごいごみくずばかり。諸君は、こういうところは見習わないでほしい。それを、役員と四、五人の有志でかたづけるともう六時。ほつとして、みんなで食堂へ歩いていった。

(注)今年の文化祭は今のところいつになるか未定である。

## 北野との交歓大会

これは、本校と北野高校との間に年に一回、または二回行われる全校をあげての体育交歓会であつて、全校生徒の半数以上が何かの選手となつて参加するので、自治会にとつても大変やりがいがある。昨年の秋の大会を例にとつて説明しよう。

春は兜の緒をしめ忘れ惜敗を喫したので、臥薪嘗胆とばかり一ヶ月以上も前から体育研究室と連絡をとりつつ着々と準備をすすめた。十一月はじめ、いろいろなうち合わせのため、先生と役員三人は北野高校へタクシーでのりつた。まず日どりからはじまつた。皿に出された果物をカジりながら、十一月二十二日は大手前が模擬試験の終る日なのでだめだから二十九日しようとして決定した。種目決定は難行したが、活発な議論のあと大手前会場では男子サッカー、女子バスケットと職員テニス、北野会場では男子バスケット、女子ハンドボールと職員サッカーをすることになつて、とにかく予定通り会議がおつたので、バスにゆられて帰つた。それから二週間後今度は大手前の応接室で出場選手を確認、二十九日を迎えた。春の大会では後半雨にたたられたので役員一同大いに天候を心配していたが、当日は少しひやびやとした快晴、十二時二十分北野に行く選手が出発、十二時四十分には北野からのバスが到着した。

大手前会場では一時に開会さつそく試合にうつる。約二時間経過、試合の結果は新聞部の手を経て、続々と掲示板に発表されて行く。大手前では女子バスケットの旗色が悪い。それに反し男子サッカーはおしまくつてゐる。北野会場は可も無し、不可も無しというところだつた。四時半に閉会わずかの差で春と同様に凱歌があがつた。(但し相手に)

## 夕陽丘との定期戦

まず歴史からふれよう。今から十年前の事、学制改革により本校は大手前高女から大手前高校となり、北野高校との間で生徒、職員半数づつの交流が行われた。時を同じくして夕陽丘も天王寺と交流した。ところが北野と天王寺は長年ラグビー部の定期戦をやつていたので、片割れ同志の我等もやろうじやないかということになり、大手前と夕陽のラグビー定期戦がはじまつた。後にサッカー部も参加して今に至つてゐる。昨年は西宮競技場へバス四台をくり出して華やかな応援合戦を展開、サッカーは勝つてラグビーは負けた。

**識** コクゴやサンスウのトラの巻は給品部にあるが、  
**知** 買う時は数人で共同出資して買うこと。あるケラ  
**豆** プには三年間分完備し、その利甚だ大とのこと。

# 先生の高校生活

懐しい昔の思い出

本編は数年前、大手前新聞に連続掲載された「高校時代の思い出」の再版である。日頃おいかめしいお歴々の若き時代を少しでも知る事は、より親しい先生への足がかりになるかもしれない。又昔と今では社会環境の違いは大きい。これを読んで時代を超越した何ものかを得ていただければ幸いだと思う。

東京帝国大学卒業 二十三年三月中之島  
図書館より転任 本校国語科教員

## 朝田嘉蔵先生

高校時代の思い出を書けという注文で久しぶりに卒業アルバムや名簿を掘り出して見た。一人一人の名前と顔が青春時代の思い出をなつかしく繰りひろげてくれる。思い出すまま興の進むままにペンを走らせてみる。我ながら何がとび出すやら予想もつかぬ次第。

クラスの連中はそれぞれ一癖ある特徴のある奴

ばかり、何か一つの事にかけては人に負けんといううぬぼれを持つたうるさい型の集まりだから、クラスははち切れる様な潑刺とした気分満ちていた。詩人がいる、ピアニストがいる。右翼ばりの壮士型の奴がいるかと思えばマルクスに傾倒している左翼型の思想家もいる。宝塚に熱をあけて、月二回は必ず見てプロマイドを集めスターの特徴に非常に詳しい男（女にあらず、男女共学ではありませんからネ）もいた。音楽部で雇ったヴァイオリンの先生が女の人だったので人気を集め不器用な男がノコギリの目立ての様な音を立てるのに悩まされた事もあった。入学当初に友人から碁の手ほどきを受けた男、教授の休講時間や放課後など暇さえあれば寮の娯楽室に入りびたりで碁を囲んでいたが在学中に格段の進歩を遂げ、卒業時には校内無敵の腕前になっていた。

### 僕は西洋音楽レコード解説家

こうした猛者連の間にあつて僕は西洋音楽のレコードと音楽会に小遣いを入れあげていた。音楽のシヤリアピン、ヴァイオリンのシゲテイ・ジンバリスト、チエロのフオイヤーマン、指揮者のワインガルトナー等世界有数の楽人が続いて来日し、妙技に酔わせてくれたものだ。感激のあまり同好の友と夜を徹して語り明かした思い出もなつかしい。新しいレコードを買った当座は毎日々々何度も聴き、誰

彼の別なく半ば無理じいに聞かせたり学校では月に一回レコードコンサートを主催して得々と解説して悦に入っていた。クラスの自称詩人の選詩に迷曲を作曲してやつて得意になつた事もある。卒業アルバムに「音楽は生活の伴奏なり」ナアンテ分つた様な事を書いている。

## 走ればビリ

### 投げればボール紛失の僕

運動の方もなかなか盛んでそれぞれ皆活躍していたが、対外試合の時などクラス挙つて応援に出かけ寮歌や応援歌を高唱し、旗を打ち振り乱舞のかぎりを尽し、勝つても負けても泣いてわめいて若さの感激を満喫したものだつた。

僕自身は走ればビリ、投げればボールは遠くへ飛ばんどころか何処へ飛ばやらわからないという始末で、投げ打ち走るという類のスポーツは全然駄目だつたが、登山やスキーとスケートは好きでよくやつた。これも下手の横好きで、いつて転んで喜んでいるという程度だつたが、朝日会館の何階だつたか、おそらく今A B R Oの放送局になつてゐるあたり、それから旧歌舞技座のダンスホールだつたところ、この二ヶ所が大阪のスケート場でよく行つたものだ。スキーの方はまさか人工のスキー場なんかないから山へ出かけた。二年生の夏休みに白馬山麓のヒユツテに一週間合宿し、階下は雪にうづもれて、二階の窓から出入りする程の大雪

の中で朝から晩まで、夜は月明りの下で心ゆくまで男性的な痛快さを味わつた思い出はなつかしい限りだ。

僕のクラスは第一外国語がドイツ語だつたから週に十一時間もあつて随分悩まされた。基礎の充分分からぬうちにどンドン進んでしまつて、いつも追いかけてまわされてゐる感じだつた。試験の時など解釈を丸暗記したのはいいが、文中の人物の名を変えてあつただけで習つた文には気がつかず、応用問題のつもりでなげなしの知恵をしぼつてトンチンカンな解釈をした思い出もあつて、これじやドイツ語をやりましたなどとあまり大きな顔のできたものではない。この頃ドイツの秀れた音楽映画がつぎつぎに輸入され、「会議は踊る」「未完成交響楽」「今宵こそは」等の主題歌がクラスを風靡し教室がわれる様に騒いだこともある。この気分を時間中まで持ち込んでドイツ人の会話の時間がドイツ歌謡の講習会の様な観を呈する事も少なくなかつた。教授の中にはドイツに留学した人もあつたが、その時間などは御機嫌がよいと見てとると出席を取り終るや否や、「先生留学中の話をして下さい」とねだる。教授が「教科書が進まなくて困るんだが」と云いながらも、ゲーテの住んだ家の状況でも話し出されるともうしめたもの、次々と話をひき出す名人がいて、ウイーンのペーターベン、シニーベルトの墓や、ドナウ河の景色など教科書そつちのけの儘で話がつきない。授業終了のベルが惜しいぐらいだ。



「僕もやがては行くんだぞ。」と思つて眼をかがやかせていたかどうか、そのくせ時間のつぶれるのを喜んだものだった。今にして振り返つてみると、習つた教科よりこうした脱線の方が印象深く思ひ出されるのもほほえましくなつた。脱線といへば講義そのものが漫談の連続の様な教授も居られた。地理の先生で新しい著書を次々と発表する非常な勉強家だったのが、講義の方は誠に洒落なもので、「俺の講義の嘘を本当に見分けられる様になつたらもう講義を聞かんでもよい、満点をやる」と豪語して居られた。その講義ぶりを一つ紹介すると「エスキモーは氷を切つて壁に積み上げ氷の家に住んでいる。零下数十度の寒さだ。そんな寒い所でも子が出来る。子が出来るよ水がめに張つた氷を割つてその中へジャブンとつける。子はオギヤアオギヤアとなく。君等はアホやよつて冷たいから泣くと思うやろ。さにあらず、零下六十度の所から零度の所へはいり込んで熱うて泣くんや。」

## 試験に『問題外の事を』

### 書いては駄目ですか』

こんな事ばかり書いてみると、勉強もしないで遊んでばかりいたと思われぬかも知れないが、思ひ出という事になるとこうした印象深かつた事ばかりが思ひ出されて来るのは是非もない。勉強する時には随分頑張りもしたが中には

徹底的に遊んで暮した男もいた。試験の前日になるとよく勉強している者にヤマをかけてもらつてそこだけ一生懸命に暗記して試験を受けたところが、南無三、ヤマがすつかりはずれて、全然読みもしなかつた問題ばかり、せつばつまつて先生に「問題以外のことを書いては駄目ですか」と尋ねる心臓ぶり。教授も心得たもので、「マア何なりと書きたまえ、書き賃位はやるわいな」こうした事がつもりつもつて学年末になると毎年一割位の人数が落第の憂目をするという次第で、教授の家を訪問して拝み倒してもあとの祭り、全くいいことばかりじゃない。

卒業アルバムや名簿を見ているところした逸話ばかりが浮んでくる。今ではもうみんな二、三人の子供のある四十九ぐらいの働きざかり、大会社、銀行等の部課長級、中小会社の社長、重役などがずらりと並んでいる。この間これは高校ではないが中学校のクラス会を卒業後二十年ぶりにやつた。会するもの二十数名、みんなすつかり變つてしまつて名前を言われても名と顔がなかなか一致せず、話しているうちに、ヒョイと昔の癖を見付けて、ああそうそうと思ひ出したりする。その時、「朝田、君はあんまり變つて居らんなあ」というから、「そんなに若く見えるか」と云えば、「いや、君は昔からヒネた顔しとつた」と云われて、僕は苦笑、みんなは爆笑したことだつた。中に随分頭のはげた男が居て、前からテツペン迄ツルツル自ら名乗るまで

は彼が当時の紅顔の美少年だつたと誰一人気付くものもなかつた。この男、招待した六十幾つの恩師の頭とはげつぶりがつくり、「君は先生と見分けがつかんぞ」といえば「そうか、後の方に残っている毛は俺の方が黒いぞ」さてその後、毎日授業をしながら、この子は二十年たつたらどんな顔になるだろうかなどと、二十年後の再会の日を夢みつつ、教壇の上からしみじみと生徒諸君の顔を眺めることもある。

## 石山直一先生

東京帝国大学卒業、高津を経て二十一年八月本校へ転任 社会科教官

平凡な学生生活を送つた私にも高等学校時代の思い出は矢張り懐しいものである。高等学校へ入学すると同時に中学時代に反して自由清新な空氣が爽やかな風のように私の心に吹きこんできた。現実の果汁的な対照物と関りなく心は常に高にか高邁なものに憧れて楽しんでゐる事ができた。高校の学生にとつては一応共通のことからであるうが特に私は現実の世界に目を開くことに於ては幼稚であつた。将来の志望も未だ確定せず、ただ理科系統の学科が嫌いなので文科を選んだのだつたが、文科系統の中で法律と経済が一番興味もてなかつた。今でもそのこと

に変わりがないのに、社会科の担当をしなければならぬとは皮肉なものである。漠然と文学というものに興味をひかれていたが、それが学問としてか芸術としてかわからなかつた。友人と書物を廻しあつて主にロシアやフランスの小説を翻訳で読み耽つたのは楽しい思い出である。トルストイの「戦争と平和」のような長いものを一気に読み終つたのも、勿論興味に惹かれてではあつたが、その一つは後から後からと追い立てるように、友人から書物が廻つて来、又早くこちらへ廻せとの催促を受けるからでもあつた。アウステルリッツの戦であつたか、主人公の一人が負傷して戰場に倒れたまま空を飛ぶ白い雲を仰いでいる所の描写などいま尚、心に残っている。永遠性というものがぼんやりこの年頃の私の心に入つてきていたのである。エグリーマンやコリンズ叢書を買つて英語で小説を読み飛ばす事も、この頃又別の友人の影響で覚えた。この殆んど全部が英語の小説だつたが、英語で読むというハンデイキャップは別にしてもロシアやフランスのものに比べて余り面白くない感じがした。更にその頃斎藤勇さんの英文学史や竹友藻風さんの美文譚の「書物と人」という本を読んで、少しも興味を感じなかつたことを覚えてゐる。思うにその頃の私の精神状態は文学のもつ芸術性というよりも文学を通して眞実な生活態度を得たいという気が強く動いていたのらしい。そのくせ一方では同好の士と友に詩の同人雑誌を作つて英

詩の翻訳や創作詩を書いていたりして居た。国語は中学生の頃から私の最も得意とする学科であつたが、その頃は国文学を研究する事は、現在の生きた問題を逃避して古めかしい世界にたてこもるように思えて反抗を感じた。

そして又文学を自分の仕事として選ぶのなら他人の研究をつつきまわすより、他人に研究されるような作品を自ら創作するというような気分つた考え方をしたりした。そのうちに心の奥底になにか絶対確実なものを掴みたいという要求が愈々強くなつて法律や経済は勿論文学にもものたりなさを覚えるようになった。三年生の時だと思ふが丁度ドイツへの留学から帰つて来られた、今関大の学長をしていられる岡野先生の哲学の講義を初めて聴いた。哲学とは何かわかりもしないで何となく期待をかけていたのである。

ハイデッガーの存在論を中心としたものであつたが、ハイデッガーの特殊な用語法が木葉の遊戯のように思われて部分的に心を惹きつけられる所もあつたけれども、全体としては充分に分らなかつた。又先生が放課後特別指導をして下さつた。ドイツ語でカントの読書会へも出席したが、認識論というものは私の心の求めていたものと、まるで縁遠い感じて全く失望した。後になつて考えるとまことに幼稚な精神の動きだが当時の私としては幼いなりに真面目に色々と思ひ迷つたものである。

然しこのような迷も全く苦渉に充ちたというようなもの

でなく、その一方友情やスポーツを充分楽しんでいた。私は学校を出てから身体をこわして運動をすっかり止めてしまつたが、高校時代は陸上競技部へ入つて短距離を専門にしていた。但し万年補欠で対外試合に出して貰つた事は一度もない。その代りクラスの対抗試合には、リレー、ラグビー、野球には必ず出場した。苦手はテニス、バスケ、ボートレース。ラグビーといえばその頃大高の全盛時代で全国高等大会の優勝戦に当時猛者揃いの東京高師を一代ドロゴールの差で破つて全国制覇をしたのも私の在学中であつた。この人達の大部分が京大へ入つて京大の全盛時代がきた。早稲田も慶応も明治もその頃の京大の駿足、華麗な戦い振りには全く抗すべくもなかつたのである。

## 知識

本校の生徒の玄関口と云うと、雨天体操場の下駄箱の並んでいる所、学校へ行つていきなり目につくのであまりよいものでもないがかなり利用価値はある。まず、下駄にあらす靴を入れるのはあたりまえだが、二年、三年の兄ちゃん姉ちゃんたちに運動用具や常時必要のない書道絵画用具、はては英、数を除いての教科書まで入れている猛者がある。鍵は数字を合わせるものに統一されているが時々知能犯に開かれる由

# 斑鳩いかるが

## の里

### (大和古寺見学記)

地歴部 芋野文子

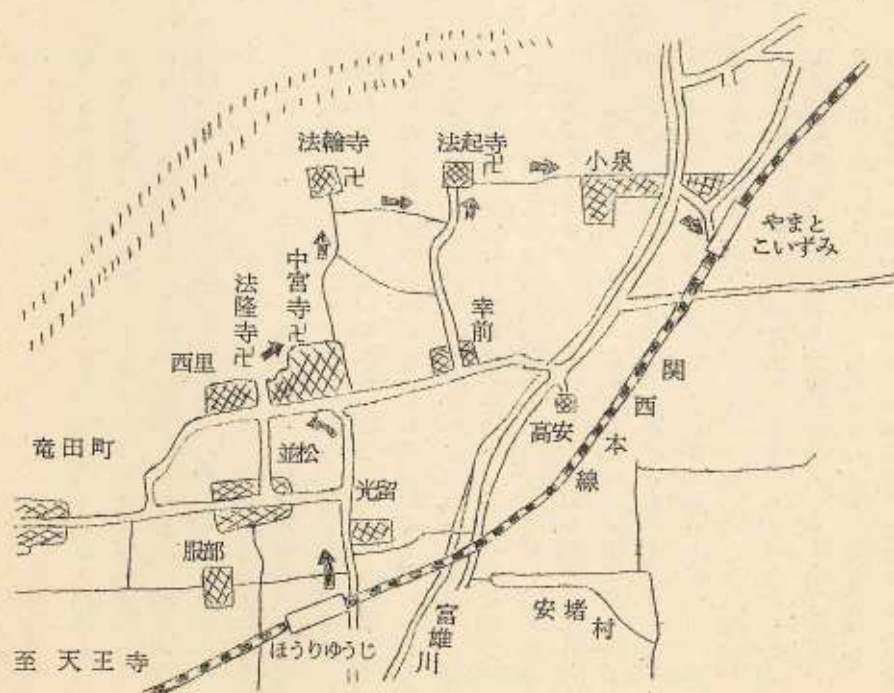
奈良の西南約八<sup>〇</sup>八田丘陵を背に斑鳩の里がある。斑鳩の里といえは聖徳太子を思ふ様にここは太子が生涯を送られた縁の土地である。南大門に至る道には濃緑の美しい松並木が続き、その果てには中門と五重塔が紺碧の空を背景にくつきりと鮮かな輪郭を示している。南大門に入る。境内の白い砂地に松の緑が映発して辺りに清秀な雰囲気を漂わせている。抹香くささというものが微塵も感じられない。一歩一歩尊い物を踏む様に正面廻廊を迂廻して中門に入る。すぐ目の前には金堂、五重塔、中門が恰も鼎立するかの様にしかも均衡の美を保ちつつどつしりとそびえたつている。法隆寺の象徴ともいふべき祀崩しの勾欄や雲形肘木、人字型割束が克明に見え、わずかに膨みのある柱がエキゾチックな美しさを醸し出している。金堂に入る。本尊である釈迦如来が二体の脇侍菩薩を従えて奥まつた薄暗い中に安置されている。この像は聖徳太子が御病氣になられた時太子妃や諸王子達が深く憂え、御病平癒なる様もし御寿命

ならば速かに御仏の浄土に往生される様にと発願し、止利仏師に作らせた物であるという。なる程太子の現身を再現させたといわれるだけあつて顎の張り出した尊顔にはその強固な意志と総明さがありありと窺われる。しかしその口許に浮ぶ不思議な微笑がなぜか私に近より難い感じを与えらるのだ。その像の余りにも神々しい厳肅さの故であろうか感激醒めやらぬ胸をおさえつつ静かな境内を通つて宝蔵殿に入る。コンクリート造りの近代的な建物の中にはあまたの仏像や模写された壁画、玉虫厨子等が秩序整然と保管されている。古美術知識の薄弱な私は厨子とは高さ三十<sup>〇</sup>位の物とばかり思つていたので二<sup>〇</sup>三<sup>〇</sup>もあるばかりでかい物なのですつかり興奮してしまい有名な捨身飼虎図にも大して感動しなかつた。結局多くの仏像を見た中で私の脳裏に鮮かに印象づけられているのは百済観音ただ一軀だけであつた。厚みのないすらりとした清楚な姿態、ほのぼのと夢見る様な臆、おおらかな微笑をたたえた唇、流れる水の様に慎しく足にまつわりつく裳裾；生き生きとした悦びに溢れて今にも歩き出しそうだ。遠き世に飛鳥人は慈愛に満ちたこの像にどんなにか陶醉した事であろう。私も又茫然とその孤高な姿に見とれていた。しかしその無我夢中の没入の中でさえも私は何かやりきれない様な一抹の不満を感じずにはいられなかつた。もしこれが当然あるべき場所：薄暗い金堂の片隅にでもそつと何気なく置かれてあるのな

らどんなにすばらしいだろう。きつと飛鳥人の嘆息が身近に聞こえたに相違ない。しかし百済観音はガラス張りの特別室に閉じ込められ、その他諸々の御仏も御厨子も冷いガラスの壁で私達から隔離されているのだ。これでは仏様も何もあつたものではない。私はわびしい嘆息の洩れるのを防ぐ事ができなかった。採光、防火設備の完備した近代建築の中にお住いになつて仏様はさぞかし居心地よく、至れり尽せりの保護を喜んで居られる事だろう。知識欲の盛んな教養人に懐中電灯で照らされ、オペラグラスでじろじろと覗き込まれて仏様は赤面していらつしやるかもしれない。それとも彼らの知つたかぶりをした迷鑑定振りに感嘆して苦笑していらつしやるかしら……。私は芸術作品並みに扱われている仏様がお気の毒でならない。確かに一所に宝物を集め、解説をつけて整然と並べてあれば、芸術作品として鑑賞する者にとつて非常に便利で、教養を高める為にもつてこいであり、又文化財保護の意味からいつてもこれほど結構な方法はないだろう。だがこれ見よがしの陳列品からは私達は自分の肌でじかに古仏に触れ、古を感じ取る事ができないのだ。ガラスの中の百済観音はもう百済観音ではなくなつてゐるのだ。東大門を出て真直に二丁程行くと東の方に夢殿の美しい八角の円堂が見えてくる。屋根の上の宝珠露盤がキラキラ輝いて美しい。夢殿の地は太子の御邸であつた斑鳩宮の址といわれ、千三百年の昔太子が眠

想の為にここにお籠りになつたという。この薄暗い御堂の中で太子は血族の相剋を憂え、平和な国家建設を祈念して静かに瞑想して居られたのだろう。泰然とした面持で一心に深思して居られる太子の尊い御姿が目に見えぬ。蘇我氏の専横と陰謀の渦巻くあの暗たんたる時代に摂政にたれた太子の胸中の憂苦はいかばかりのものであつたらうか。生憎季節外の事として夢仏の秘伝たる救世観音を拝せなかつたのは残念だが太子の心魂が永久に宿るこの御堂を見る事が出来ただけでも私にとつて幸せな事だつた。私は夢殿にいたりし日の太子を忍び無意識のうちに御堂に手を触れていた。と突然後方から「さわつちやいかーん」という怒声。遠く飛鳥に思いを馳せていた私はその声で俄かに現実の世界に引き戻されてしまつた。悲しかつた。私の夢を破つた堂守の禿頭を平手でビシヤリと殴つてやりたい程口惜しかつた。ここでも又芸術作品としての夢殿をひしひしと痛感させられた。法隆寺夢殿をめぐる上宮王院築地塀に沿つてしばらく行くと白砂に浄められた中宮寺の門前に着く。このお寺は太子が御母穴穂部間人皇后の為に建立された宮殿であると言う。塵一つ留めない砂の掃目も鮮やかな内庭のたずまいにさすがは由緒尊い尼寺の気品が窺われて自ら身のひきしまるのを覚える。仄かでおつとりした寮囲気はこの様な純潔な優しさに満ちた尼寺ならではの味わえないものだ。仄かに銘香の籠る御堂に本尊如意輪観音を拜む。あゝ

何と美しい思惟の姿であろう。眼のあたりにこの像を拜して誰か感動しない者があろうか。僅かに上体を前に屈し、すんなりと伸びた左足の上に悠然と右足をのせ、右手の指をかすかに頬に触れている半跏思惟の姿——きつちりとひき締った漆黒の肢体は、正に絶世の美と気品とを表している。その柔軟で弾力性のある感じは一体どこからでてくるのだろう。その伏目がちな臆は一体何を見つめているのだろうか。半月型の眉と高い鼻筋には逆り出る様な知性の閃きが見られる。そしてその微笑——ほのぼのと匂う様なその微笑には無限の懐しさが、深い慈悲の心が、そして暖い愛情がしみじみと感じられる。物の本体に深く観入し、心の奥底の云うに云われぬ苦惱に耐え、それを超越した後にふと湧き出る様な微笑——そこには何の焦そうも苦しみの表情もみられない。今にもその唇がふつと綻びて何かを語り出しそうだ。私はいつまでもその場に坐りこんで何もかも忘れてこの御仏のふところを抱かれない様な衝動にかられた。いつの世にかこの像を拜したたろう飛鳥人もおそらく今の私と同じ気持で身も心も投げ捨ててこの観音像に没入したにちがいない。本堂の北隅には日本最古の刺繍遺品である天寿国曼荼羅幡が奉安されている。これは太子追慕のあまりその御冥福を祈つて太子の後生を天寿国に樂しまれる様を宮廷の采女に刺繍させたものであるという。その一針一針に太子に対する妃の深い愛情がこめられている様に



感じられて、思わず私はブルツと身震いした。

中宮寺を過ぎて北へ二丁許り歩いて行くとまもなく広々とした田野がひらけ始める。大和平原を右手に眺めつつ、法隆寺の北裏から東方へきれぎれに連なる丘陵の間をつたつて古の平城京へ近づいてゆく途中の風光は誠に和やかで美しい。私達は胸一ぱいに古の空気を吸い込みながら口笛を吹いたり歌を歌ったりして足どりも軽やかに畑中の道をゆく。おそろく飛鳥の人々もうらかな春の日や、澄みきつた秋空の下を二三人連れだつてこの道をそぞろ歩きした事だろう。どこからか古の恋人達の愉しそうな話し声がかきこえてくる様な気がする。ここには飛鳥のゆかしいかおりが満ちあふれているのだ。何だかこの野辺に寝ころんで一日中うつらうつらとすごしてみたくなつた。やがてはるか彼方の森の中に法起寺の三重の塔が美しい薄紫の姿を現わし始める。さあもう一息……私達は塔をめざして小犬の様に駆け出した。法輪寺は古くは法琳寺又は三井寺、御井寺とも云われ、推古天皇の御代に聖徳太子の子、山背大兄王によつて創建されたと伝えられる古い寺で、法隆寺式の伽藍配置をとつているそうだが三重塔は昭和十九年に焼失し、金堂も壁が剝落して荒廃寸前の状態であり、先に法隆寺の美々しい補修再興振りを見た目にはそれが実にみじめなものに思われた。だが古寺の風格や風情はこの様な朽ちて崩れてゆくものの中にあるのではないだろうか。この寺の

講堂も現在、鉄筋コンクリート造で再建されつつあつたが私はそれに幻滅を感じざるを得なかつた。

本尊の薬師如来坐像も十一面観音立像も彩色が離脱して異様に薄気味の悪いものであつた。私達の斑鳩遍歴の最後の目的地たる法起寺にたどりついた時には日もようやく西に傾き始め、私達も快い疲労を覚えていた。何かイタツテをしてみたい気持がもくもくと湧いてくる。湿つぽい空気の塔の中に入つてみると丁度あつらえ向きに塔の頂上に達する古い梯子がかかつている。この上に死人の髪の毛を抜く老婆でも居るんじゃないかと皆は眼を輝かせる。岸田先生を先頭に亀の子がはう礫に真暗闇の中に登つてみた。たそがれの斑鳩の景色は実にわびしい。妙にセンチメンタルな気持になつてしまつた。大冒険の後、私達は境内のベンチに腰かけて、せむしの老寺守からお茶を御馳走してもらつた。私は何故かその老人に不思議に親しみを覚え、萎縮したその背をなでながら昔話に耳を傾けたい様な欲望にかられた。老人の額の深い皺の中に、悲しそうな二つの目の中に、古の色々な物語が隠されている様に思えたから――。古典は人の心を和らげ、高めてくれる。清らかなものに少しでも多く触れればそれだけ私達の心も清くなつてゆく。古典は私達の最良の心の糧だ。大和の近辺に生れた私達は幸せだ。こんなにたくさん清らかなものに触れる事ができるのだから――。今のうちにできるだけ本物に接しておきた

い。古寺や古仏の本当の美しさ深さは絵や文字などではとも知る事はできないのだから。毎年毎年美しい季節がめぐってくるたびに、私の心は法隆寺の百済観音や、中宮寺の思惟菩薩に飛鳥のかおりを求めて斑鳩の里を訪れることだろう。

(終)

## 小 説 『男 の 話』

文芸部 杉岡正敏

私が久し振りに郷里に帰省するために乗船したある定期航路船上で、私は奇しくもその男と面識を持つこととなった。その夜私は幾分と快よい疲労感に身を横たへながら、特別注文の濃いコーヒを飲んでゐた。舷窓の外は只黒々した闇夜、遠く地平線と思われる辺の幾つもの灯火がまるでお伽話の幻影のようなはかなさを以つて、何か暖かみを帯び、月の照映えた海が蒼白くヒタヒタと波うつている夜。始めて経験した夜の海は全くすばらしかった。「潮風に吹かれてみたい」私はふとこんな感傷にかられ、デッキに出てみました。彼もまたそうでした。同じ偶然さで乗合させた我々ですが即ち意気投合したのです。話に花が咲き、青春の頃のいろいろな貴い思い出話へ話が移つていったので

す。男の年の頃三十四、五、確かに世帯持ちと思われる風貌でした。「今でも、後悔と腹立ちとみじめな感情を、いいえ到底そんな言葉で表現できはしないのですが……」男はこう切出した。「確か中学二年の時なのです。これからお話ししようとするその桂子の存在を知つたのは全くの偶然でした。放課後がらんとした廊下で私は数人の連れだつた女性に出会つたのですがその中に桂子がいたので。彼女は私を見てニコリ微笑むのです。私は一瞬ドキッとしました。ついぞ経験したことのない感情が私を驚かせたのです。」男はこう言つて小さなはにかむ仕草をしてみせた。「首筋から身にかけて真赤になつていたのですが、私はドギマギしながらも平静を取戻そうと努力しました。そんな偶然の小さな機会が今まで私にとつて何の意味を持たなかつた彼女の存在を私の心の隅に植えつけたのです。」男は彼女が自分の近所に住んでいた事、一年下である事を附け加えた。

「特に美しくはなかつたのですが、強いて言えば」彼は続けた。「どこか逆に私よりも年上を感じさせる女なのです。彼女は週に少くとも三度は必ず私の家にやつてきました。非常に大胆なのです。大抵はとりとめのない事を云いつたりしたのですが、たまには勉強もみてやりました。話は前後するようですが。」彼は言葉を途切らせた。

「そうした彼女の気安さが学校に於ても同じでしたので、



彼女との結びつきが幸か不幸か級友の知る所となつたので  
す。所が不思議な事に……。」彼は一寸考え込む様にして  
「お解りになつていただけるかどうか」と言つた。「級友  
のからかいに満ちた、いくらかは羨望的(といえます)のは  
彼女はかなり男性によつては人気があつたのです)な、ひ  
やかしが彼女と私の両方に向けられ、その結果私を一層級  
友と孤立させ、返つて彼女と親しくさせた、そんな風に私  
には思えるのですが……。いかがでしょうか。」

私は暫く間を置いて「あり得ることですね。」と返事した  
。「彼女の容貌の事なのですが」男の話は続いた。「前に  
もお話した通り彼女は決して美人ではありません。どちら  
かと言えば私の好むタイプの女性ではなかつたのですが、  
歯並が突にきれいで、笑うと白い歯が印象的な事でした」  
男は視線をデツキから暗闇に転じてしばらく黙つた。エン  
ジンの微動が足下より伝わつてきた。「ある夏の午後私達  
にとつて重大な時となつたのです。私達は私の家の物干し  
で降りそそぐ太陽の中に二人きりで黙りがちにはみかみな  
がら、青空や、屋根や、樹々を眺めたりしていました。こ  
の私達の光景は他人には何と写つたでしょう。」陽は降り  
そそぎ、さつきから私の胸は早鐘のように高なり、私の息  
は乱れ、その胸の鼓動が手にとるように聞えるのです。私  
は化石にでもなつたようにじつとしていました。ついさつ  
き私は胸を押殺すようにして上ずつた調子で愛しているら

しい事を彼女に告げ、それからいかにもぎごちない手つき  
で彼女の髪を愛撫してやつたのです。彼女はじつとさ  
れるままになつていました……。ね、お解りになつていた  
だけのでしょう。太陽のふりそそぐ中で私達は二人きりだ  
つたのです。」男はこの点を強調した。「今幸えてみます  
と」男は追憶の糸を引き出すようにゆつくり話し出した。

「確かにその時私は衝動にかられていたので。そうした  
情況が私の理性をどこかに追にやつてしまつたのです。失  
われゆく理性を感じながらどうすることも出来なかつたの  
です。話はこれからなのですが。」男は大きく息を吹い、  
私は私で「まあ、私の船室でコーヒでも飲みませんか。随  
分夜気がつので来たようですから。」私は男が軽く苦笑  
いしたのに気づかなかつた。男を誘つて私達は船室に戻つ  
た。私は二人分ボーイに注文した。男はゆつくり飲み始め  
た。「その事件以来、尤も馬鹿げた私の自尊心のせいだつ  
たかもしれませんが、私は内心気まづい思いで彼女に接し  
ているのですが、彼女は全然気にしていないといつたよう  
すなのです。かえつて積極的にさえなつたと思われるので  
す。ある晩、私が二階で勉強中彼女がやつてきました。夜  
風が涼しい夏の晩でした。「とつても涼しいわね。」こう  
言つて彼女は私の机の真横でじゆうたんの上に平気(?)  
で横になるのです。その姿は非常になまめかしいものでし  
た。私はドキドキしました。彼女は意識的にある事を予期

しているのか、私が彼女の相手にもならず、愚かな自尊心、或は内気さから、全く彼女を無視している様子をみて、今度は私の椅子の背に手をかけ、私の勉強をのぞき込むような恰好で、私にくつと身を幾分押しつけるのです。私は身をかたくなにして彼女の胸のくいいるような感触を鋭敏に感じながら、恰もそれを拒否する事が自分の弱みをさらけ出すことであり、又彼女に対する侮辱になりはしないだろうかと困惑しながらも……その姿の肌感覚は今も私に焼きついているのですが……。私が彼女にある圧迫を感じ出したのはその事件以来間もなくの事なのです。夏から秋へ、そして私の心も秋風の立つ秋へ。色々な原因が推積して一度にやつてきました。たびたびの事なのですが、彼女は私の机の上で不用の紙に女優の似顔を描いてみたり、かと思えば私のケシゴムの一部を何というあてもなく削り散らしたり、或は私の貯めている切手をねだったりするので。私が注意してやつてもそれ程気にかけることはありませんでした。私が内気で彼女を無視していることが必然的にそうさせたのかも知れないのですが、彼女の幼稚な面が私には気になりました。そして「彼女の鈍感性も。これには全くまいったのです。男の映画俳優では誰が好きだとか、(こんな時、私はつい不満の色を顔に表わすのです。)すると彼女は笑うのです。彼女が乱視であるとか、或はもとに逆のぼれば、何か意味ありげに彼女が学校で私

との事で冷かされているなど平気で言う女性なのです。彼女は軽卒なのです。私は倒底起り得るとは考えられない事——彼女を私の結婚の相手としてみた場合を愚かしくも夢想してみたりするのです。するとその考えがたちどころにガラガラ音をたてて根っこから崩れ去っていくのです。彼女にはその頃の年令にとつて、そんなささいな事でも、それがどんな影響を及ぼすのかわからなかつたのです。」話は一寸とぎれた。「あなたがもし彼女を心から愛していたのなら、もつと話はちがつていたのじやありませんか。お聞きしてきますと……」私はこの言葉が相手にどんな影響を与えるだろうか内心心配だつたが、あえて聞いてみた。「お恥かしい話ですが、確かに仰言る通りなのです。」彼はコーヒーを飲み終え私に丁重な礼を言つて又続けた。「始めにもお話した通り、結局、彼女が私の好むタイプの女性でなかつたということに帰着するようです。彼女の髪の毛を愛撫せずにはおれなかつた感情もつまりは衝動であり、私の気まぐれであり、彼女を中途半端に愛した事(というのは彼女は決して容貌が悪いという訳ではなくある瞬間に於ては一見魅力的でさへあつたのですが)が全ての原因だと私には思われるのです。しかしこれではあなたの問いに答えていません……。実はその頃彼女よりも年少の少女を愛していたのです。愛くるしい、美しい優美な目、かわいらしい整つた口唇、ふさふさした髪の毛、全てが全く生き生き

しているのです。彼女を見ているだけでも、私は心をふるわせました。私は彼女の清純なさまを愛せずにはおれなかつたのです。身勝手であるかもしれませんが、桂子がいかに欠点だらけに見えるか、解つてもらえらると思つたのですが、「彼は続けた。「太るのを嫌うのは最も普通の女性の感情だと思つたのです。それが桂子の場合には、私には馬鹿気て見えたのです。私は彼女に少しの興味も起らなくなりました。」男は私に煙草を所望して「一寸休ませませんか。」と言つた。私は同意した。

「不幸にも、運命の女神は私をその少女から引き離しました。私は数日少女の事を夢想しては悲しい私の不幸を泣き続けたのです。私の心はカラッポでした。全ての事が無意味に思われるのです。夜も悲しく興奮して眠れません。で私は一計をめぐりました。そうせずにはおれない気持でした。少女の心のどこかに永久に消える事なく私の存在をつなぎとめて置きたい。ふとした機会にでも思い出してくれさへすれば……私は胸をふるわせて少女の兄宛にクリスマスカードを送つたのです。私は次第に心の平安を取りもどしていききました。所がそのカードが宛先不明の理由でまい戻つたのです。私ははかなく見つめました。文面を幾度も読み返しました。目頭がジーンと熱くなつてくるのです。きつと移転早々のため宛先が確認出来なかつたのに違ひありません。最早私の望みも完全に絶たれました。彼女

はきつと私を忘れてしまうことでしよう。私はその晩もあくる日もそして毎晩コーヒを飲み続けました。その頃すつかり習慣づいてしまつたのです。彼等はその時起つたのです。桂子がいつのまにか私の机の引き出しからそれを見てしまつたのです。私達の間さまづきと白々しさが感じられました。彼女は時々私を責めました。私が嘘をついたというのです。私は一言もありませんでした。しかし彼女は相変わらず私の家には来ていました。その度毎に気まづい思いをするのですが……。その彼女も又一カ月程して移転したのです。不思議にも私は一人取残された空白な心地でした。今でも後悔の念を新たにしますが、彼女は私の机の上にその日リンゴ四つと移転知らせを残して行つたのです。私は複雑な気持でした。私達は不自然なまま、お互いが融合する事なく別れてしまつたと思えたのですが……。私が心寂莫として日を送つている中に二年経ちました。私は殆んど桂子の事を忘れたのですが、その彼女がひよつこり私を訪ねて来たのです。彼女はもう高校生でした。私はなつかしい気持と謙虚な気持とで一杯でした。これ程謙虚な気持になつたのはこれより後にも先にもありません。今後こそ私は勇敢に彼女をポートに誘いました。(以前彼女に私のいくじなさを冷かされたことがあつたのです。)

私はあの奇妙な初対面のことやいろんな思い出と一緒に彼

## 新しい意味の弁論

弁論部 杉本与里子

一、おしやべり、イコール、弁論

女を眺めました。かつて私が思わずも愛撫してやった髪の毛が今ではきれいにペーマされていました。彼女はちよつと笑いました。紺のボツクスの下に真赤なセーターが覗いていました。プローナがとても似合つて今までのどの彼女よりも一段と美しい彼女でした。そんな彼女に、私は彼女が私の後姿を見ているのを意識せずにはおれませんでした。私は、しく緊張し、威厳と落着きをもつて背を真直にして歩きました。しばらくすると何だか滑稽な気持になつてくるのです。風がすつと吹いて私はその中に女性と大人びた桂子を感じました。私は二年の時の経過を新たにしました。「本当に来てくれてよかつた。」そう言つたまますぐ言葉が途切れました。私は何か言わねば、と思うのですが、それでいて何も言えないのです。私は沈黙に耐えられずに一寸して「プローナが素敵だね。」そう、僕は謙虚に讃めました。風がさつと吹いて、水面がざわざわ波立ちました。彼女は答えた。「これ、ボーイフレンドに貰つたの、この手袋も。」彼女はいたずらっぽい顔をしました。私は愕然としました。かつての彼女を発見したのです。複雑な気持ちでした。私は我に返りました。私は漕ぐ手を止めて心の中である感情を噛み殺してしまいました。突然少女の顔がふつとよみがえりました。男は言つた。「今でもあの時の感情はわからないのですが。」

私達の頭の中、いろいろな事に対する考え方というものが、全て言葉で組立てられていと言つたら、それは誤りでしょうか。私は、私達人間が言葉を持つからこそ、私達自身、人類を発展させて行けるのだと思つたのです。文字にしても話し言葉にしても、意志の伝達には言葉が不可欠の条件であることは言うまでもありません。と言つても私達は、空気や水の重要性ないしはその存在さえ忘れていように、無意識に声を出し、いろんなおしやべりをしていきます。そうして、弁論するということは話すことの特異な一分野であると考えているではありませんか。少くとも弁論部の活動というものは壇の上で手を振り、机を握りこぶしでドシンとたたいて、「——」と思つたのであります。——「諸君！」と大声で叫ぶ練習をすることだと思つているのではありませんか。

弁論とは、自分の考えを人にわかつてもらうように話を

することです。ある意味では他の人と話合いをしてお互いを知り合うことも弁論なのです。又投書や論評というものも目を通しての弁論であると言えます。ここで私達は「弁論」は即ち「話す」ことだと気がつきませう。「話す」ことが必ずしも壇の上で大衆を出すのでないことがわかれば、やつと私達が弁論を大分正しい目で眺められるようになってはならないと言うのも、そもそも弁論などというカタ苦しい語感を持つ漢字のせいなのです。言葉というものは全くむつかしいものです。

だからこそ言葉は正しく操縦する必要があるし、同時に正しく理解する必要も生じて来るのでしよう。話すことや言葉について勉強すると言うことは、殆んど無限な極広範囲にわたることです。

### 二、弁論の魅力

私達が何か行動するには大いなる動機があり、それは魅力を感じることによつて生まれて来るのだと私は思います。私がそれ迄ずっと敬遠し続けていたにも拘らず、弁論を再認識し、弁論部へ入る気になつた動機というのも、私が弁論に魅せられたからなのです。では魅力を感じるようになつた動機と、入部した目的について述べてみましょう。

高校生活が始まつてすぐの校内弁論大会に参加を余儀なくされて、当日迄の一週間、私はその原稿を書かねばならなせんでした。一週の前半は憂うつと悩みにとざされました。私は元來声が大きくないし、押しつけがましいように思える大嫌いな弁論などやりたくないし、第一、どんなことをどんな風に述べたらいいかという大問題があつたのです。

けれど沢山の友達や比喩や助言を得て原稿がまとまつてくると、今度はだんだん楽しくなつてきました。原稿を書くことで自分の考えがまとまつて来ました。他のできるだけ多くの人に自分の意見をわかつてもらふ必要から、それについて他の人の意見を聞いたり本を読んだことは、私にとつて大きなプラスになるということがわかつて来ました。そうして原稿を書くことは、自分で漠然とした心の中の問題を一まとまりにはつきりさせ、より深くつっこんでものを考へて行くのを知らず知らず助けているわけなのです。徹底的に考へることは、人間として精神の最大の活動ではないでしょうか。(学問的な研究も含めて)

「そうした時間を多く持つために」(大声をあげるためではなく)というのが、私の入部の目的でした。

### 三、民主主義と弁論

話すことが弁論なのですから、私達はその目的になつ

た話し方を考えて実践すればいいわけです。民主主義が発達し、マスコミが発達すると、「話す」ことがだんだん重要になつてきます。いざこざを解決するにも、何かを討議するにも、静かに話し合うのが最大の手段であることは、もう疑う余地がないと言えます。私達が基本的人権、自由権及び平和の意義と重要さを理解し、それらを積極的に守るには、利己主義に対する民主主義の主張が絶対的に必要だとは思いませんか。その認識とそのあり方についてのおだやかな話し合いをみんなができたなら、それは殆んど完全な、人間的な自由を持つ民主主義の社会であると思うのです。私達は封建社会か独裁者の社会に逆もどりしてしまわないように、私達の自由を守るために、民主主義を主張するべきでしょう。そしてその話し合いは、何度もくり返したように、静かに情熱を他の人の心にそそぎ込み、他の人の心を確かに受け取ろうと耳をすまし、わからないことをおだやかに尋ね、要領よく納得してもらえようように答えるというものであつてほしいものです。

言うまでもなく、多くの人に話をする時も、これと同様に静かな情熱のこもつた（決してどなつたり、絶叫したりしない）態度と口調が必要で、最近ではマイクを使用して無理な発声がいらなくなりました。私達は直接に弁論部の活動に参加しないまでも、常に何かを心にまとめる努力をして生活を見つめ、人を理解しよう理解してもらおう

と努力したら、私達自身の人間的成長を大きく促すことになるでしょう。話をするということは、簡単な心構えさえあれば（例えばはつきり発音するか、ユーモアをとり入れるとか、とにかく人に理解してもらおうという気持）そんなにむづかしいものでもないし、時には生活を明かせるものですよ。

今も昔も大手前の伝統はよく勉強する事にあるような。しかしその伝統は、一面もつさりとした暗い伝統ともつながらつていて、

特に新入生はその傾向が強い。朝の電車の中で英語の本を開いていれば殆んど

大手前生※勉強も大切だが、もう少し清潔にしたいものだ。車内の読書も趣をかえたものを読んでもたらどうだろう。

### ちよつと言

※である。勉強をよくする気分を表わしているのだが何か追まくられた感がないでもない。又、背中や肩にふけがたまつている女性を見つけたら、大手前生と判断してもほほあたり、ズボンの折目がついていない男性を見れば、また大手前生と思つてよいぐらいだ。

# プリジストン美術館展を見て

やぶにらみの批評会

美術部 中井 晨

二月十日より三月一日迄、大丸百貨店に於てプリジストンタイヤ社長、石橋氏の蒐集された内外の作品約九〇点が展示された。美術料の方から団体の割引券が渡されたりしたので会場へ入られた諸君も多いと思うが、美術部員に感想を語つてもらつた。

○ 「僕は印象派の作品が多いと聞いて行つたんだがマネ、モネといったあたりの作品が少いもんだから一寸当てがはずれたな。」

「そういう点もあるけど、よくあれだけそろつたものだと思うね。金があるんだな。」

「あれだけでも日本にあるというのは実際貴重なものだ。いい財産だね。」

「立派な作品でもあの展示のやり方は感心しないな。一番先に思ふのは会場だ。あんまり狭すぎる。それに絵の前にガラスがあつて

見る人の顔が写つたりしてね。もう少しライトの具合を変えて反射を無くするなり、前のガラスを取つて別の方法を取るなりしてほしかったな。」

「照明の事だけけど、セザンヌの山の絵（サント・ヴィクトアール山とシャトウ・ノアル）のはひどかつたわ。色がどぎつくなつてしまつてね。プリジストン美術館で見るのと全然感じが違つて友達が言つてたけど。」

「照明が悪いと作品に気の毒だな。エーと、ツニヤツクの「港」ね、あの絵は色が抜けてしまつたのかな、一寸情なかつたね。」

「「港」というと、あゝ点描画のやつだな、僕ならあんな作品よりも風呂屋のモザイク絵の方を買うな。色があせてなかつたとしても今の僕達の感覚からいくと一寸ね。」

「君の気持も判るね、しかし彼の試みは貴重だな。印象派を語るには彼の描き方を無視出来ないからね。」

「美術の試験の後では言う事が違うね。僕はプラツクのを期待していたけど「梨」だけだつた。彼の黒つぼくてつやのあるのが好きなんだが、失望したよ。」

「白つぼい方だけけど、クールベの「雪景」は良かったな、中央に人が薪を背負つてとぼとぼと行くのには寒さが感じられるね。」

「人物でね、ポートルツクの石版はすばらしかつたわ、線が本当にきれいで。」

「人物を集めた方では「海の幸」(青木繁)のが良かった。力作だね。一九〇四年というから明治時代だね、今じやあの様な構図は良く用いられるけど、その頃は珍らしかつたんじゃないだろうか、先生に聞いて見ないとどうだか判らないけれど。」

「確かに力作だね、例のルオーの作品も相変らず盛つてあるね。彼の宗教的な所はどの作品にも有るよ。盛つてあるといつていいかどうか判らないけどピカソの「女の顔」はホホのあたりガリガリとひつかいてあつたね。あの絵の何処がいいのかなあ、僕は見るのもいやだね。」

「見るのもいやだとは言わないけれど、あんまり好きじゃないな。あれは彼の古典主義時代のらしい。だけど外の時代にはいいのはあるぜ。あの展覧会には彼の初期のものばかりだけど色々な時代のがあつたら面白かつたかも知れないな。」

「でも展覧会のポスターにはあの絵が載つていたわよ、何処かい所があるんでしよう。先生に一度お聞きしたら。」

「今職員会議中だから駄目だ。」

「動評のことかな。エーとあと原稿用紙一、二枚分のこの画集を見ながらしやべつてもらおうか。」

「モネーの「睡蓮の池」は好きだね、もやもやと描いてムード音楽的な絵だ。」

「クラシックの方に近いね。セザンヌの「静物」は20x18と小さいけれど好きだね。デューフォームしてあるけど金屏の、水さしかな、これなんかの質感はすごいよ。」

「ルノワールの「裸婦」ね。いやだわ、耽美的で。マチスの「オダリスタ」がいいわ、バックの模様が面白いし。」

「ルノワールの「裸婦」は若い者には歓迎されない様な。同じマチスの「海水着の女」を見て僕は吹き出しそうになつたね。グロだね、クラゲを連想した。しかし色はよく考へてあると思うな。」

「エトリロの作品が一点とは一寸さびしかつたね。「サンドニ風景」の右の建物の色なんかうまく組み合わせると思つた。深い青の屋根のあたり好きだね。」

「エトリロに影響を与えたといわれるシスレーの「村落」があつたのは楽しかつたよ。ゴッホの「鯨」もよかつたな。彼のマチエールはいいね。」

「シスレーの河の入つた風景が二枚程あつたけど、やわらかいタツチで描いてあつたわ、湿度がりの光が感じられるわね。」

「デュファイの水彩画は軽快だね。色に魅力は感じなかつたけど。皆あまり買つてなかつた様だけど、ドンゲンの「公園の道」も好きだね。この複製画では細かい所が判らないけど色の微妙な変化が良かつたよ、一寸軽い様だけど。ヴァイヴァフオーンが入つたモダン・ジャズの感じだね。」



強い線がスネアーで一様にリズムを刻んで行くあれだよ。

「モダン・ジャズなんか持ち出したけど、少女趣味の絵だな。」

「君とは趣味が合わない様だね。もう紙面も残り少なくなつたけど、何か言いたい事はないかな。」

「始めにも言つたけど、会場が悪かつたね。狭すぎるし入場者も多すぎるし……。」

「しかし入場料が安かつたね。画集も安いし、いい傾向だね。それから石橋さんはたしかに立派なことをしたと思ふね。」

「それにしてもすごく金がかつただらうな……。これも始めに言つたね。」

「始めから終りまで金の事を言つて、これで芸術を語るんだからね。」

(終)



## 読後感想文

『悲しみよこんにちは』

F・サガン 著

杉本与里子

わたしが、最初これを読んだのは、中学二年生の夏だった。

その時わたしは、こういうこと、つまり、あまり理性的には見えないおとなたちと、その中のひとりや、ある意味で死に至らせる少女を描くなんて、おとなをぼうとくするものだと思つた。

わたしには、経験したことのない十七才という年令を、推量することは不可能だつた。今、あと数ヶ月で十七才になるわたしは、その頃よりははるかにはつきりと、おとなのすがたを、見つめるようになっていた。

お金とひまさえあつたら、おとななんて、その多くは、たいしたことのない人間ばかりなんじゃないだらうか。時々わたしは、安っぽい、金くつまらない映画の広告ポスターをみかけて、今まで神聖視していたおとなの中には、そういう映画を求める層が、いかに多いかと思つてぞつとする。時に、彼らは、自主性に欠けた好奇心から、人の個性を、抹殺してしまふ。

恋愛感情が、人生の主旋律のようにみえる主人公たちも彼らと、大差ないのではないか。すくなくとも、インテリゲンチユアのすがたを、見つけられはしないのだ。

彼らは、後世に、何を残して行くのだろう。

セシルの愛すべき父親は、善良な快樂主義者ではないのか。彼について、下らない女との、浮気のために生きていくように、と言つたら、それは酷に過ぎるであらうか。

恋は、一種の熱病であるとも言われる。あの、アンヌという知性のある女性が、あんなにもろく、「恋をする」……フランス語では、性関係を結ぶことを、こう表現すると註釈してあつたが……ことができるのか。シ ril は、セシルが本気で彼を恋していなかつたことを、知つてはいなかつたし、アンヌもまた彼女の恋人の、虚榮的な浮気心を理解し、認めることができなかつた。そして彼の心が他方へ向けられたことが、死の、直接原因になつたというのならば、インテリであるべきそのすがたが、恋のために、破壊されてしまつたのだというのならば、アンヌには、もつと楽天的に生きられたはずだと言いたい。

恋愛は、身近なおとなたちと、そして自分自身の全ての理性の、判断の後の行動であつてほしいものだ、とわたしは思う。

しかし、人間とは、あまりにも悲しいものの名前である。わたしは今さらのように人間の不完全さを思つてみる。

他人を理解することにおいて、然り。外面と内面との、表現による矛盾において、然り。この不完全さが、ストーリーの中で人をひとり殺すことになつたと言えるだろう。現実においても、誤解やいざこざなどというものは、他人を理解しない、理解出来ないという点に、根ざしているのではないだろうか。

最近わたしは、他の人々が、いかにも多種多様な人生と、人生観をしっかりと持つていて、その人生観自体は相容れないが、それを理解し、それを認め合うことで、そのあいだにある溝が消えて行くという確信が増してきた。

人はそれが不完全であるだけに、すくなくとも他人を理解し、包容しようとする努力を怠つてはならないと思う。ストーリーの主人公たちが、もう少し自他を、多面的に考慮してみれば、あるいは、このような破局を導かずにするだかも知れない。自他を理解し、包容する努力があつたならば、全ての不快なでき事や感情を少しでもへらし、めいめいの個性を、生かして行けるのではないだろうか。

わたしが自分の生き方を、気のおけない友達などに主張している間に、徐々に、自分というものはつきりとつかみとりつつあり、それゆえに増して来るセシルの生き方への批判が、ヴァライエティに富んだ、人生そのものへの興味というか、一種、冒険心にも似た、情熱をかき立ててやまない。

『風立ちぬ』

堀辰雄 著

早川洋治

節子は、作者につき添われて、美しい自然に囲まれた、サナトリウムの療養生活に入る。単調な毎日の生活の中に二人は生の快楽を、純粋な愛情をとおして、見出していく。彼等には、お互いの心の中が、いやという程わかつていく。節子が、そんな自分の体を、彼に本当にすまなく思っているということは、彼の胸をしめつけてやまない。

いつ死ぬかわからない重体の病人との、無の中の愛のよろこびが、彼にとつては、むしろこの上もない幸福であった。節子の方は——僕には、もう幸福感というものを、超越してしまつていようと思えた。

このような、結核療養所で、死に直面している女と、附添つてゐる男の二人だけの生活という、限定された、むしろ特殊な程の設定は、『サナトリウム文学』とかいふような非難を生むぐらゐの、多少、現実を離れたような無理なところも含んでゐるだらうが、これと全く同じような生活を送つたことのある作者にとつて、生と死との問題をとりにあげるのに、この環境以外には、生まれてこなかつたの

だらう。

この狭い環境の中で、生と死と愛と幸福とを深く掘り下げて、追求している。この『狭いけれども、深い』作品に興味を抱かないものはないと思う。

彼は死を死としていないで、生の延長と考えているようだ。生があれば、必ずそこには、死がやつてくる。即、生は死への導入過程に、ほかならない、という風に考えているようだ。こう考えると、自然に、死に対する、淡々とした態度が生まれるのであろうか。

この作品が、暗い単調な生活の中で、陰うつ鈍重になりがちな要素を含んだ問題を、とりあげているのにもかかわらず、少しも、そのような感じを起させないのは、彼の、このような態度のためなのだらう。

彼は、流れるようなきれいな文章でもつて、『時のへだたり』を、とても効果的に、表現していると思う。この様な、自分の心の内面ばかりを表現した文章に、時の流れの上になつた自分、というものを、うまく生かすことは、必要なことであるし、そして、それがうまくなされていることが、この作品がよいものになつた一つの要因になつてゐるに違いない。

# 散歩 池と春夏秋冬

檜林結実（匿名）

歩くことが好きな私は、暇があるとよく一人で散歩に出る。目的は帝塚山にある万代池（まんだいけ）。往復の道は、住宅地の、一年中静まりかえっている一本道。あるいは南海、上町線に沿った舗装道路。

☆

☆

春の池の記憶が、そろそろ呼びさまされようとしている。池をとり囲むしだれ柳が、きらめく水滴のように一面に早春の緑の粒を見せて風にゆれ、暁咲きの紅梅、白梅がまだ花のなごりを残すころ、桜があちらこちらでぼうつとした薄くれないに、ははえみ始めるのだ。

ある春休みに一週間程、私はそのコース（多分三キロと少し）を近所のやんちや坊主共と、毎朝七時からマラソンをしたことがある。私達は、ひやりとする春の朝の空気を胸いっぱい吹いて走った。池のふちでは沢山の太公望や犬をつれたいろんな年令のカブル（二人づれ、夫婦や兄妹や）が私達を見、そして道を譲ってくれた。時としてはかき上げられた藪が、土手をおおっていた。その間にはタニシや、殆んど透明な小エビがうごめいているのを知つ

ている彼らは、「昼から又取りに来う。」と走りながら相談する。明るい春の休みなんだもの。自然のいぶきに浸つて、心ゆくまでその解放感を楽しみたいんだもの。桜の花びらが散りかかり、もうすぐ池の一周を終るといふ一種の安心感が心に湧き始める時、みんなの鼻の頭に汗がふき出す。帰りの道端には紫につつましく、すみれが咲いている。雀はとうから勝ち誇つたようにおしやべりに余念のない、いかにも平和な情景の中では、私達の若い心と肉体が息をはずませる。ある春の思い出だ。

☆

☆

夏休みになると、私は又池へ行く。周囲も中の二つ三つの島も、深く緑におおわれてボートが浮ぶ。

案外さわやかなある午後、友人と私は絵をかきに行つた。二人は仲良く並んで座り、中の島をかくのに夢中だつたのだが、しばらくして私は、ギョツとして、投げ出した足の上を眺めた。何か私の足に触れたのは、まぎれもなく、桜の枝から転落して来た小さな毛虫であつた。こわごわ彼女に頼むと、彼女は黙つて絵筆の先でその毛虫をはねとばしてくれた。だから今になつても、万代池の桜を見ると私は毛虫を思い出す。

それとは別なある早朝四時頃、そつと家をぬけ出すと、私は池へ足を向けた。まだ辺りは薄暗く、それでもせみがもうやかましく鳴き始めていた。池の北側にある白や紫の

花をつけた藤棚の下で、私は一老夫人と話を始めたのだつた。もの静かな、気品のある白髪の彼女は、「随分早いですね。」と話しかけられた。私は、散歩が好きなので、と答え、「あなたもお早いですね。」と問いを返した。毎朝早くの散歩は、彼女の健康法の日課なのだそうだ。名古屋の工大に行っている孫息子のことを考えていられたらしいので、私は彼女と学校のことなんかを三十分近くしゃべって別れた。もちろん、互いの名は知りようがないが、彼女は、私が立ち上つて別れを告げた時、おだやかに言われた。「……じゃ、しつかり勉強して下さいね。」

古代には水のある場所に人々が集まつて生活を営み、共に語り共に楽しんで、恋の生まれたのもその泉、その川のほとりであつたという。仁徳朝の地図の上に見い出せるこの池では、すでにいくつもの恋が生まれ、私達のように互いに見知らない女どもの会話が、交されて来たことであるうか。

☆

☆

秋はいろいろな学校の行事に追われて忙がしかつたが、昨年の秋、仲秋の明月が東に高くなつて来ると、私は池へ急いだ。満月の夜の美しさを、自分を知っている人達（家族）から離れたところで味わつてみたいという、一種アブノーマルな心理があつた。そのせいでらうか。池の中央を島を越えて南北に走る橋の上で、月をめでている二家族の

間を、それが人間であるかどうかということさえ気付かないように通り過ぎたのだが、確かに、日や木々が池の底深くでゆれているように見え、水の中にはない。実際の池や木々は、それも又美しかつた。まるで月と、水の中のそれ以外は全く、色彩のない影絵のパノラマを展開したように美しかつた。しかし、なぜかそれは冷たい美、暖かい満足感を伴わない美でしかなかつた。それでは、美とは言えないのだらうか。アブノーマルな心の状態は、美への思索をさえぎるといふのか。ただ、私が、そこにあつた美をくみつくせなかつたにすぎないのか。

☆

☆

冬の池は、特に夕方などには、突に淋しい荒涼とした姿をあからさまにする。夕日が冬枯れた梢ごしに水面のさざ波に赤く燃え広がるのを、中の島から南へ渡る橋の中央に立つて西向きに眺めると、対岸の柳や桜が、逆光線に浮きあがつてくる。モザイクのように彩られた雲のもとで、こがらしに身をさらすと、それ迄の泣きたい心や寒さの震えも忘れて、もう茫然と立ちつくす。その景色は、かなしい程真実な、純粹なもののように思える。

もう春だ。メダカがむれて泳ぎ始める頃だ。正しい意味で自由とアドヴァイスを与えられた、健やかな子供のよう、適度にその良さを助長すべく手を加えられた自然は、どの季節もやはり、正しく誠実な姿であると私は思う。

左のグラフから乾電池用の $Z_n$ を用いる時にくらべて市販の $Z_n$ を用いる時の方が $H_2$ の発生が早く、市販の $Z_n$ がかなり不純物を含むことを示している。

### 3. 結 論

以上、極めて簡単に僕達の実験のあらましをのべたが、この実験の結果、判つたことは、

1. 市販の $Z_n$ 中には $Fe$ や $Pb$ のような金属が不純物として含まれていること。
2. その量は約0.02 %程であること。

3. それによつて $H_2$ の発生の速さが、かなり影響されていること。

などである。

この実験は特別な装置を用いたものでもなく、また実験した事柄も平凡なことであつたが、一つの新しい事実を見つけることができ嬉しかつた。そしてこのような身近なことから研究のテーマを見出したことによつて入賞することができたのである。

祝 御入学・御進学

制服の御用命は

大手前高校御指定の

ノ ム ラ へ

大阪市北区大工町21

TEL (35) 3450

近代人のメガネ

コンタクト・レンズ

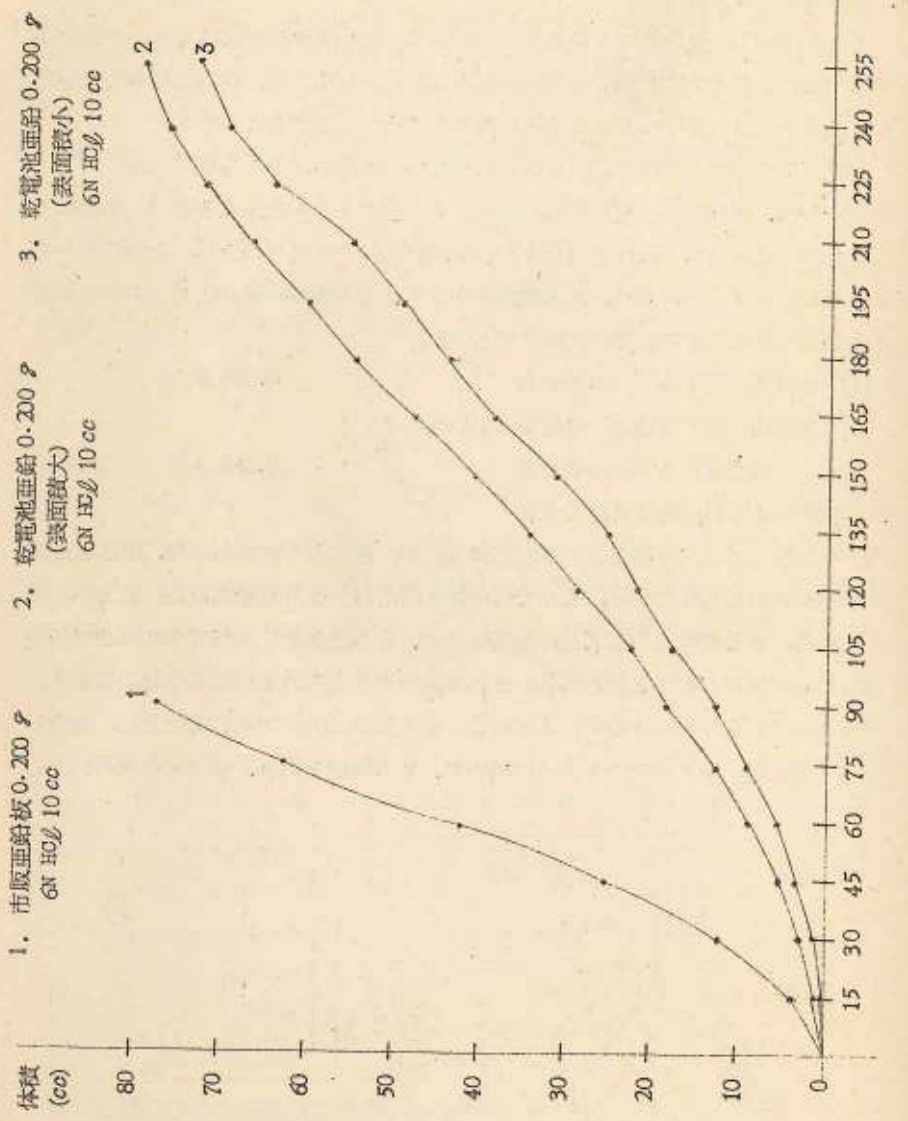


説明書進呈



大阪コンタクト・レンズ研究所

市電 谷六電停北の辻東へ直ぐ TEL大阪 (94) 2765・2166



(I) 市販の  $Zn$  粒や  $Zn$  板には、不純物として  $Fe$  と  $Pb$  が含まれ、その他に  $Cd$  なども微量に存在する。

(II) 炭素の存在はみとめられない。

#### ロ、不純物の定量分析

不純分が何であるかということが判つたので、次にはそれがどのくらいの量存在するかということであるがこの実験は極めてむずかしく、 $Pb$  の方は見事失敗したのであるが、 $Fe$  だけはうまく結果が出たのでそれを記すことにする。

実験のやり方は、やはり二通りの方法を行い、両方の結果から判定した。

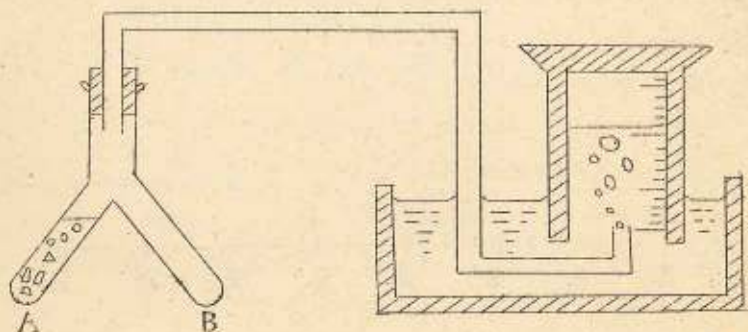
その一つは、試料の  $Zn$  をとかし、過マンガン酸カリウムを加えると  $Fe$  があればこの色がきえるので、それを利用する方法で、他の一つはやはり  $Zn$  を酸にとかし、これを細いガラス管に並べ、ある試薬を加えて、その色の变化から  $Fe$  の量を判定する方法である。その結果は次の様であつた。

(I) 市販  $Zn$  板中の  $Fe$  の含有量 0.020 %

(II) 市販  $Zn$  粒 (普通  $H_2$  の発生に用いるもの)  
に含まれる  $Fe$  の含有量 0.058 %

#### ハ、不純物による $H_2$ 発生速度の変化

$Zn$  をとくして  $H_2$  を発生させる反応は  $Zn$  が、むしろ不純である程、反応速度が大きいことが知られている。それで略純粋と考えられる乾電池用の  $Zn$  板と不純物を含む  $Zn$  とを酸にとくして  $H_2$  を発生させ、その速さをくらべてみれば逆に不純物の存在の様子が判ると思われる。それで次のような実験を行つてみたのである。実験は次のような装置を用い、A部に  $Zn$  をB部に  $HCl$  を入れて栓をし、混合して発生する  $H_2$  をメスシリンダーに集めて、その体積を測り、グラフを求めた。





毎年読売新聞社では学生科学科というものを募集し、広く中学、高校生の科学研究の中から優秀なものを表彰しているが、以下のレポートは昨年本校理研部が応募し、四位に入選して大阪市教育委員会賞を得たものの概要である。

### 1. 研究のきっかけ

Zn に  $\text{H}_2\text{SO}_4$  を加えて  $\text{H}_2$  を発生させる時、Zn がとけて行くにつれて、あとに黒い物質が浮いてき、最後までとけずに残ることは、一寸注意深く実験する人であれば誰でも気付いていることと思う。しかしこれが何であるかはあまりしらべた人はいないようである。

先生におききすると炭素だろうということであつたが、それをたしかめようと思つて  $\text{HNO}_3$  を加えてみたら皆きれいにとけてしまった。炭素だつたらとけないはずである。それで僕達はおもつと、これについてくわしくしらべてみようと思ひ、これについて研究したのである。

### 2. 実験報告

実験のやり方は次のようにした。

先ず、三年生の部員が、この不純物の分析を担当し、一年生が不純物によつて  $\text{H}_2$  の発生の方がどれたけ速うかをしらべ、両方で不純物が何であるかということと、その量を測ることにしたのである。以下にその実験について記すことにする。

#### イ. 不純物の定性分析

先ず不純物が何であるかということであるが Zn を酸にとかして、いろいろの薬品を加えて行き、その反応の様子から不純物を推定する方法と、酸にとかした溶液を濾紙にしみ込ませておき薬品を霧吹きでふきかけて濾紙が変色する様子から不純物の存在をたしかめる方法（ペーパー・クロマトグラフ法）とを平行して行つて両者の結果から判定した。

なお試料としてしらべてみた Zn は次の通りである。

1. 乾電池に使われている Zn 板
2. 市販の水素発生用の Zn 粒
3. 市販の Zn 板

この実験により、次のようなことがわかつた。

(I) 乾電池に用いられている Zn は極めて純粋で、殆んど不純部を含んでいない。

of the fact.---I hope he'll live with the villagers, too.

(He disappears and the curtain is opened. There is a small, shabby cabin on the right side and Red knocks at the door, but there's no sign of the blue ogre.)

O: (In a loud voice) Blue, I've come to see you! Hello, Blue, please open the door! ---Why don't you answer me?---What's happened? What's the matter? (He knocks at the door again, when he notices a letter.)

O: Oh, a letter, here's a letter!  
(He takes it and unseal. Blue's voice quietly comes to be heard.)

B: My dearest red. You may be angry with me to find I'm out.---That day, you must have been surprised when I began to act violently to the villagers and even to you. But I could not help doing that. There was no other means but that. Please let me apologize you, and I know you will, for you did come here now.---I'm sure that you are passing happy days with that villagers. That's quite O.K. That was my long wish: And I'll be away from you for a while, for fear of disturbing your happy life. ---Well, be careful of your health be happy and good luck to you! Good bye! Your truly. Blue.  
(The voice becomes weaker little by little, chorus becoming louder. Red is crying taking firm hold of the letter.)

- kicks him roughly.)
- O: (holding his back) Stop, you fool, I say!
- B: (Pushing him away) Get away, and mind your own business, you coward!
- O: Are you in earnest, Blue, indeed are you? (Again he tries to hold his hands.)
- B: Do you mean to pick a quarrel with me? (They two begin fighting.)
- B: (Struck down) Ouch!.... Sorry, I was very sorry. Really I apologize you, I'll never do any harm to them any longer, sorry! (Saying so, runs away holding his head.)
- O: (To the villagers) Don't be afraid of me---Now you're out of danger.
- V: (Feeling relieved, but somewhat doubting) Oh, thank God!
- W1: (Out of breath) Thank you very much. We're Really grateful to you.
- O: Got any hurt?
- W1: No, not at all. (to the villagers) He turned out to be kind and gentle after all.
- W3: Our red ogre, please allow us. We all believed you brutal and cruel like that blue one.
- V: (Severely) Please, allow us! Please forgive us!
- O: Oh, don't thank me, don't be grateful to me. It's I that am to blame, not you.  
(There appears W2.)
- W2: Hya! the ogre! (Surprised, cannot find his legs.)
- F2: No, no, he never does any harm to you. He is the kindest ogre.
- W2: Oh, is that true. (Stands up.) I'm glad to hear that.
- F1: Let's dance in the honour of our red ogre.
- V: Yes, let's dance, let's sing for our ogre!  
(Curtain)
- (Red appears before the curtain.)
- O: I'm going to my dearest friend's. But I wonder why on earth Blue became so furious to the villagers the other day.---Why indeed?---He used to be very kind and gentle to anyone. I'll go and ask him

---By the way, ther's going to be a festival in the village. Let's go and enjoy ourselves there, and you'll think of it otherwise.

R: But I think they'll be afraid of us.

B: Oh, it's no matter. Now, let's go. (He begins to walk, and the red follows him unwillingly. Soon the villagers come out with instruments in their hands, singing merry song all together.)

N: Today, the village festival is going to be held, and it's the happiest and most joyful day in a year for them.

F1: We had a good harvest this year. Fortune was entirely on the side of us, isn't it?

F2: Yes, isn't it. So much rice that I think we have to build up another granary.

W3: Anyway, we're quite happy, today. Let's go and have a good time.

F3: And pass the whole night in dancing and singing. (Suddenly Blue appears sneaking.)

B: Dear me, you seem to have something delightfull!

V: (Surprised) Oh, Heavens! (Pettrilled with terror, can't stand up and creep about trying to escape him in vain on all fours.)

B: Hmm, village festival you have, today?

V: Please, please help us, dear ogre! We'll give you whatever you want. For God's sake please forgive us!

B: You give me whatever I want? Ha, ha, ha... I want nothing. Today, I'm here to storm about your village, for I've been dull these days for want of exercise. Ha, ha, ha...!

V: Oh, please for Mercy's sake! (The ogre throws every sickle and hoe away, seizing villagers, knocks down. Hearing the screams and shouts, Red runs out.)

R: Hey, Blue. What on earth are you doing! Stop, stop your doing!

B: What? Stop doing that? I can't. This is my most favourite business. Ha! ha! ha!.....! (The next moment, he catches a villager by the neck and

gentle it tries to---" Oh, unreasonable! I've made that tea-house only for them to rest in,--- only as means to be friendly with them. When making it, my heart would swell up to think of their joyful faces. I was more than glad to imagine them rest there peacefully For their pleasure---for the sake of their joy, I've made it.---Yet, they would not trust me, they would not believe what ever I did. Oh! what shall I do?--- When I left our village to join another world, the world of human-beings, mother, I remember you encouraged me with all your heart. Tell me mother, what should I do? (His strength is gone little by little, and at last he sinks down on the road. The light fades out completely.)--pause-- (The light comes up again. No one on the stage Bright and cheerful song comes to be heard.)

N: Listen! A cheerful song is heard in the distance, isn't it? Who do you think is singing that song? ---I'll let you know. He is blue-skinned ogre, the best friend of Red's, and now coming to see how his friend is getting along.

Blue: Hey, I'm a Blue. I wonder how the red chap is. (Finding Red) Oh, Red, Red! (Red trudges out of the downstage)

B: Hi Red, I've not seen you for a long time---How have you been?

R: ....

B: You look very pale. What's the matter with you? ---Is anything wrong?

R: Yes.

B: (Finding a rucksack on his back) Oh, you have a rucksack on your back! Indeed, what on earth is the matter with you, tell me?

R: ....To tell the truth, I was disappointed to find them so afraid and hateful of me however hard I might try, simply because I'm an ogre. So. Now I'm going to return home.

B: What?---Nonsense! Take it easy, my friend! What is the use of worrying yourself about such a trifle?



today. I think we must go and out them as early as tomorrow.

F3: Our hard work all the summer was not in vain.

F1: Ha, ha, ha...., at this rate, we'll be able to hold a splendid festival, won't we? (Noticing the board) What's that?

F2.3: (Surprised) Oh, there's a notice-board! (Each of them looks it over, and gazes at one another in the face unbelievably. Just then woodcutters appear.)

W2: What are you doing there?

F1: Look, Unzu! A board! Here's a notice-board!

W1: (Reading it over) But I think this is strange.

W2: Yes, that's strange!

W1: I'm afraid that the ogre's going to deceive us and decoy us out to this tea-house, and ...eat us up.

F1.2.3: Oh, Lord, Lord!

W3: (Shivering) The day before yesterday, when, ... when we....happened to....

W2: (Interrupting him.) A couple of days ago, when we three happened to pass here in the evening, the red ogre appeared from behind that tree and --- and can you imagine, he rushed towards us furiously.

F: Oh, my God!

F1: Is that the absolute truth?

W: An ogre is an ogre, however gentle it tries to appear.

F2: Hey, Unzu, let's go home, or the ogre may appear at any....(Just then, the ogre, who has been their back unnoticed, speaks to them.)

R: I say, all of you! I never mean to do such a ---

A: Hya! An ogre! Help! Help!

(The ogre is left alone absent-mindedly, and the light fades out quickly leaving him alone in its focus. A humming as if arising from sorrow and sympathy with his hard lot comes to be heard quietly.)

R: Why, why do they fear me like that? "An ogre is an ogre however gentle it tries to appear." they said. They said. "An ogre is an ogre however

- N: Yet, the red ogre belived that the villagers would surely, surely understand his sad heart some day, his broken heart some day. And he thought over and over all day long and all night long how to be friendly w th the villagers, taking no sleep but an nap, until at last he hit on a wonderful idea. What kind of an idea do you think he's got? (The ogre is walking round the stage folding his arms, when the light comes up.)
- O: (Delighted) Oh, now I've got it! I'll make a tea-house. Yes! I'll build a tea-house, for them to rest in during the intervals of their work....They must be delighted to have tea, delicious cakes and lunches in it. Oh! now I'm successful, now I can be friendly with them. (He goes out quite in a ecstasy.)
- N: Yes, his idea was, as you see, to make a tea-house for the villagers. Let's see, there he comes with something on his shoulder. (The ogre appears with a notice board and writes on it as follows.) 'The tea-house. Tea and refreshments shall be served for all who come. Red.
- O: Now, all is ready. (Having written up he reads it over again and erects it against a tree.) Now, I'll go and waite for the villagers. (He skips out.)
- N: What a joyful and a delightful look of his you did see now! I've never seen him so happy and so cheerful....Yesterday, I saw him work very hard singing songs, gathering nuts baking cakes, and making a tea-house from morning till night. And now, he seems to be very impatient for the villagers to come....Oh, there come villagers. Let's see how everything'll go on. (Farmers come out.)
- F1: I hope we'll have a fine harvest of rice this year.
- F2: Yes; the rice crop was so ripe it was almost ahedding it's grain when I went to our field

- N: The ogre was a gentle and kind-hearted one, though he had the biggest body and the fiercest looks in the world....He used to say to himself, how splendid it would be to be friendly with the villagers who lived at the foot of the mountain. (The red ogre comes out from the downstage.)
- Red: I'm an ogre. I'm a gentle ogre though big. I want to be friendly with those villagers leading a happy and a peaceful life in that village. But somehow, to my disappointment, they always run away at the sight of me. What shall I do, you dear audience. ..Oh my! there come villagers! (Hearing laughing voices in the distance, the ogre immediately hides behind a tree.)
- Woodcutter: We've worked a great deal today, haven't we? It's already dark all over.
- W2: Yes, you're right. It's really grown dark.
- W3: Anyhow, let's hurry on our way, for they say here an ogre appears frequently.
- W1: Yes, they say an ogre appears here, and----
- W2: (Interrupting him) Is that, is that true?
- W3: Yes And chasing any man if he happens to meet---
- W1: Seizes him to eat up.
- W2: Oh, my God! Hey, let's hurry, or he may....
- W3: Stop shouting, you shivering coward! (But he himself is shivering unconsciously. No sooner has he spoken, than the ogre who has secretly been behind the tree speaks to them.)
- O: I say! I never do such a thing! I'm, I'm---
- W: (Looking back and surprised) Oh, heavens. An ogre! An ogre! (Throwing axes away and shouting they rushes out in terror. The ogre is standing absent-mindedly. A sorrowful song comes to be heard.)
- O: Alas! why do they fear me like that when I never mean any harm, I can't understand?.... I don't know what to do....But I think I'll try to the end. (He sits on a stone.)



# A CRIED RED OGRE

これは、昨年クラブ研究発表会のためにE・S・S  
部員全員の力によつて創作され、演劇部をしのぐ程の  
大成功を取めた英語劇の脚本である。我々はここに、  
いわば全部員の努力の結晶を、諸君に見て頂く機会を  
得て、喜びに堪えない。

## CHARACTERS

A RED OGRE NAMED 'RED'  
A BLUE OGRE NAMED 'BLUE'  
VILLAGERS  
WOODCUTTERS (1.2.3.)  
FARMERS (1.2.3.)

----- o -----  
A NARRATOR

(A beautiful quiet song is heard in the distance.)

Narrator: Long long ago, I've forgotten how long ago it was, there was a small and shabby cabin in the depths of a mountain. Who do you suppose there lived in it? A wolf? No. Then a bear? No, there was not a bear, either.....In fact, it was an ogre that lived in that cabin. He was a lonely, big and red ogre. (The song grows a little louder. The curtain is opened.)

## ◆ 編集後期 ◆

こういう自治会、クラブの総合雑誌をつくるということ  
は私達役員すべてが未経験のことであり、試験とも重なり  
たりして大変いそがしくつらかつたが、楽しく記事集めや  
編集をやつた、本校でも四・五年前には自治会の記事のみ  
を扱つた雑誌もあつたのだが、このようなものはじめて  
の試みである。

今後は、自治会と文化系クラブのみを取り扱つていくつも  
りであるが、各クラブの特色も大いに發揮されて興味ある  
雑誌とならう。その点、今後自治会役員とされる人々の  
手腕を大きく期待している。そしてこの雑誌がその題目  
「Spring」のとうりに、「春」のように生々とした「泉」  
のごとく新鮮で「躍動」のように力強いものとなることを  
願う。

新入生諸君!!この創刊号は特に君達のためにつくられた  
ものでありますので、よく活用されて有意義な高校生活を  
送られるための手引書として下さい。

最後に雑誌創刊にヒントを与えて下さつた高津高校自治  
会と、表紙をはじめいろいろとお世話になつた美術部の原  
田美智代さんに心より感謝いたします。

発行所 大手前高校自治会

発行責任者 宮崎重利

編集者 横田捷宏 山口高弘  
吉田篤彦

印刷所 大阪市天王寺区真法院町九一

富士印刷社

電話 (77) 三八六二



Michiyo.H